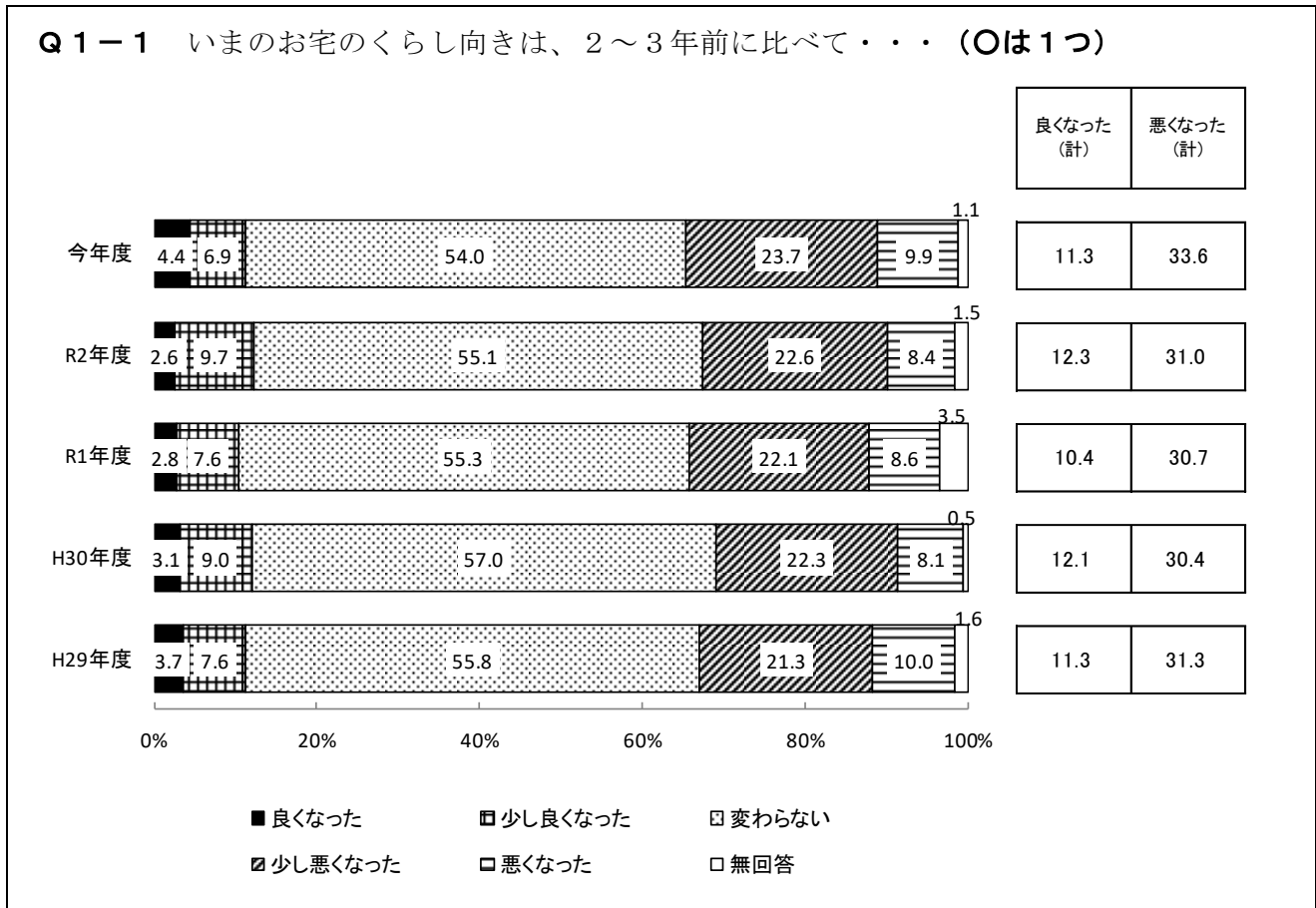


Ⅱ. 調査結果

1. 県民の生活実感

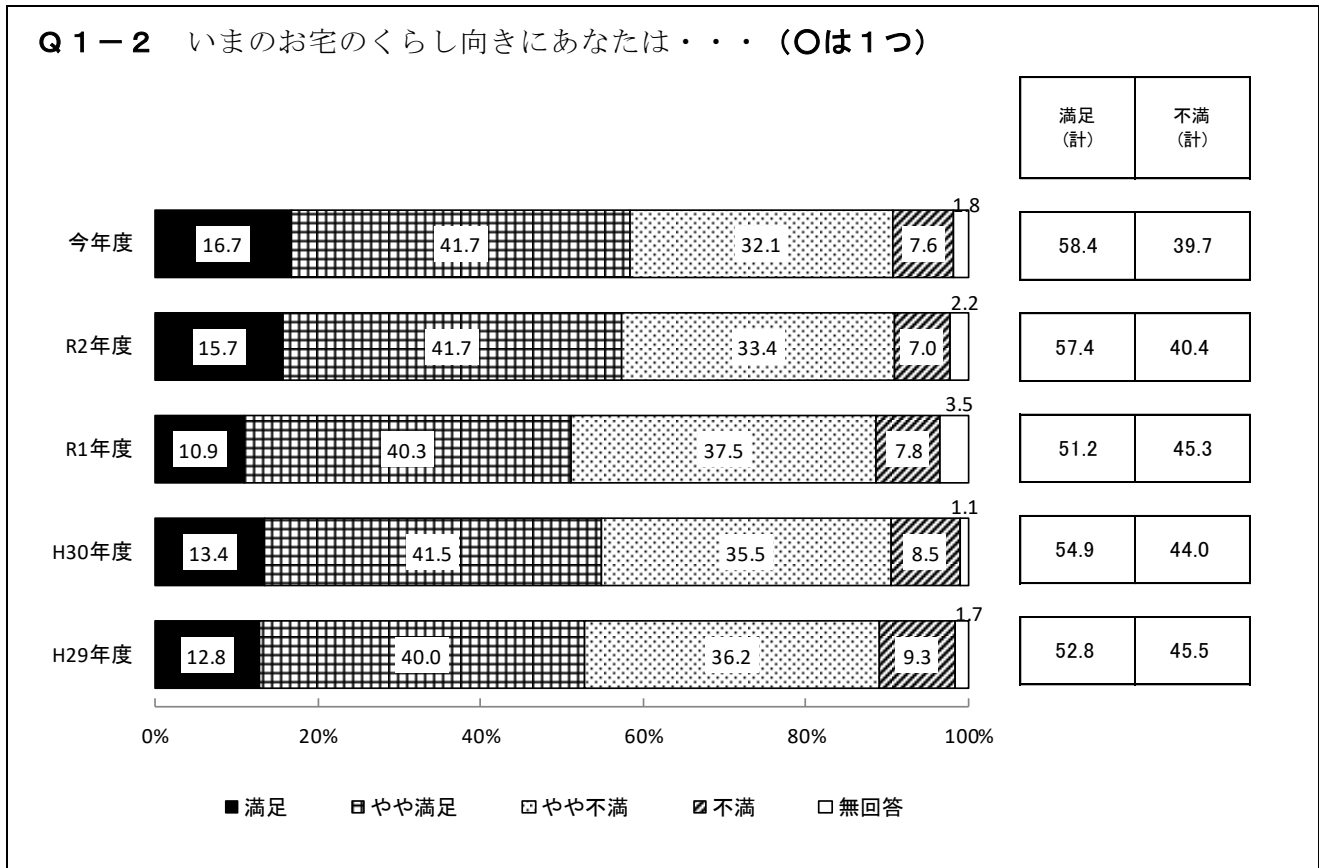
1-1. 暮らし向きの変化



2～3年前に比べたくらし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』が11.3%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』が33.6%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『良くなった(計)』は1割強、『悪くなった(計)』は3割強で推移している。

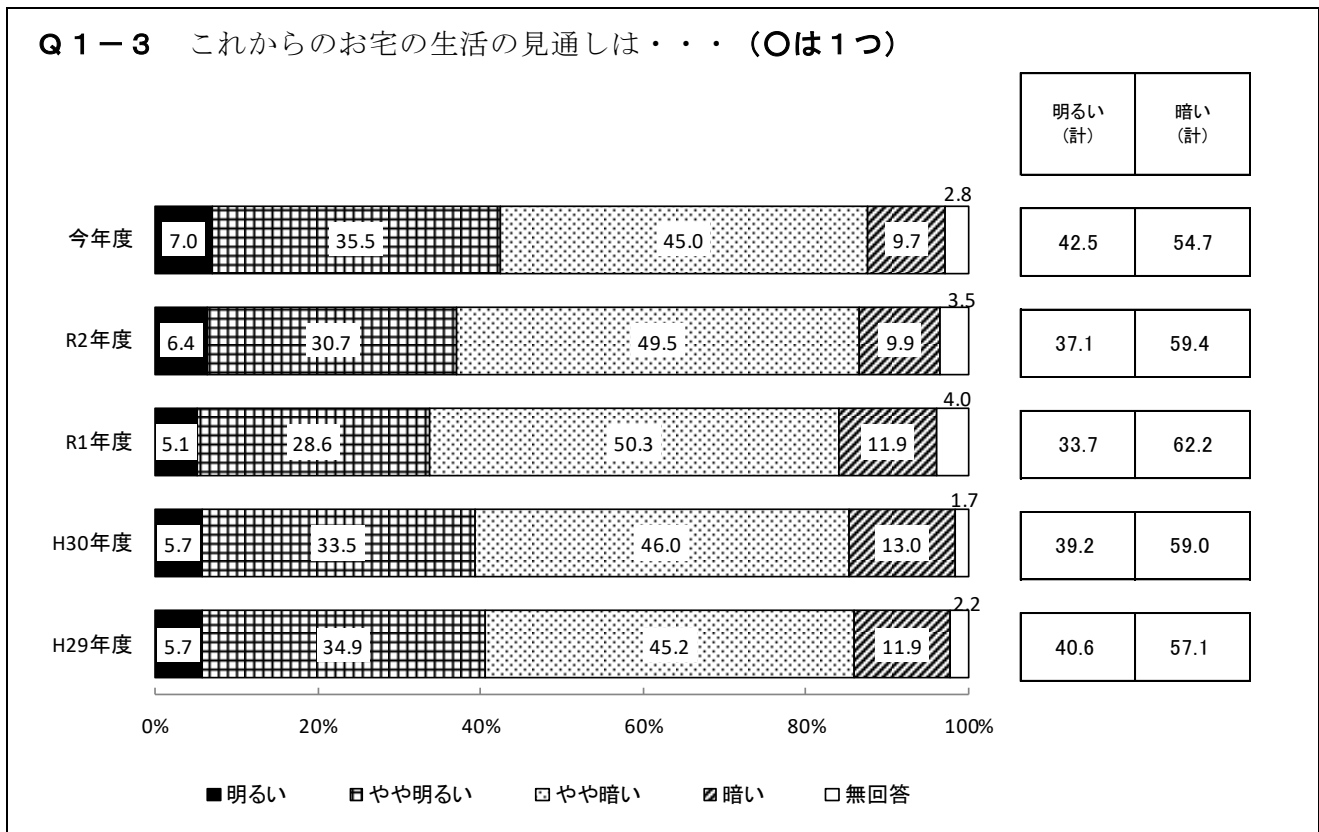
1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』が 58.4%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満 (計)』が 39.7%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『満足 (計)』は5割超、『不満 (計)』は4割前後で推移している。

1-3. 今後の生活の見通し

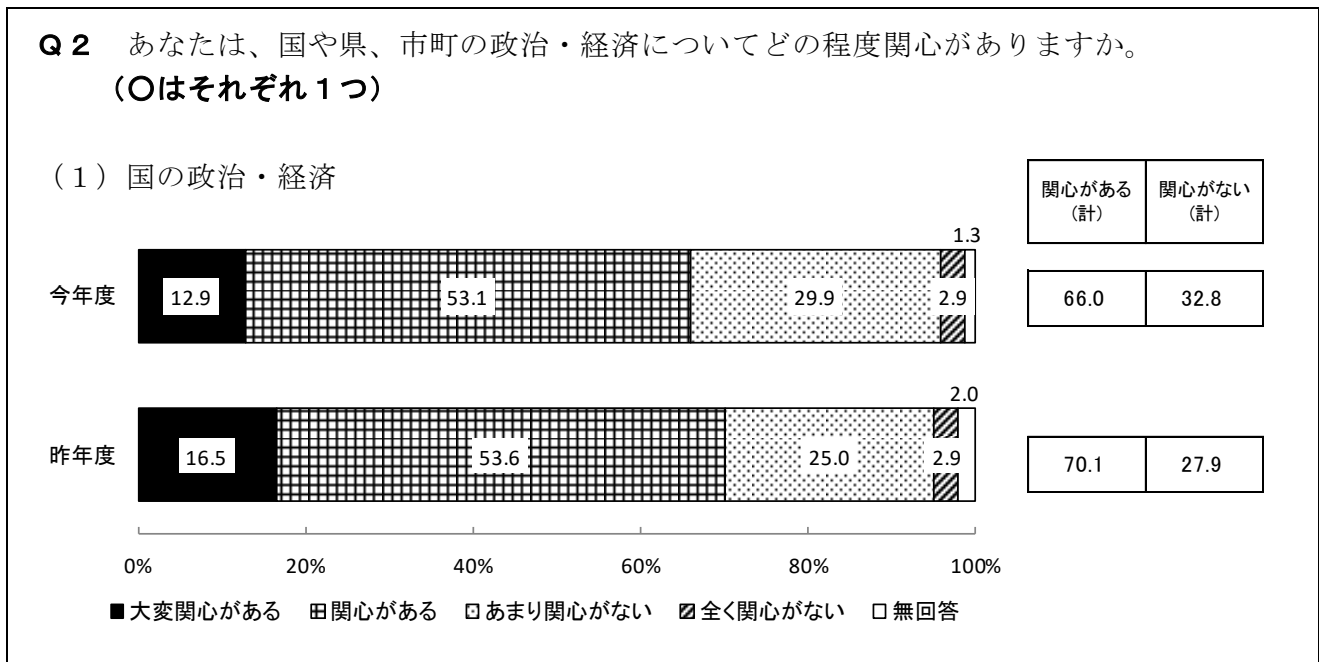


今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』が42.5%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』が54.7%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『明るい (計)』は3割強から4割強、『暗い (計)』は5割半ばから6割強で推移している。

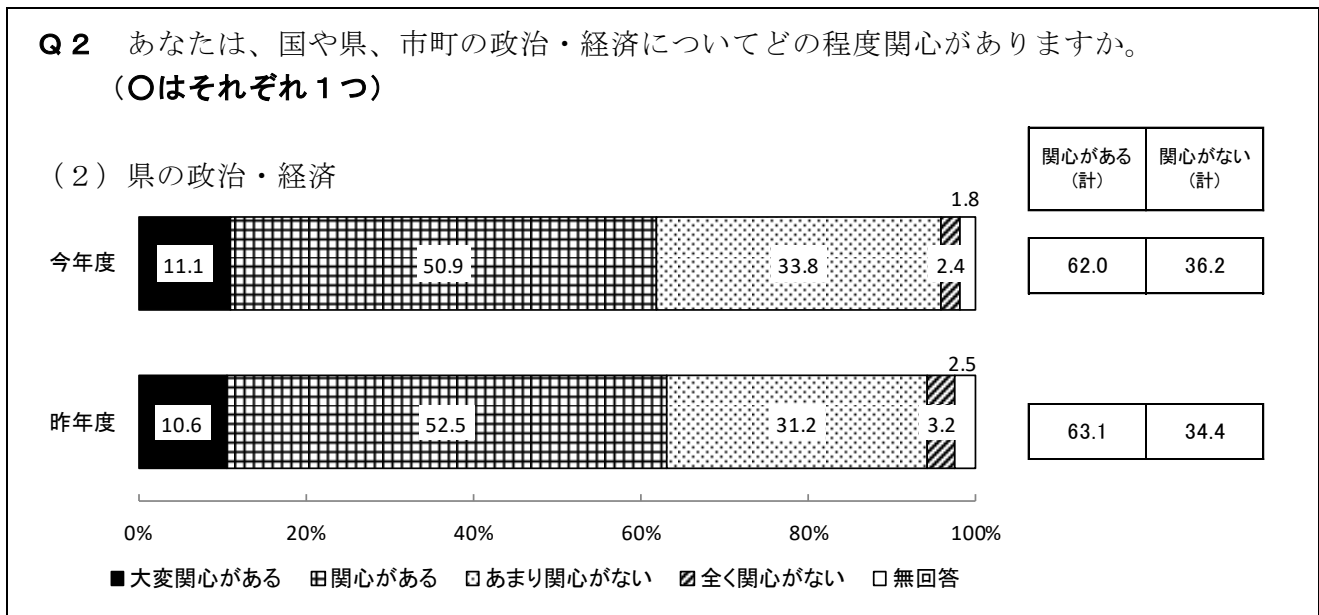
2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心



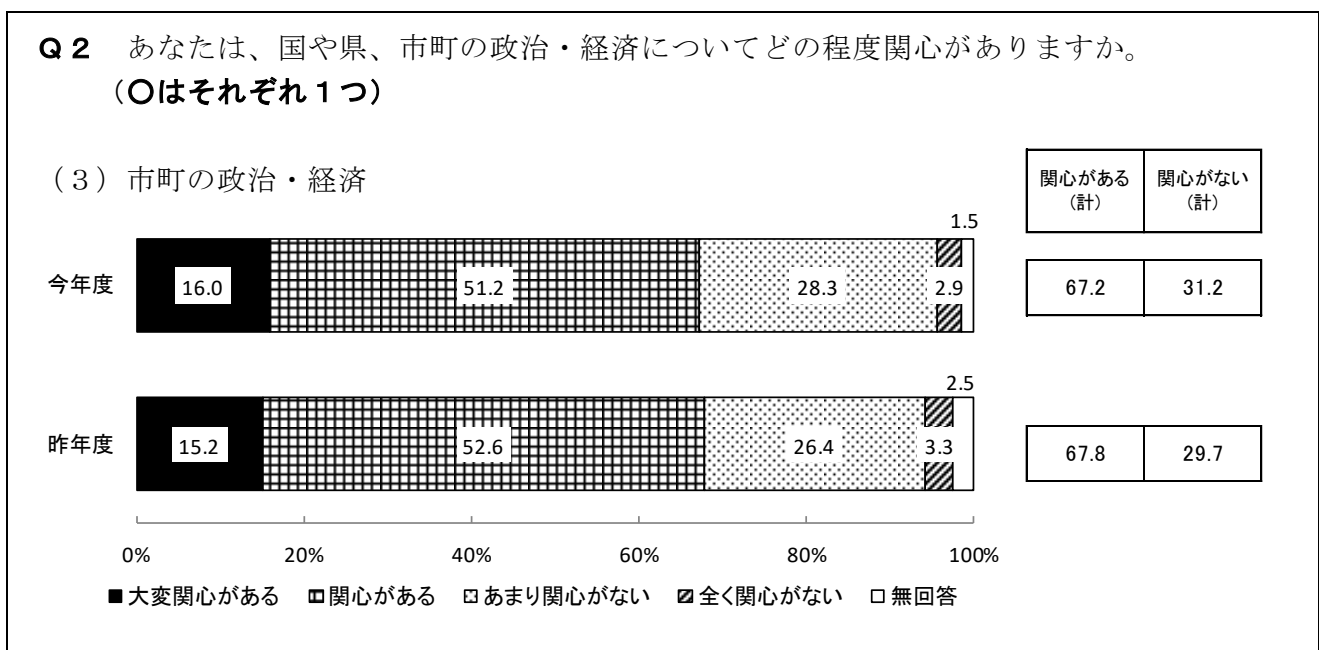
国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が66.0%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が32.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は4.1ポイント低下、『関心がない(計)』は4.9ポイント上昇している。

2-2. 県の政治や経済への関心



県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 62.0%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 36.2%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.1 ポイント低下、『関心がない (計)』は 1.8 ポイント上昇している。

2-3. 市町の政治や経済への関心

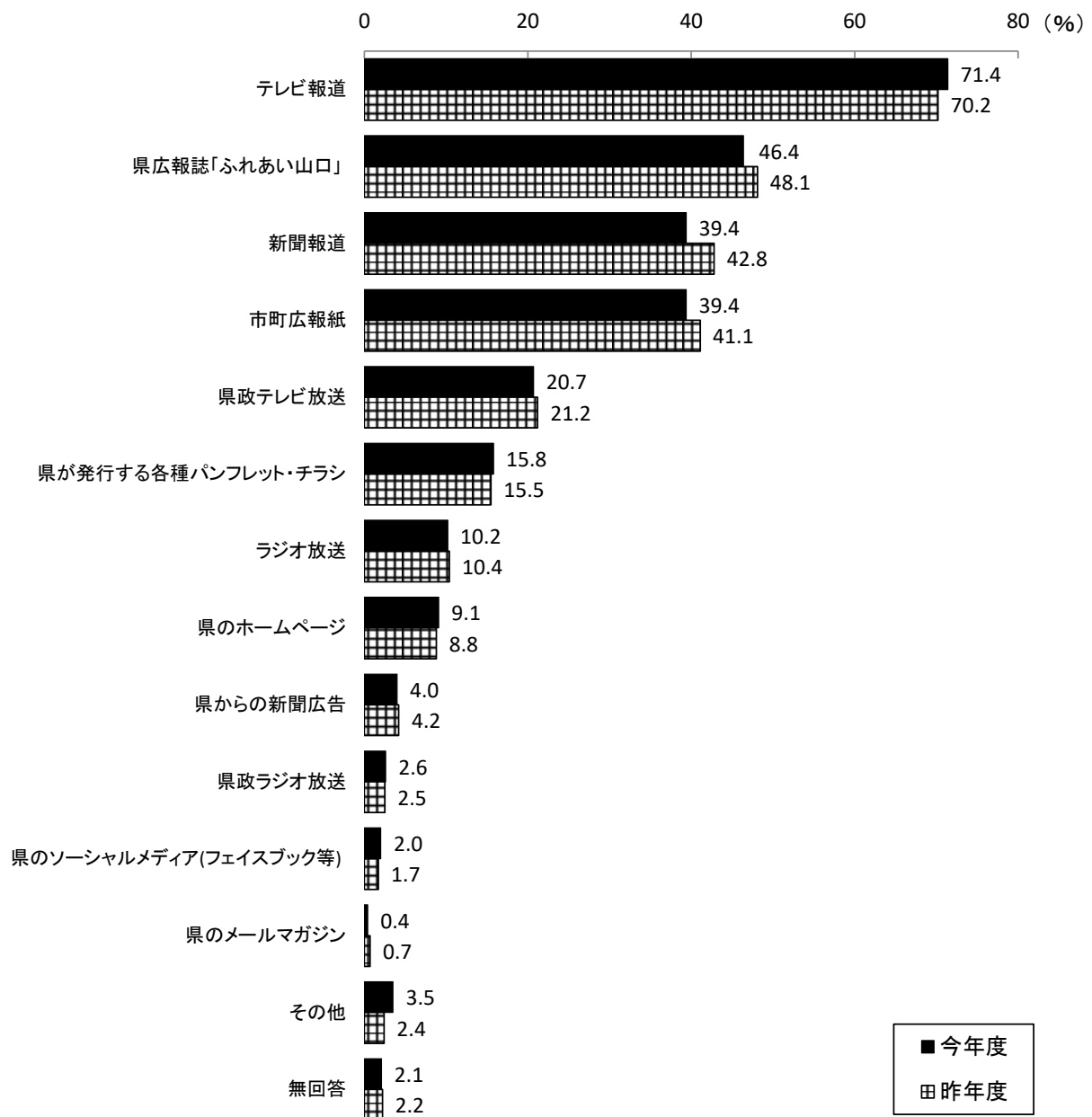


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 67.2%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 31.2%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 0.6 ポイント低下、『関心がない (計)』は 1.5 ポイント上昇している。

3. 県が行う広報の認知等

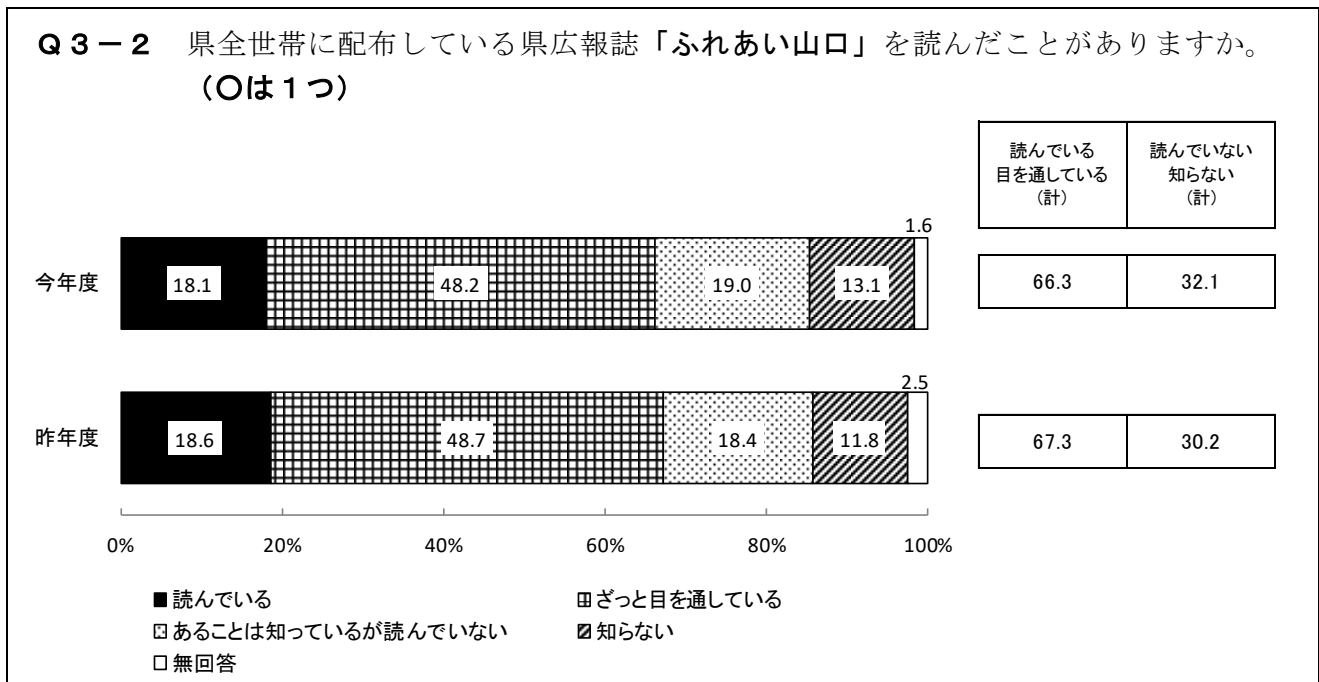
3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が71.4%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が46.4%、「新聞報道」及び「市町広報紙」がいずれも39.4%、「県政テレビ放送」が20.7%、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」が15.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「県広報誌『ふれあい山口』」は1.7ポイント低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している（計）』は66.3%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない（計）』は32.1%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している（計）』は1.0ポイント低下、『読んでいない・知らない（計）』は1.9ポイント上昇している。

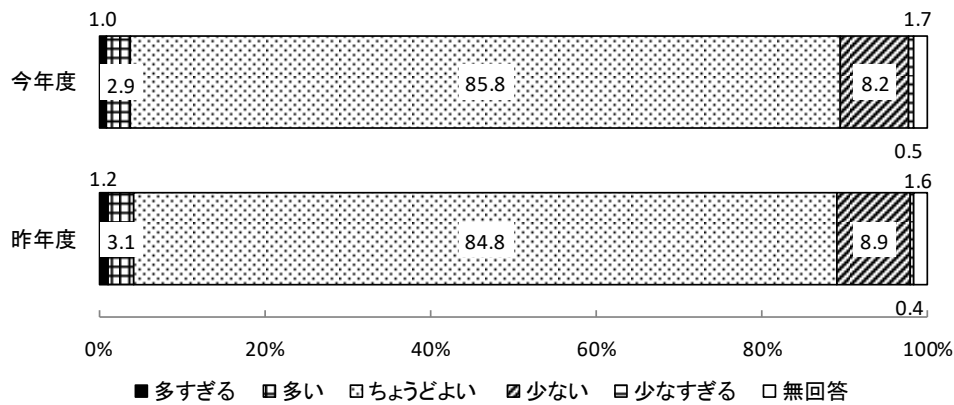
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=1,083)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

(1) 発行回数 (年4回)

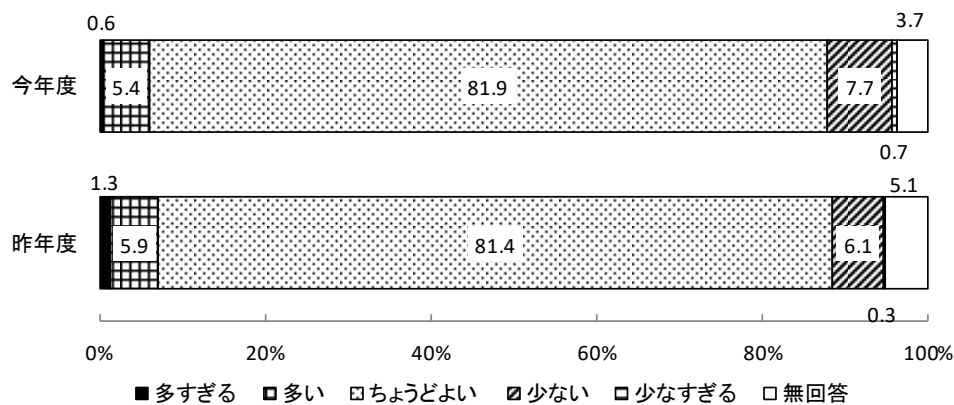


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

3.9	8.7
-----	-----

4.3	9.3
-----	-----

(2) 各号の情報量 (年2回：12ページ 年2回：8ページ)

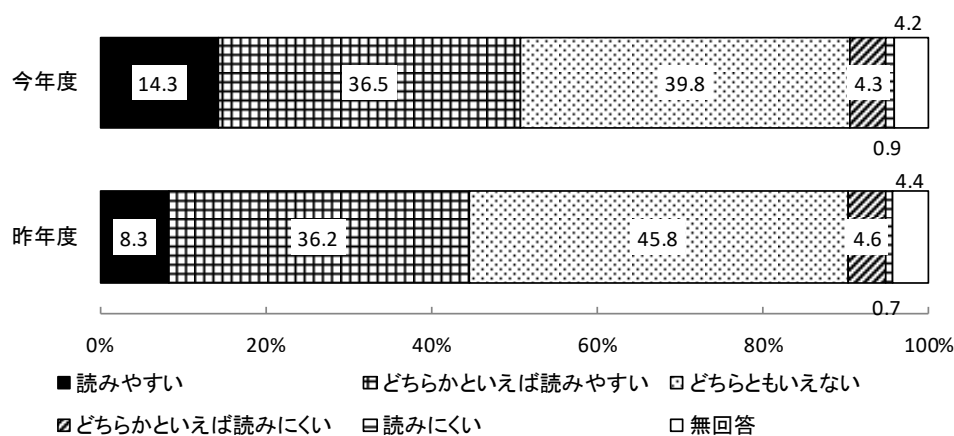


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

6.0	8.4
-----	-----

7.2	6.4
-----	-----

(3) 誌面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
--------------	--------------

50.8	5.2
------	-----

44.5	5.3
------	-----

Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が85.8%と最も多く、情報量については「ちょうどよい」が81.9%と最も多くなっている。昨年度と比較すると、発行回数が「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない(計)』は0.6ポイント低下、情報量が「少ない」と「少

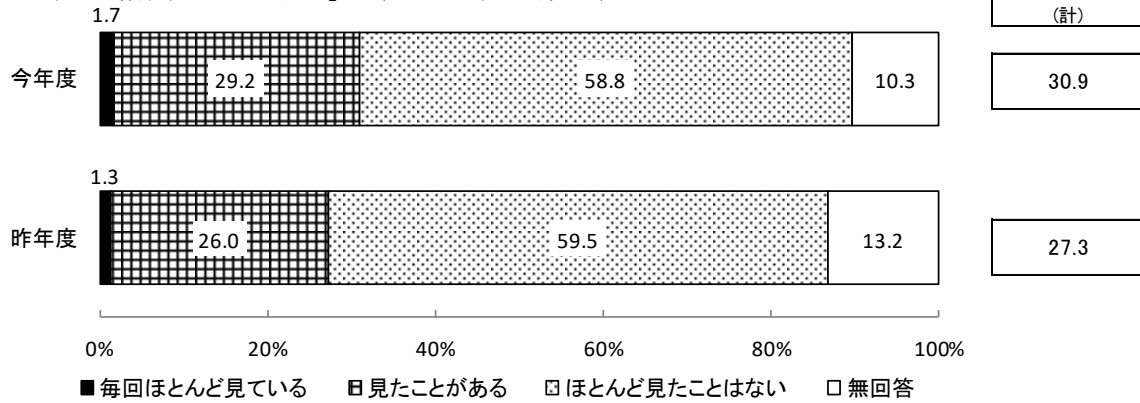
なすぎる」を合わせた『少ない(計)』は2.0ポイント上昇となっている。また、読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』が50.8%となり、昨年度と比較して6.3ポイント上昇している。

3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

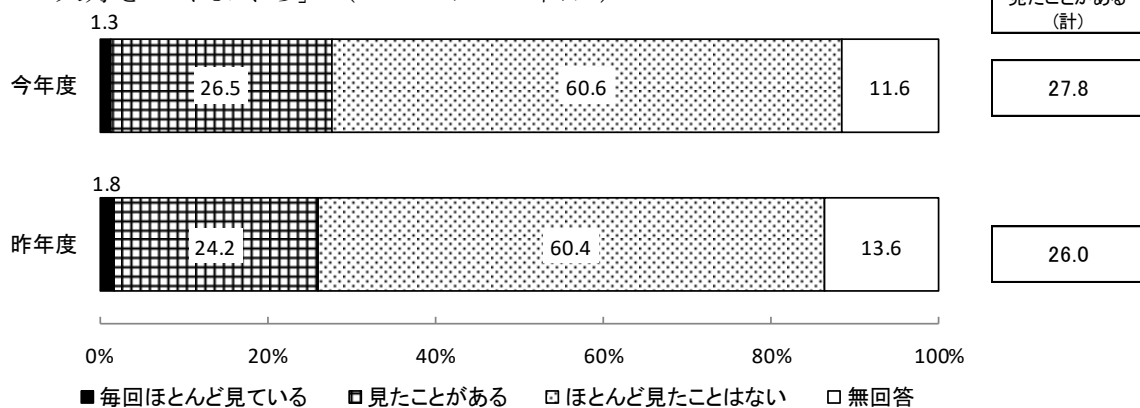
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。（〇はそれぞれ1つ）

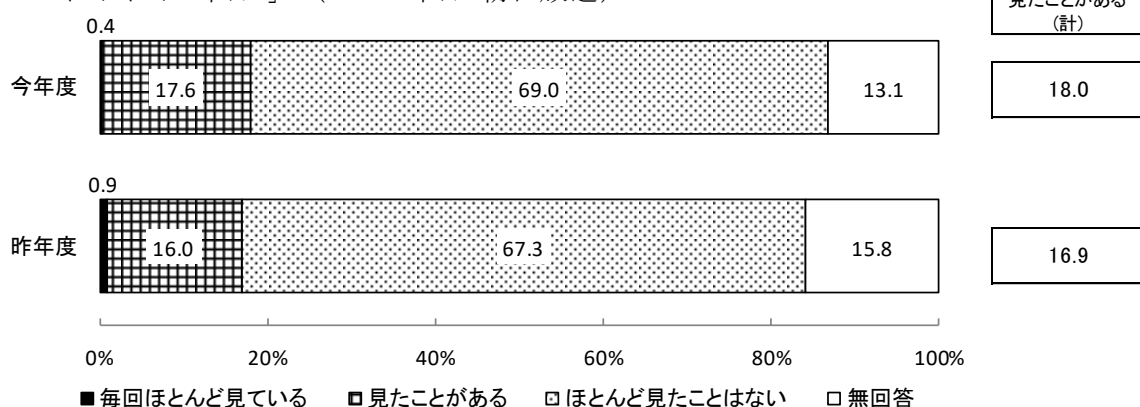
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



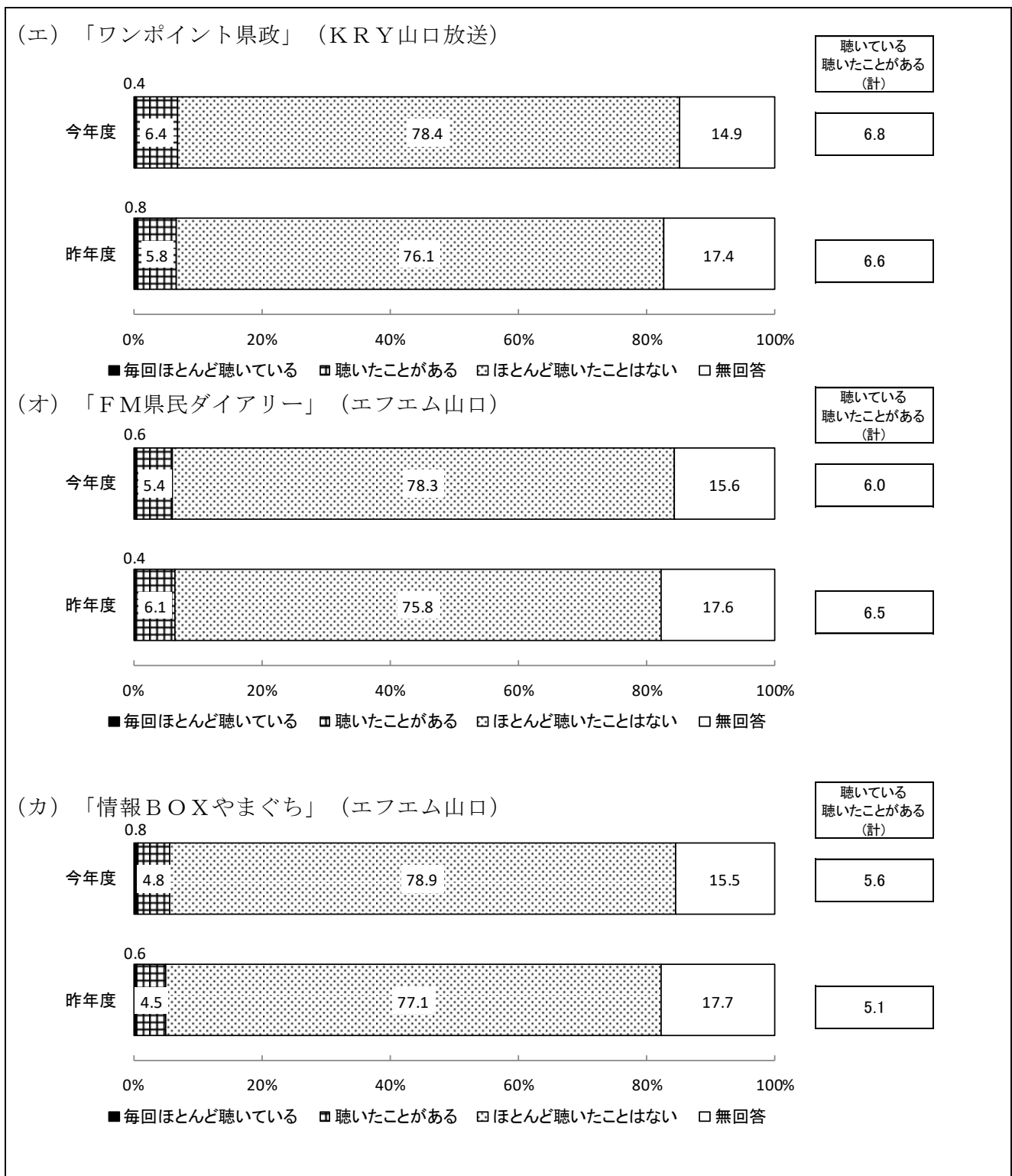
(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）



(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）



県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある（計）』が、「元気創出！やまぐち」は30.9%、「大好き！やまぐち」は27.8%、「イキイキ！山口」は18.0%となっており、すべての番組で上昇している。

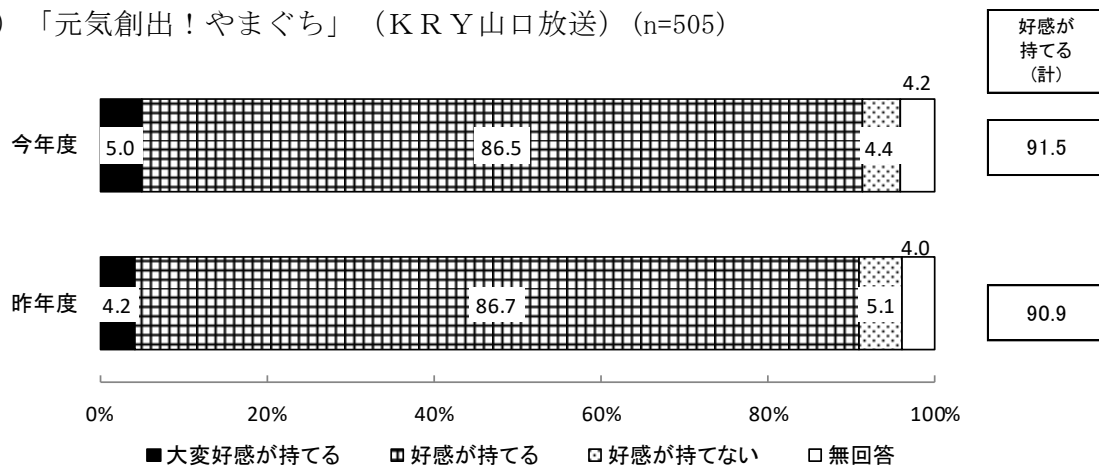


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』が、「ワンポイント県政」は6.8%、「FM県民ダイアリー」は6.0%、「情報BOXやまぐち」は5.6%となっており、いずれの番組も昨年度と同程度で推移している。

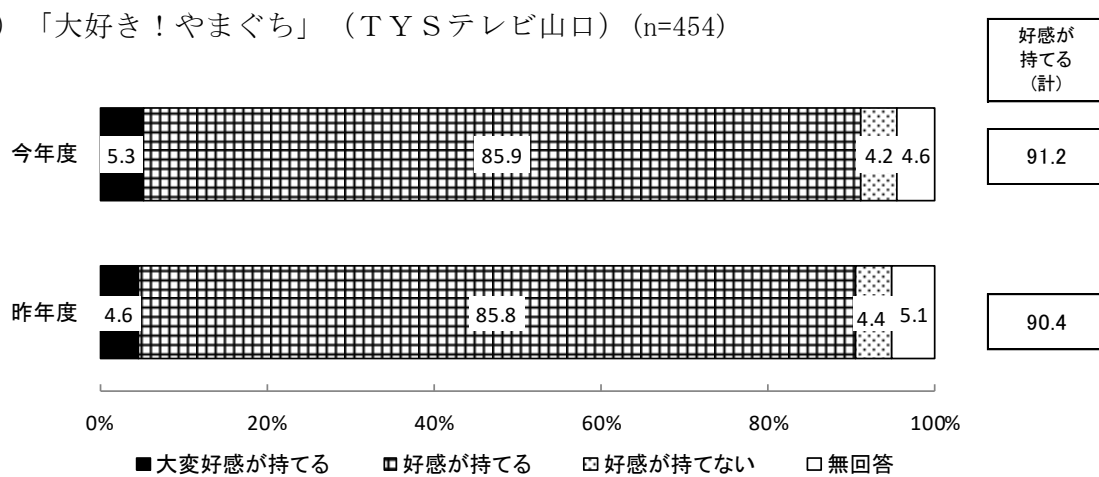
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象を**ア、イ、ウ**から選んでください。（○はそれぞれ1つ）

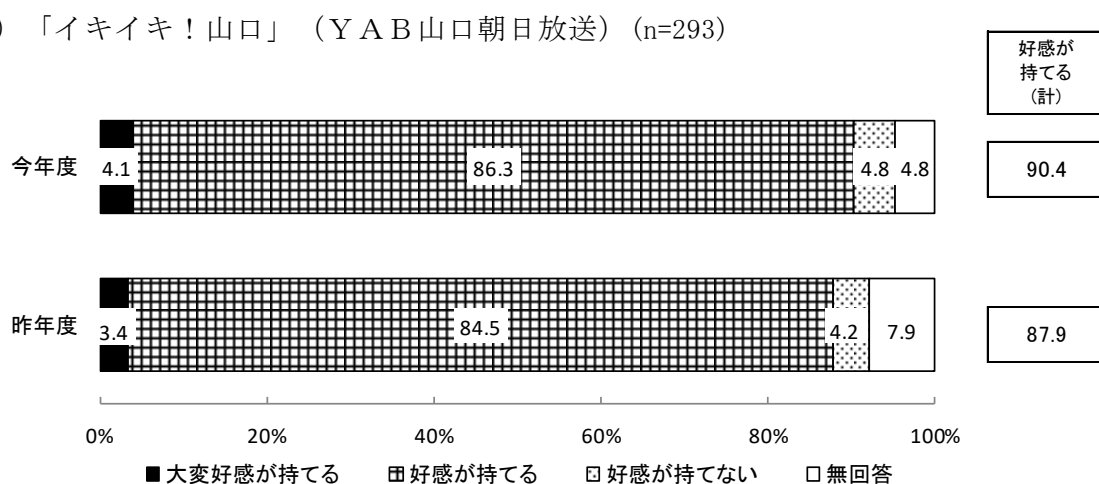
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）（n=505）



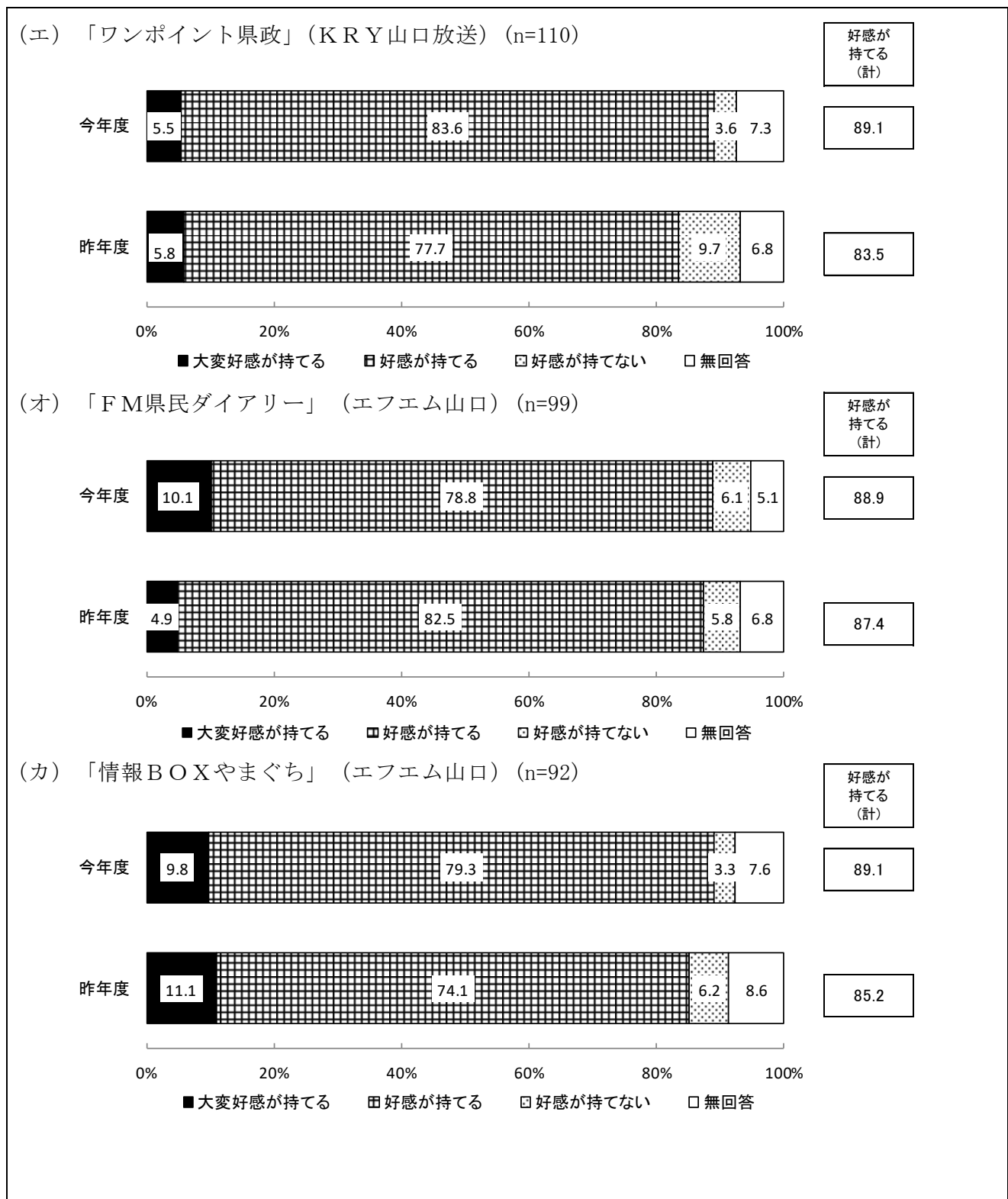
(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）（n=454）



(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）（n=293）



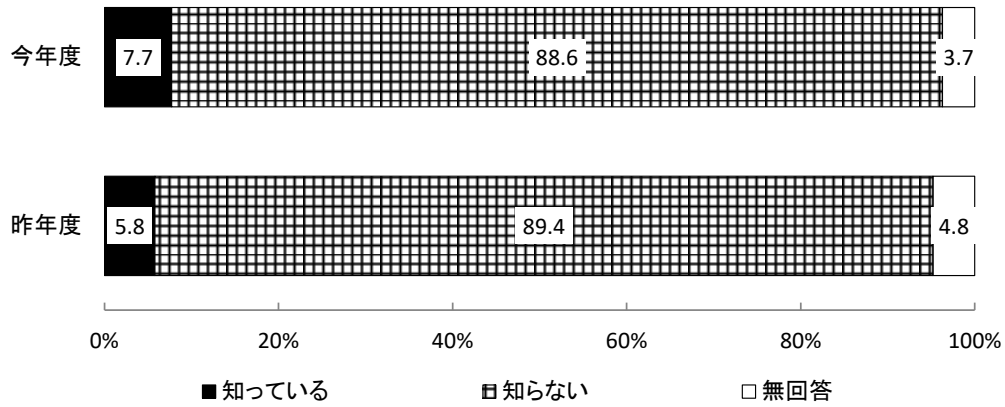
県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が9割超となっており、すべての番組で上昇している。



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が9割程度となっている。

3-5. 県の広報展開の認知度

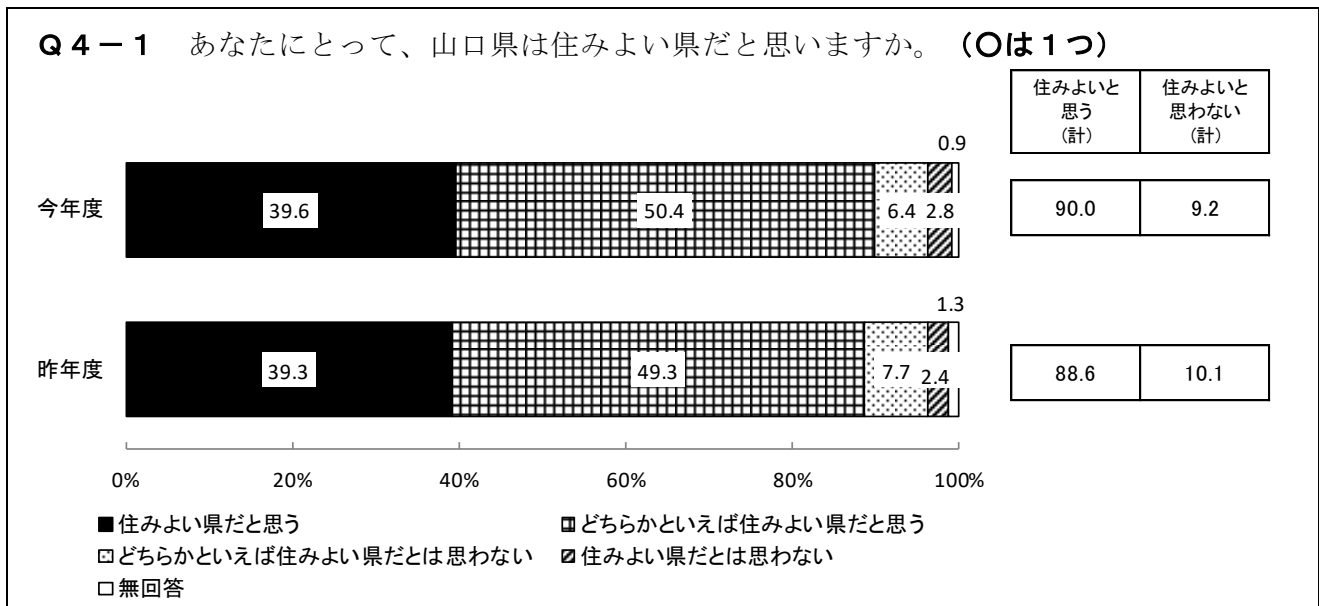
Q3-5 県では、本県の多彩な魅力や施策等の情報を、SNS等も活用し、ターゲットとなる方々に着実に届ける広報を展開しています。あなたは、このことをご存じですか。(〇は1つ)



県の広報展開の認知度について、「知っている」が7.7%、「知らない」が88.6%となり、知らない人の割合が8割超を占めている。また、昨年度と比較すると、「知っている」は1.9ポイント上昇している。

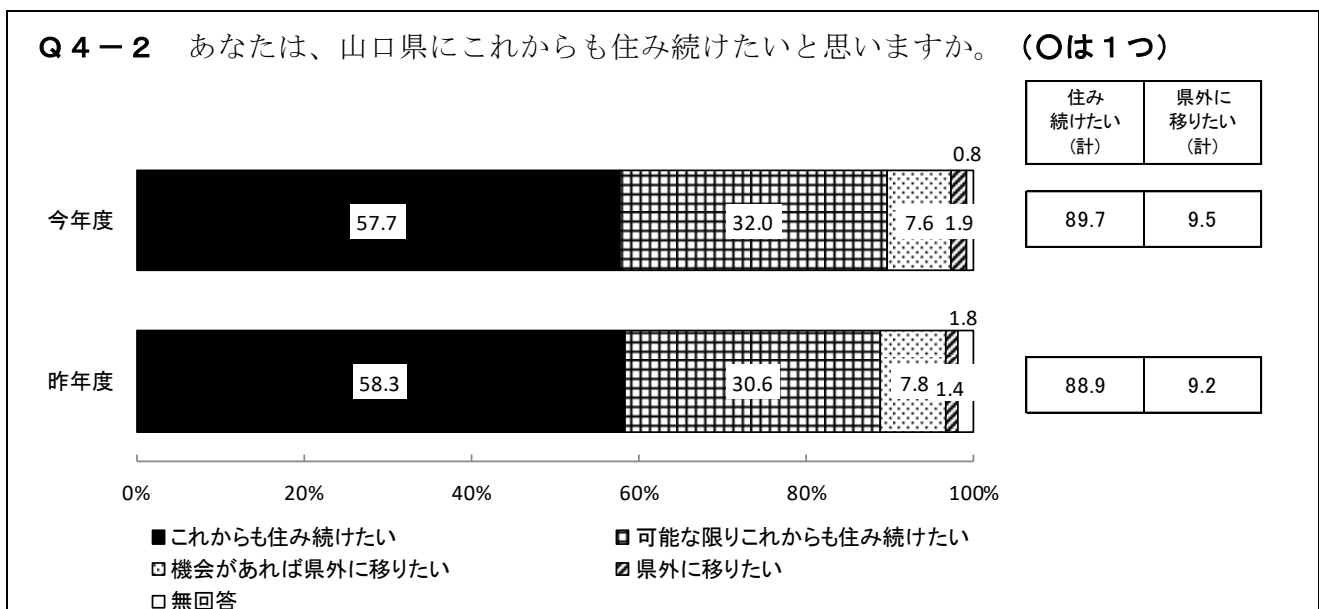
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住みよさ



山口県の住みよさについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 90.0%となっており、昨年度と比較すると、1.4 ポイント上昇している。

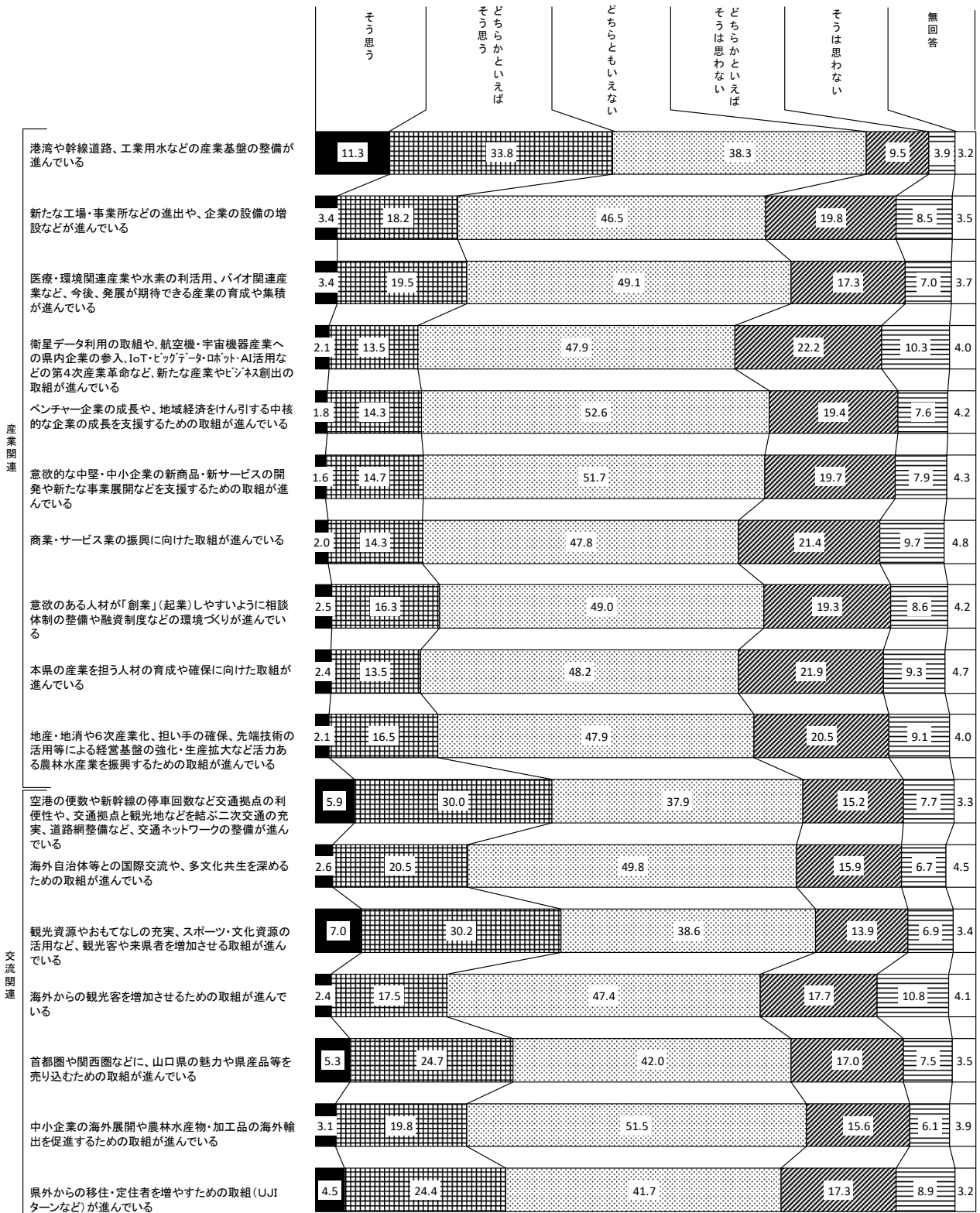
4-2. 今後の山口県での居留意向

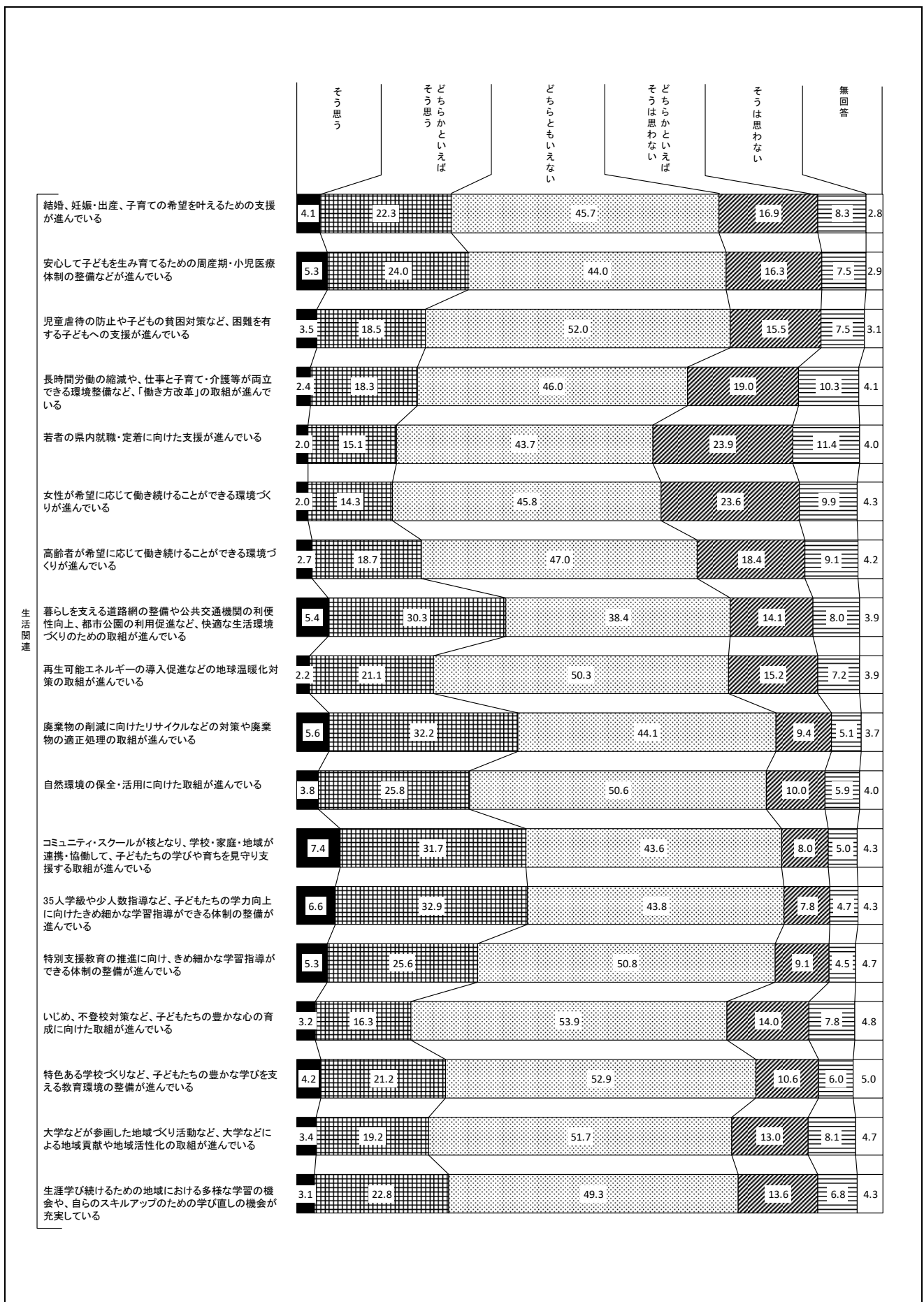


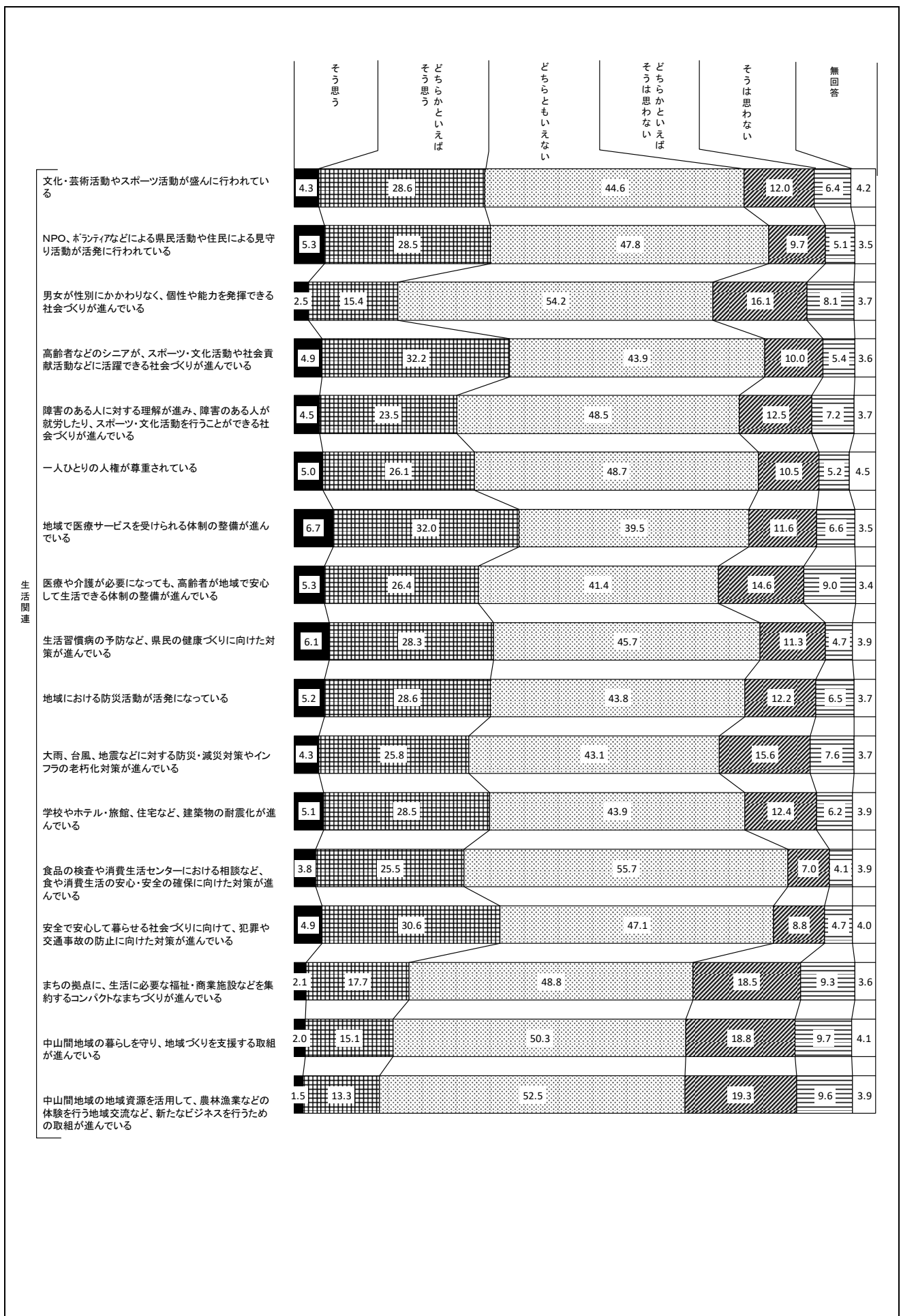
今後の山口県での居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 89.7%となっており、昨年度と比較すると、0.8 ポイント上昇している。

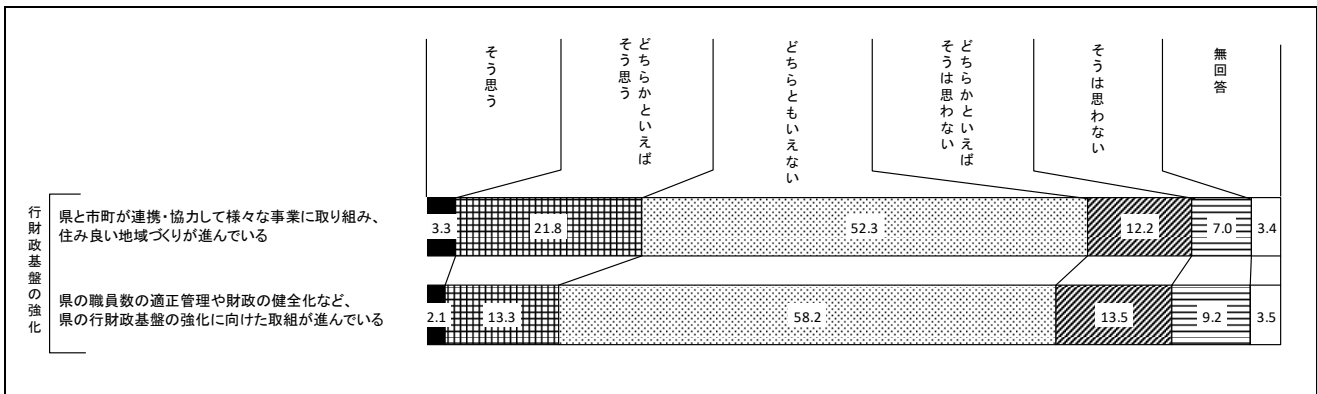
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 「やまぐち維新プラン」では19のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の施策について、あなたの実感についておたずねします。右ページも参考に、いずれか1つを○で囲んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)









県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、【産業関連】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」が45.1%、【生活関連】分野の「35人学級や少人数指導など、子どもたちの学力向上に向けたきめ細かな学習指導ができる体制の整備が進んでいる」が39.5%、【生活関連】分野の「コミュニティ・スクールが核となり、学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもたちの学びや育ちを見守り支援する取組が進んでいる」が39.1%などで高くなっている。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない(計)』の割合は、【生活関連】分野の「若者の県内就職・定着に向けた支援が進んでいる」が35.3%、【生活関連】分野の「女性が希望に応じて働き続けることができる環境づくりが進んでいる」が33.5%、【産業関連】分野の「衛星データ利用の取組や、航空機・宇宙機器産業への県内企業の参入、IoT・ビッグデータ・ロボット・AI活用などの第4次産業革命など、新たな産業やビジネス創出の取組が進んでいる」が32.5%などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている18項目』

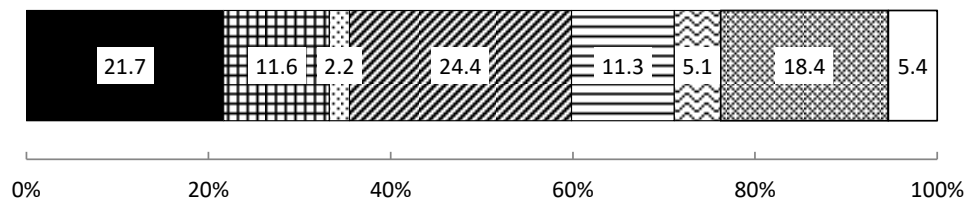
5. 新型コロナウイルス感染症対策について

5-1. 「新しい生活様式」や「5つの場面」の認知状況

Q5-1 あなたは、「新しい生活様式」や「5つの場面」という言葉を聞いたことがありますか。(〇は1つ)

※「新しい生活様式」：国の専門家会議からの提言を踏まえ、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を具体的にイメージできるよう、今後、日常生活の中で取り入れていただきたい実践例が示されています。

※「5つの場面」：国の新型コロナウイルス感染症対策分科会においては、これまでのクラスター分析で得られた知見から、感染リスクが高まる「5つの場面」が提言されています。

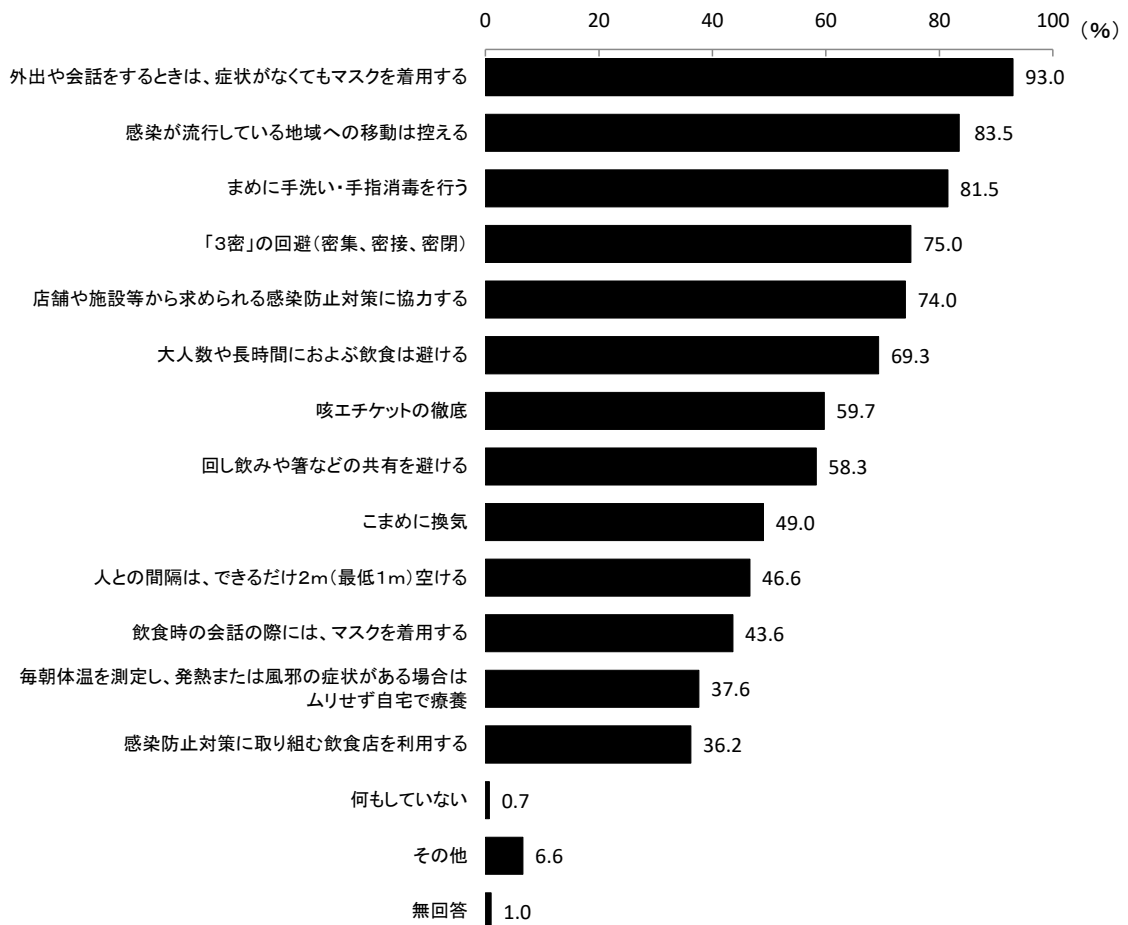


- 「新しい生活様式」と「5つの場面」ともに聞いたことがあり、内容も知っている
- ▣「新しい生活様式」は聞いたことがあり、内容も知っている
- ▢「5つの場面」は聞いたことがあり、内容も知っている
- ▧「新しい生活様式」、「5つの場面」ともに聞いたことはあるが、内容までは知らない
- ▤「新しい生活様式」は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- ▥「5つの場面」は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- ▩「新しい生活様式」、「5つの場面」ともに聞いたことがない
- 無回答

「新しい生活様式」や「5つの場面」の認知状況について、「『新しい生活様式』、『5つの場面』ともに聞いたことはあるが、内容までは知らない」が24.4%と最も高く、次いで「『新しい生活様式』と『5つの場面』ともに聞いたことがあり、内容も知っている」が21.7%、「『新しい生活様式』、『5つの場面』ともに聞いたことがない」が18.4%の順となっている。

5-2. 新型コロナウイルス感染症対策として実行している取組

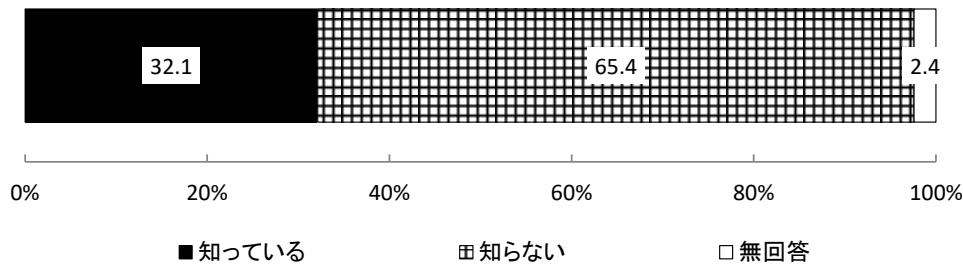
Q5-2 あなたは、日常生活や飲食の場面等での新型コロナウイルス感染症対策として、どのような取組を行っていますか。（〇はいくつでも）



新型コロナウイルス感染症対策として実行している取組について、「外出や会話をするとき、症状がなくてもマスクを着用する」が93.0%と最も高く、次いで「感染が流行している地域への移動は控える」が83.5%、「まめに手洗い・手指消毒を行う」が81.5%、「『3密』の回避(密集、密接、密閉)」が75.0%、「店舗や施設等から求められる感染防止対策に協力する」が74.0%の順となっている。

5-3. 新型コロナ対策取組宣言店の情報紹介の認知状況

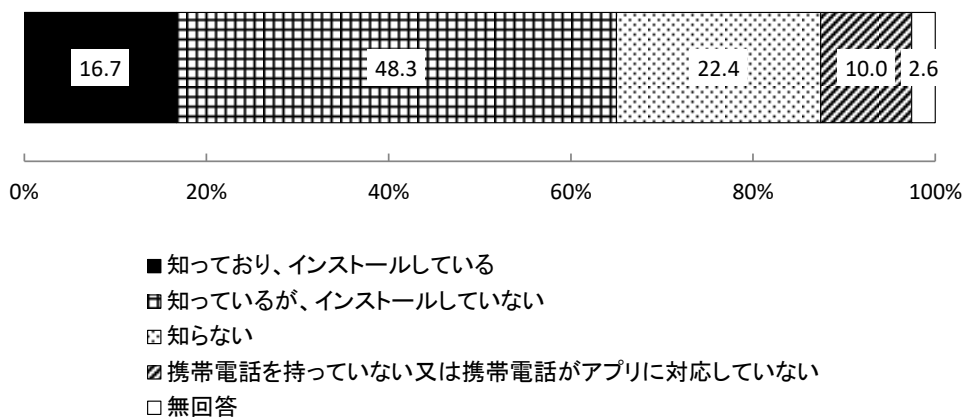
Q5-3 あなたは、山口県内に感染拡大防止対策に取り組むことを宣言する飲食店（新型コロナ対策取組宣言店）があり、県のホームページで店舗名や感染防止対策等の情報を紹介していることを知っていますか。（〇は1つ）



県ホームページでの新型コロナ対策取組宣言店の情報紹介の認知状況について、「知っている」が32.1%、「知らない」が65.4%と、知らない人の割合が6割超を占めている。

5-4. 接触確認アプリ「COCOA」の認知状況

Q5-4 あなたは、接触確認アプリ「COCOA」を知っていますか。（〇は1つ）



接触確認アプリ「COCOA」の認知状況について、「知っているが、インストールしていない」が48.3%と最も高く、次いで「知らない」が22.4%、「知っており、インストールしている」が16.7%、「携帯電話を持っていない又は携帯電話がアプリに対応していない」が10.0%の順となっている。

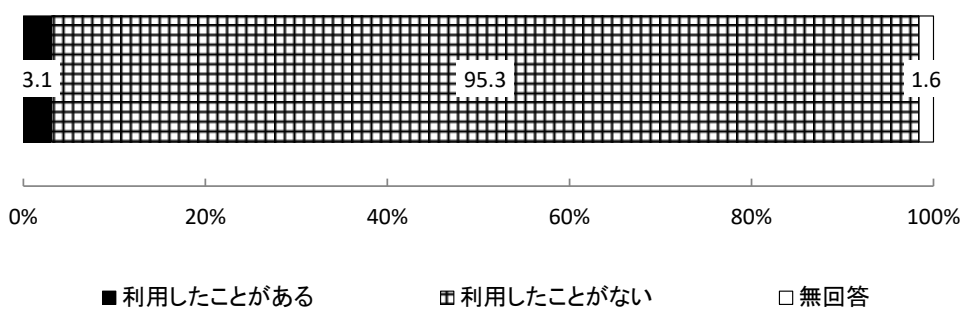
6. 山口県救急安心センター事業（救急医療電話相談「#7119」）の利用について

山口県の救急医療電話相談「#7119」とは、県民の皆さんの救急医療相談に応えるため、相談ダイヤル「#7119」、または「083-921-7119」により、急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼んだほうがいいのか、今すぐ病院に行ったほうがいいのか」など迷った際に、看護師等から電話でアドバイスを受けられるサービスです。

なお、岩国市、和木町では、「広島広域都市圏の救急相談センター事業（#7119）」、萩市、阿武町では、「萩・阿武健康ダイヤル24」として実施されている同様のサービスは、本調査の対象としていません。

6-1. 救急医療電話相談「#7119」の利用状況

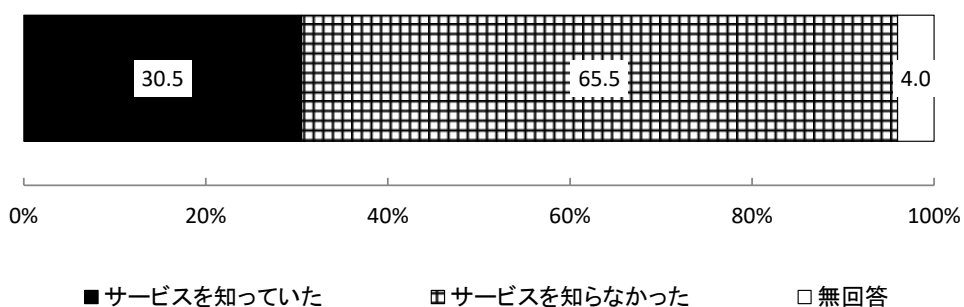
Q6-1 あなたは、本県実施のこのサービスを利用したことがありますか。（○は1つ）



「救急医療電話相談」の利用状況について、「利用したことがある」が3.1%、「利用したことがない」が95.3%と、利用したことがない人の割合が9割超を占めている。

6-2. 救急医療電話相談「#7119」の認知状況

Q6-2 あなたは、本県実施のこのサービスを知っていましたか。（○は1つ）

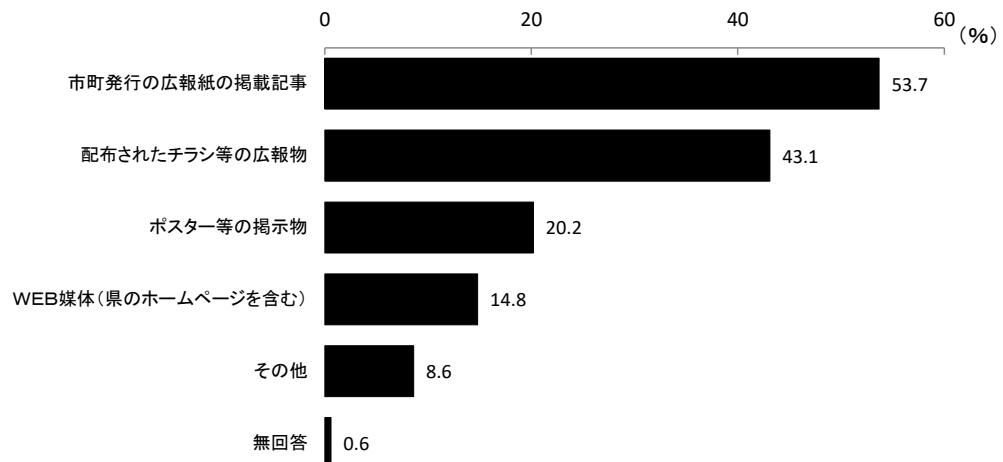


「救急医療電話相談」の認知状況について、「サービスを知っていた」が30.5%、「サービスを知らなかった」が65.5%となっている。

6-3. 救急医療電話相談「#7119」の認知媒体

【Q6-2で「1. サービスを知っていた」と回答した方に】 (n=499)

Q6-3 このサービスを何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



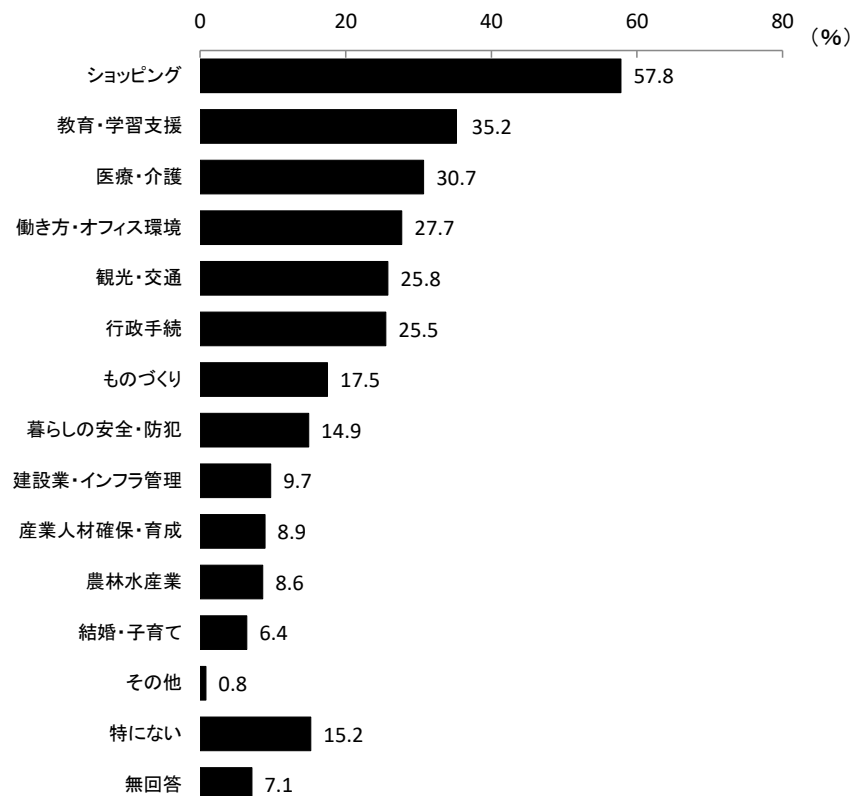
Q6-2で「サービスを知っていた」と回答した方に「救急医療電話相談」の認知媒体について質問すると、「市町発行の広報誌の掲載記事」が53.7%と最も高く、次いで「配布されたチラシ等の広報物」が43.1%、「ポスター等の掲示物」が20.2%、「WEB媒体(県のホームページを含む)」が14.8%の順となっている。

7. デジタル化について

7-1. デジタル技術の活用が進んでいると思う分野

デジタル技術の活用例：スマホのアプリケーション、オンラインショッピング、オンライン授業、オンライン診断、テレワーク、オンライン会議、ドローン、自動運転農機具、介護ロボット等

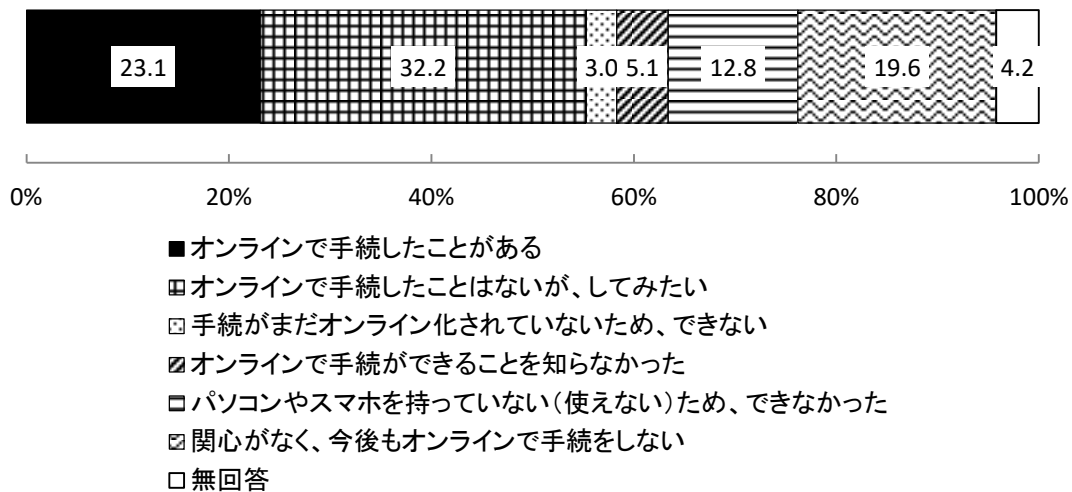
Q7-1 あなたは、どのような分野において、デジタル技術の活用が進んできていると思いますか。（〇はいくつでも）



デジタル技術の活用が進んでいると思う分野について、「ショッピング」が 57.8%と最も高く、次いで「教育・学習支援」が 35.2%、「医療・介護」が 30.7%、「働き方・オフィス環境」が 27.7%、「観光・交通」が 25.8%の順となっている。

7-2. 申請・届出等の行政手続のオンライン利用状況

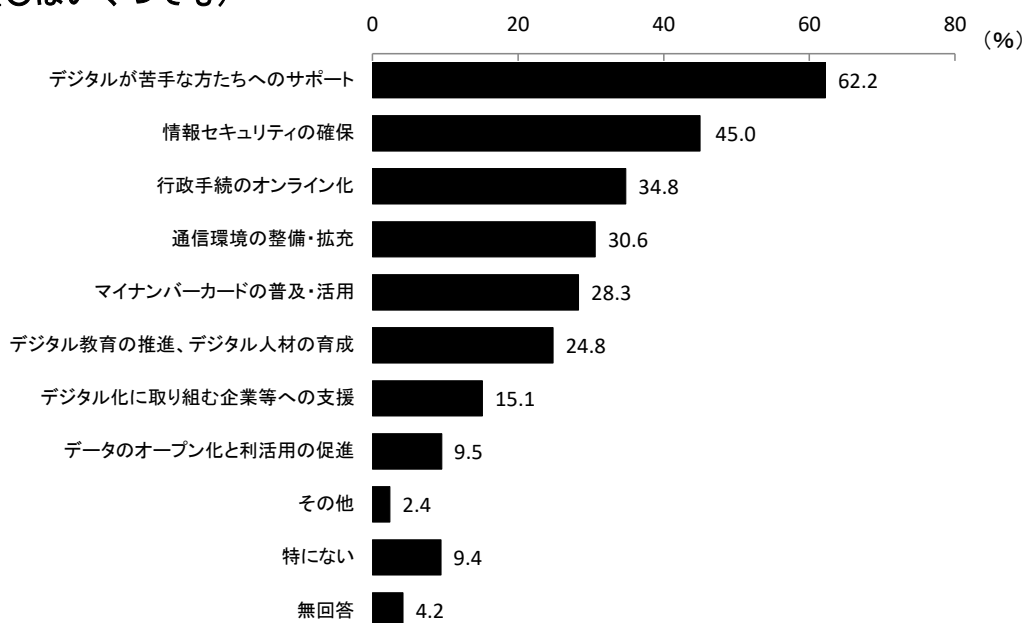
Q7-2 あなたは、申請・届出等の行政手続をオンライン（各種申請システム・電子メール等）で手続したことがありますか。（○は1つ）



申請・届出等の行政手続のオンライン利用状況について、「オンラインで手続したことがある」が23.1%、「オンラインで手続したことはないが、してみたい」が32.2%となっている。

7-3. 県でデジタル化が進むために必要な取組

Q7-3 山口県でデジタル化が進むためには、どのような取組が必要と考えますか。（○はいくつでも）

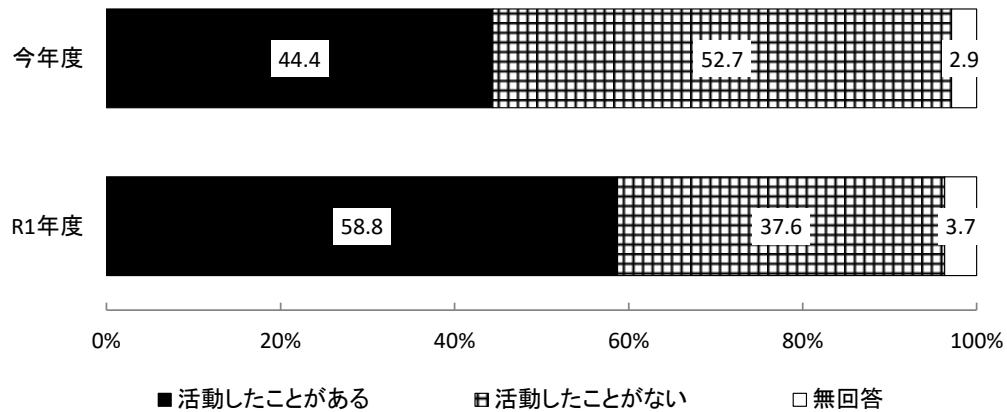


県でデジタル化が進むために必要な取組について、「デジタルが苦手な方たちへのサポート」が62.2%と最も高く、次いで「情報セキュリティの確保」が45.0%、「行政手続のオンライン化」が34.8%の順となっている。

8. 県民活動について

8-1. 県民活動の参加状況

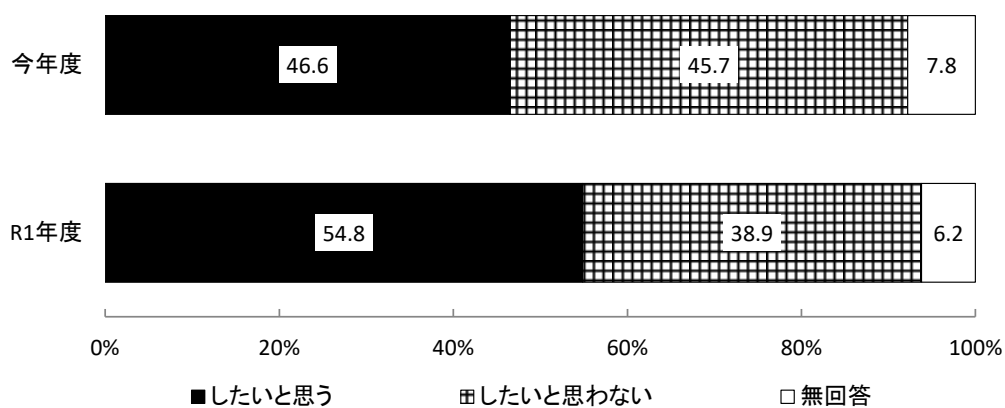
Q8-1 県では、県民活動（営利を目的としない県民の自主的・主体的な社会参加活動）を推進しています。あなたは、地域の清掃やスポーツ行事、まちづくり、リサイクル、高齢者や障害者のための福祉、子育て支援など仕事以外で地域や社会のために活動したことはありますか。（〇は1つ）



県民活動の参加状況について、「活動したことがある」が44.4%、「活動したことがない」は52.7%となっている。令和元年度と比較すると、「活動したことがある」が14.4ポイント低下しており、「活動したことがない」が15.1ポイント上昇している。

8-2. 今後の県民活動への参加意向

Q8-2 あなたは、今後このような活動をしたいと思いますか。（〇は1つ）

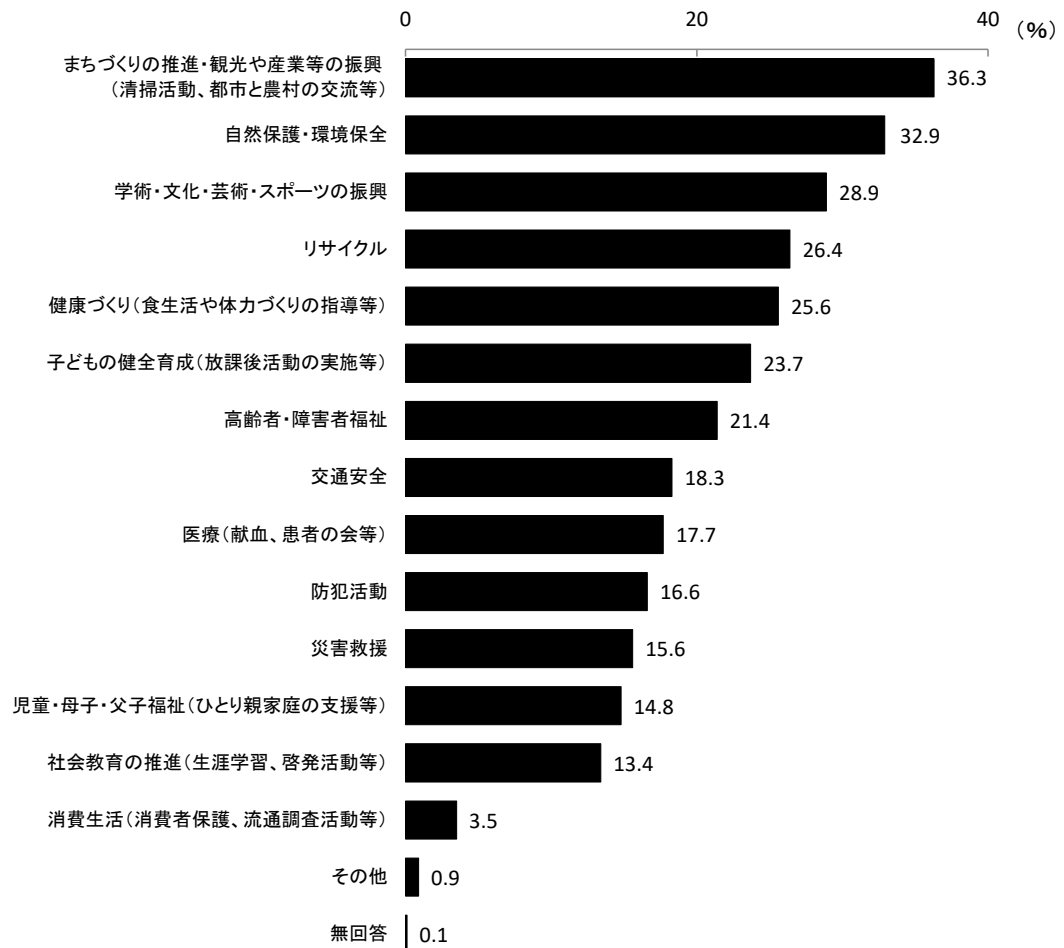


今後の県民活動への参加意向について、「したいと思う」が46.6%、「したくない」が45.7%となっている。令和元年度と比較すると、「したいと思う」が8.2ポイント低下しており、「したくない」が6.8ポイント上昇している。

8-3. 県民活動を行いたい分野

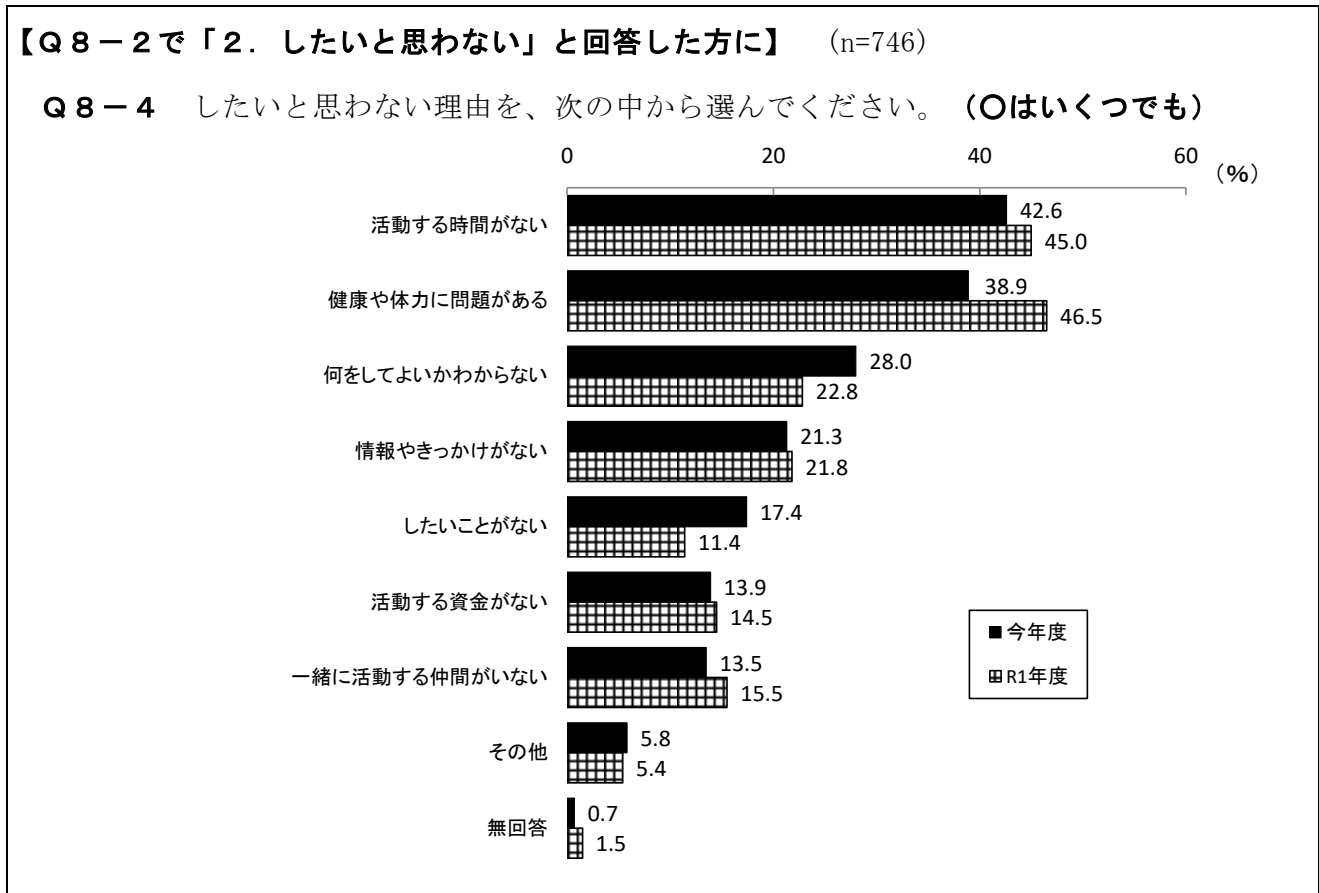
【Q8-2で「1. したいと思う」と回答した方に】 (n=761)

Q8-3 どのような分野の活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)



Q8-2で「1. したいと思う」と回答した方に、活動したい分野について質問すると、「まちづくりの推進・観光や産業等の振興(清掃活動、都市と農村の交流等)」が36.3%で最も高く、次いで「自然保護・環境保全」が32.9%、「学術・文化・芸術・スポーツの振興」が28.9%、「リサイクル」が26.4%、「健康づくり(食生活や体力づくりの指導等)」が25.6%の順となっている。

8-4. 県民活動を行いたくない理由

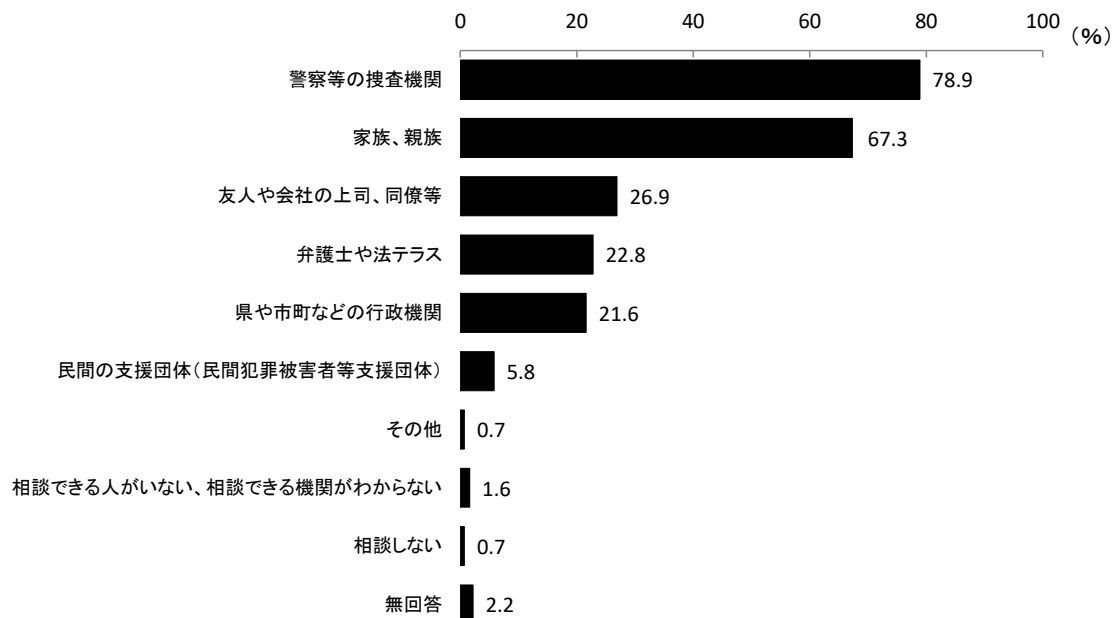


Q8-2で「2. したいと思わない」と回答した方に、活動を行いたくない理由について質問すると、「活動する時間がない」が42.6%で最も高く、次いで「健康や体力に問題がある」が38.9%、「何をしてもよいかわからない」が28.0%、「情報やきっかけがない」が21.3%、「したいことがない」が17.4%の順となっている。令和元年度と比較すると、「健康や体力に問題がある」が7.6ポイント、「活動する時間がない」が2.4ポイントそれぞれ低下しており、「したいことがない」が6.0ポイント、「何をしてもよいかわからない」が5.2ポイントそれぞれ上昇している。

9. 犯罪被害者等支援について

9-1. 犯罪被害に遭った場合の相談相手

Q9-1 あなたが犯罪被害に遭ってしまった場合、誰に相談しようと思いますか。
(〇はいくつでも)

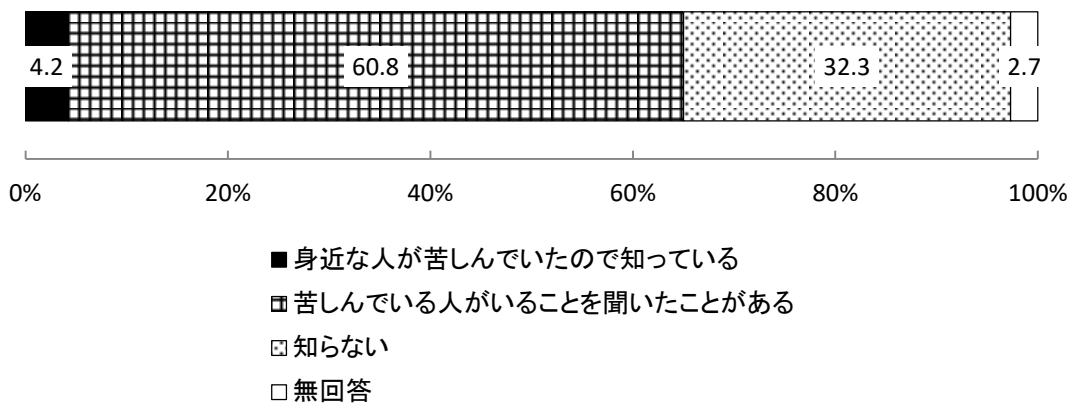


犯罪被害に遭った場合の相談相手について、「警察等の捜査機関」が 78.9%と最も高く、次いで「家族・親族」が 67.3%、「友人や会社の上司、同僚等」が 26.9%の順となっている。

9-2. 「二次的被害」の認知状況

Q9-2 あなたは、犯罪被害に遭われた方やその家族又は遺族が「二次的被害」により苦しんでいる実情があることを知っていますか。（○は1つ）

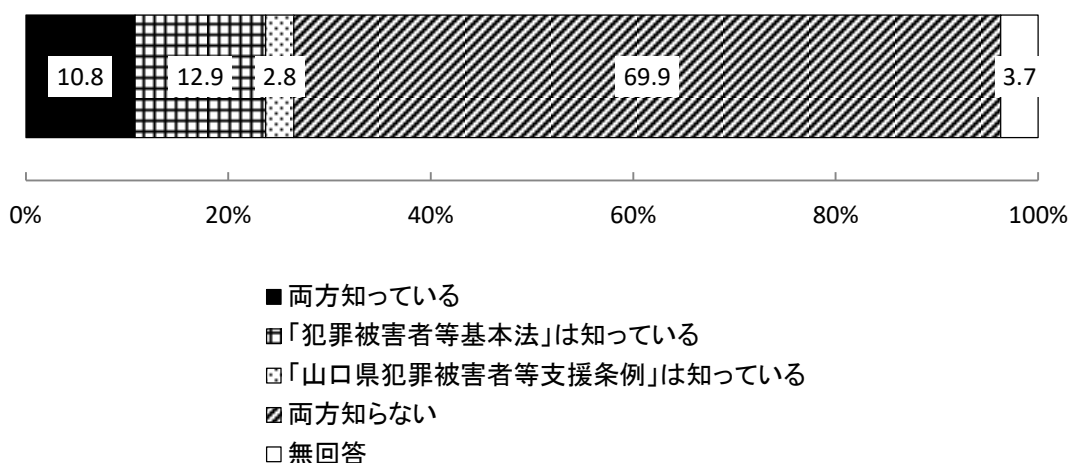
※二次的被害：犯罪等による直接的な被害を受けた後に、犯罪被害者等に対する配慮に欠ける言動、誹謗中傷、過剰な取材等により、犯罪被害者等が受ける精神的な苦痛、身体の不調、名誉の毀損、私生活の平穩の侵害、経済的な損失その他の被害をいう。



「二次的被害」の認知状況について、「身近な人が苦しんでいたのを知っている」が4.2%、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」が60.8%、「知らない」が32.3%となっている。

9-3. 「犯罪被害者等基本法」や「山口県犯罪被害者等支援条例」の認知状況

Q9-3 あなたは、「犯罪被害者等基本法」や「山口県犯罪被害者等支援条例」というものがあることを知っていますか。（○は1つ）

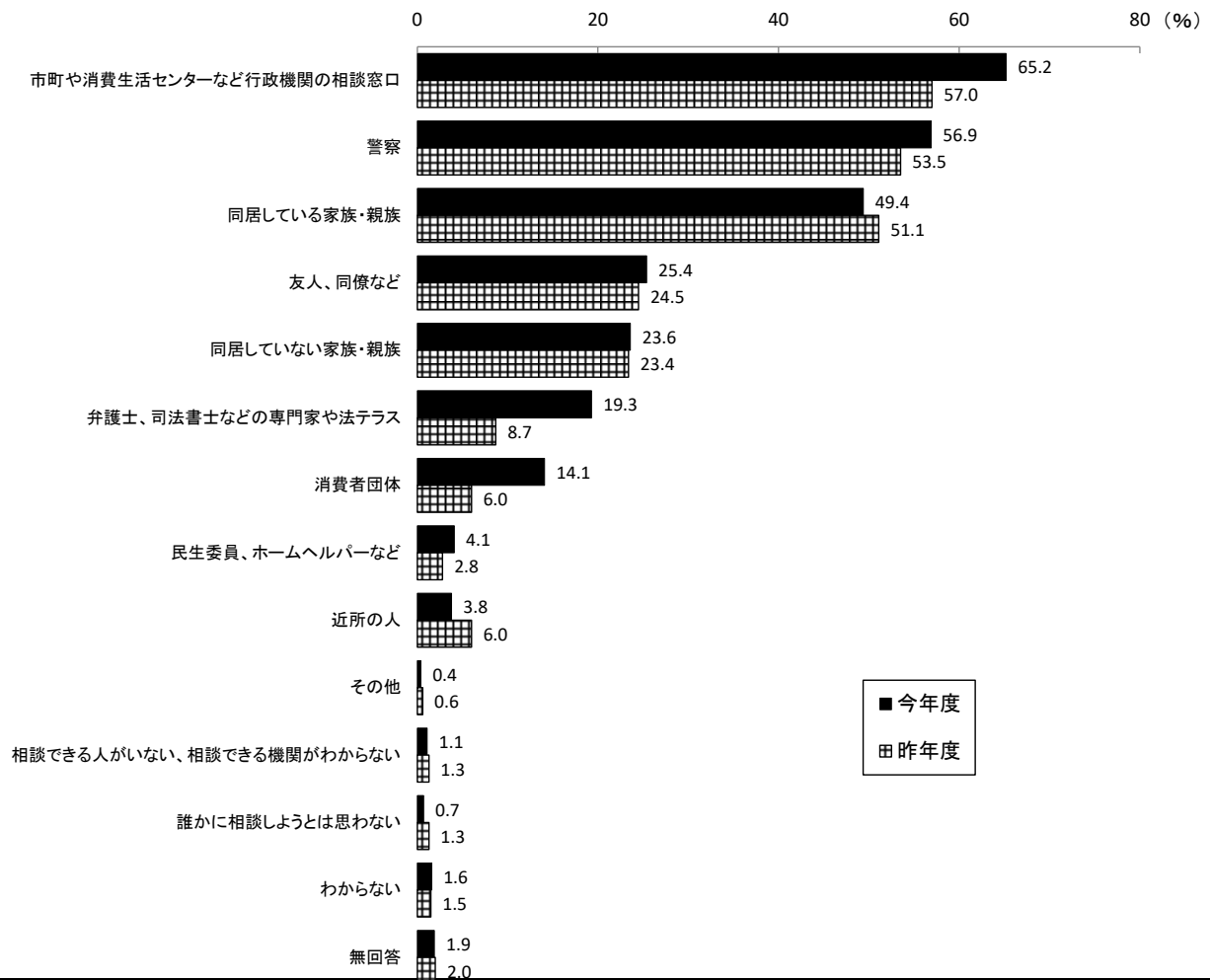


「犯罪被害者等基本法」や「山口県犯罪被害者等支援条例」の認知状況について、「両方知っている」が10.8%、「『犯罪被害者等基本法』は知っている」が12.9%、「『山口県犯罪被害者等支援条例』は知っている」が2.8%となっており、3項目を合わせた『両方または片方を知っている（計）』は26.5%となっている。一方、「両方知らない」は69.9%と約7割になっている。

10. 消費生活に関することについて

10-1. 被害を受けた時の相談相手

Q10-1 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。
(〇はいくつでも)

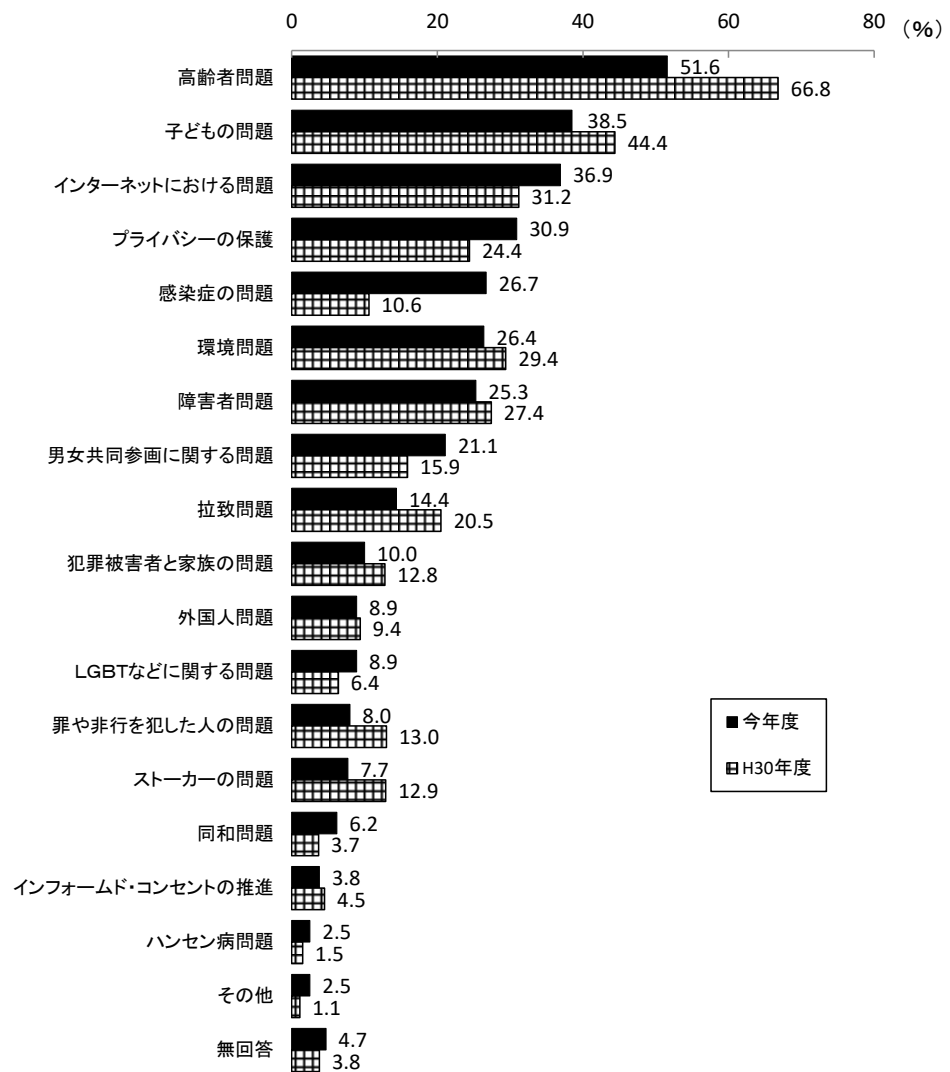


被害を受けた時の相談相手について、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が65.2%と最も高く、次いで「警察」が56.9%、「同居している家族・親族」が49.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「弁護士、司法書士などの専門家や法テラス」が10.6ポイント、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が8.2ポイント、「消費者団体」が8.1ポイントそれぞれ上昇し、「近所の人」が2.2ポイント、「同居している家族・親族」が1.7ポイント低下している。

1 1. 関心がある人権問題について

1 1 - 1. 関心がある人権問題

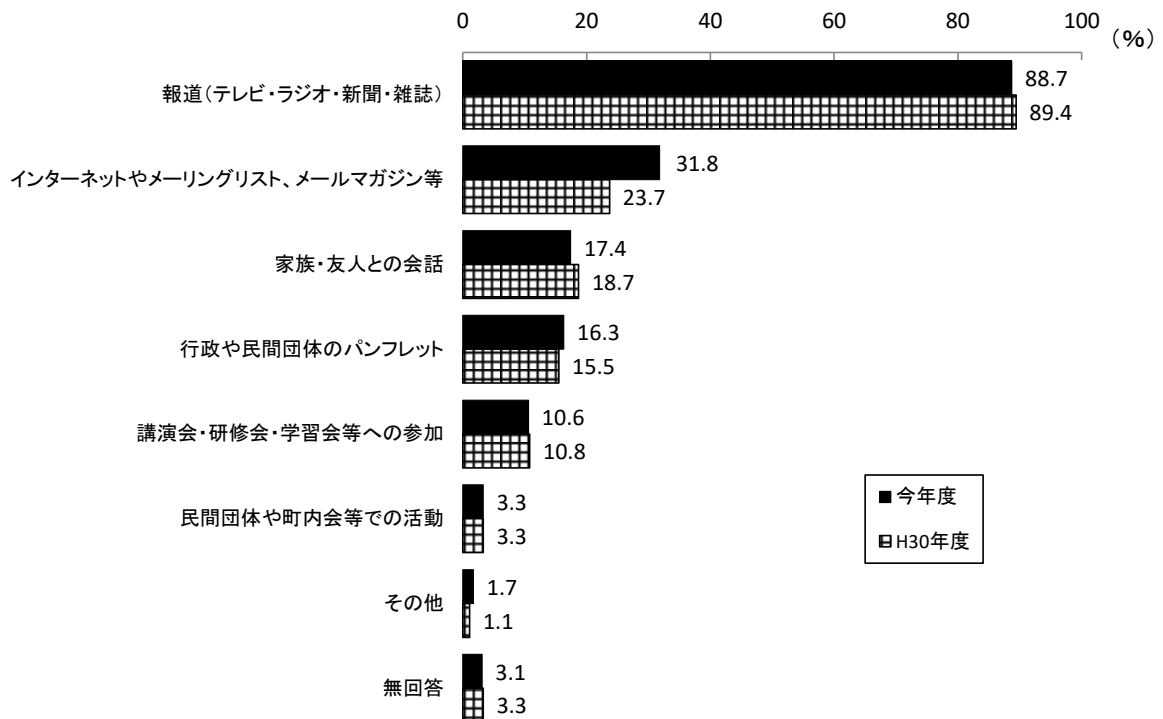
Q 1 1 - 1 あなたは、現在どのような人権問題に関心をお持ちですか。
(〇はいくつでも)



関心がある人権問題について、「高齢者問題」が 51.6%と最も高く、次いで「子どもの問題」が 38.5%、「インターネットにおける問題」が 36.9%、「プライバシーの保護」が 30.9%、「感染症の問題」が 26.7%の順となっている。平成 30 年度と比較すると、「感染症の問題」が 16.1 ポイント上昇し、「高齢者問題」が 15.2 ポイント低下している。

11-2. 人権問題に関する知識や情報の入手媒体

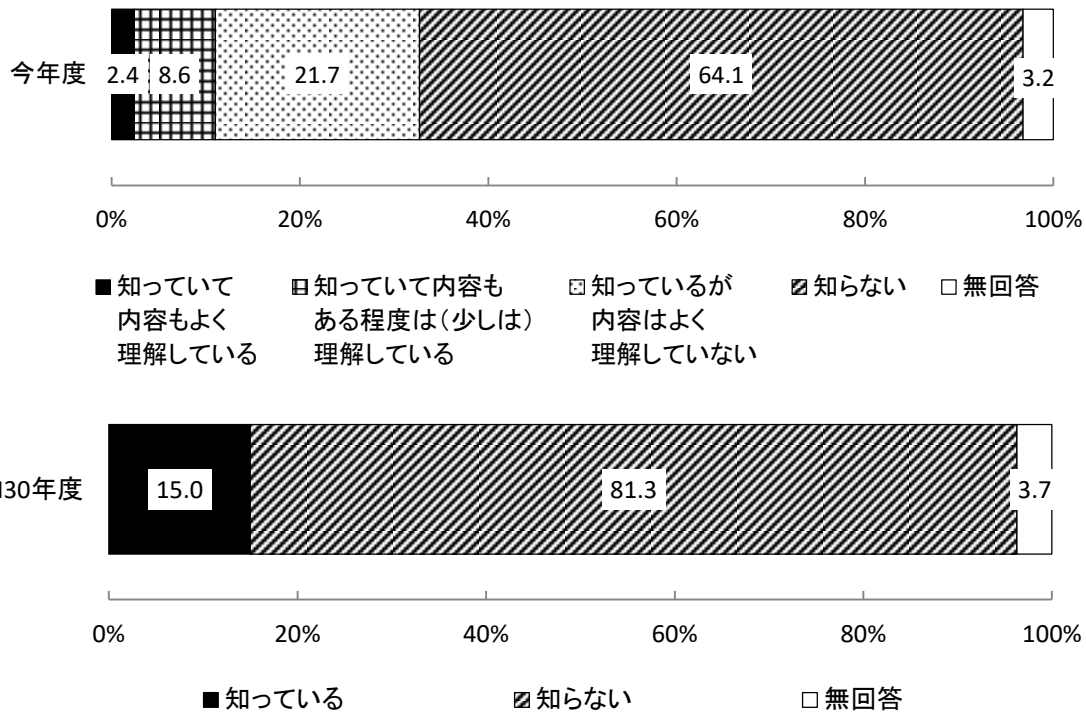
Q11-2 あなたは、人権問題に関する知識や情報を何から得ていますか。
(〇はいくつでも)



人権問題に関する知識や情報の入手媒体について、「報道（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌）」が88.7%と最も高く、次いで「インターネットやメールマガジン、メールマガジン等」が31.8%、「家族・友人との会話」が17.4%の順となっている。平成30年度と比較すると、「インターネットやメールマガジン、メールマガジン等」が8.1ポイント上昇している。

11-3. 「山口県人権推進指針」の認知状況

Q11-3 山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたは、この「山口県人権推進指針」を知っていますか。(〇は1つ)

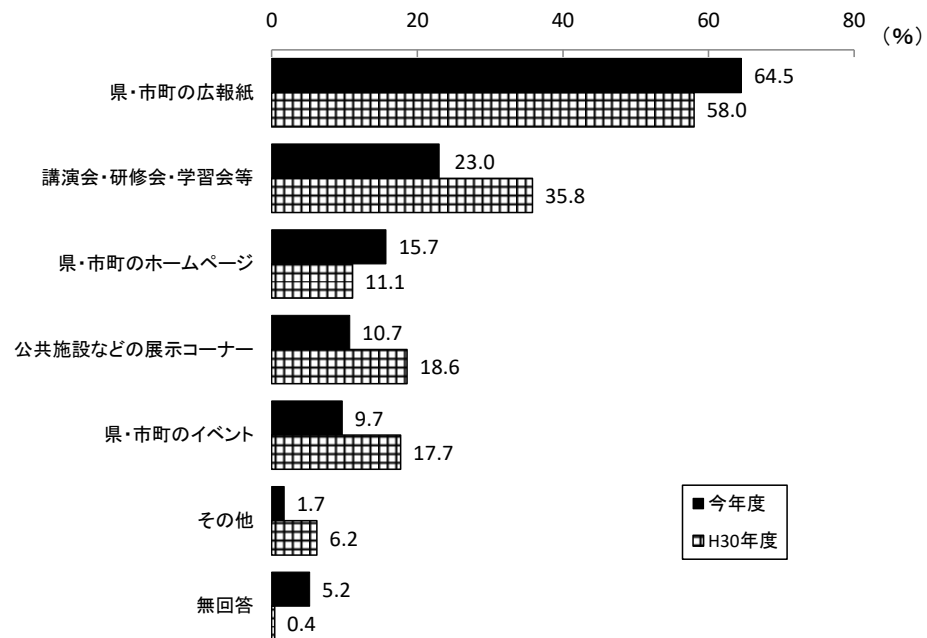


「山口県人権推進指針」の認知状況について、「知っている内容もよく理解している」が2.4%、「知っている内容もある程度は(少しは)理解している」が8.6%、「知っているが内容はよく理解していない」が21.7%となっており、3項目を合わせた『知っている(計)』は32.7%となっている。また、「知らない」は64.1%となっており、選択肢が変更されているため単純比較には注意を要するが、平成30年度と比較すると17.2ポイント低下している。

11-4. 「山口県人権推進指針」の認知媒体

【Q11-3で「1、2、3」と回答した方に】 (n=535)

Q11-4 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

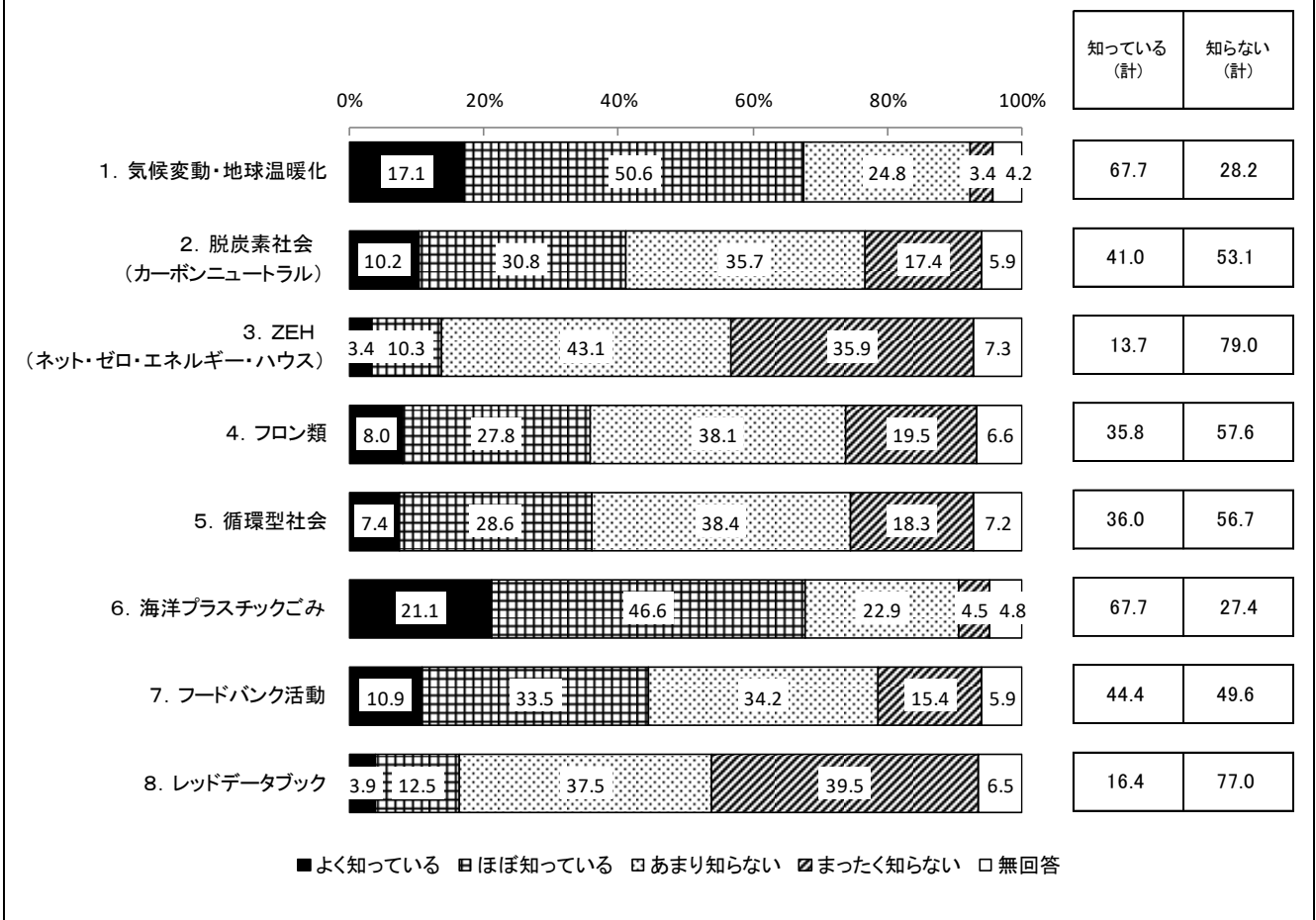


Q11-3で「1、2、3」と回答した方に「山口県人権推進指針」を何を通じて知ったかについて質問すると、「県・市町の広報紙」が64.5%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」が23.0%、「県・市町のホームページ」が15.7%、「公共施設などの展示コーナー」が10.7%、「県・市町のイベント」が9.7%の順となっている。平成30年度と比較すると、「講演会・研修会・学習会等」が12.8ポイント、「県・市町のイベント」が8.0ポイント、「公共施設などの展示コーナー」が7.9ポイントそれぞれ低下している。

12. 環境について

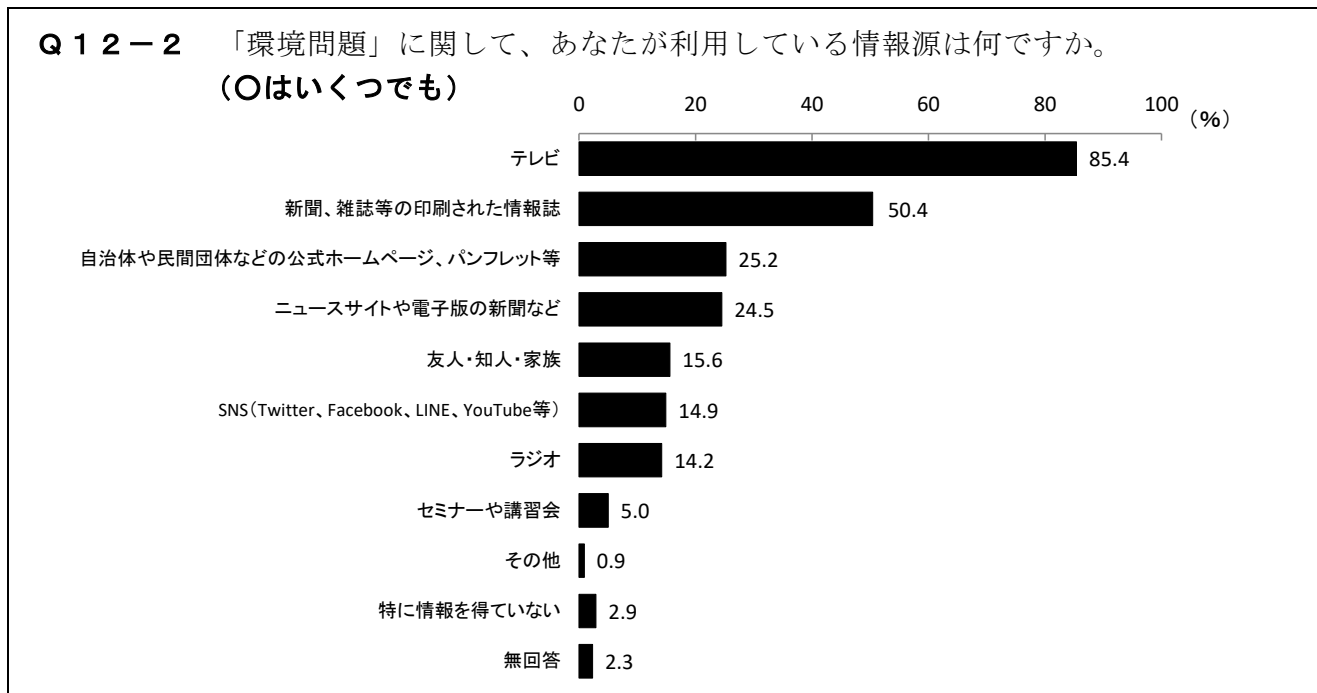
12-1. 「環境」に関する問題や取組の認知度

Q12-1 あなたは、次の「環境」に関する問題や取組について知っていますか。
(〇はそれぞれ1つ)



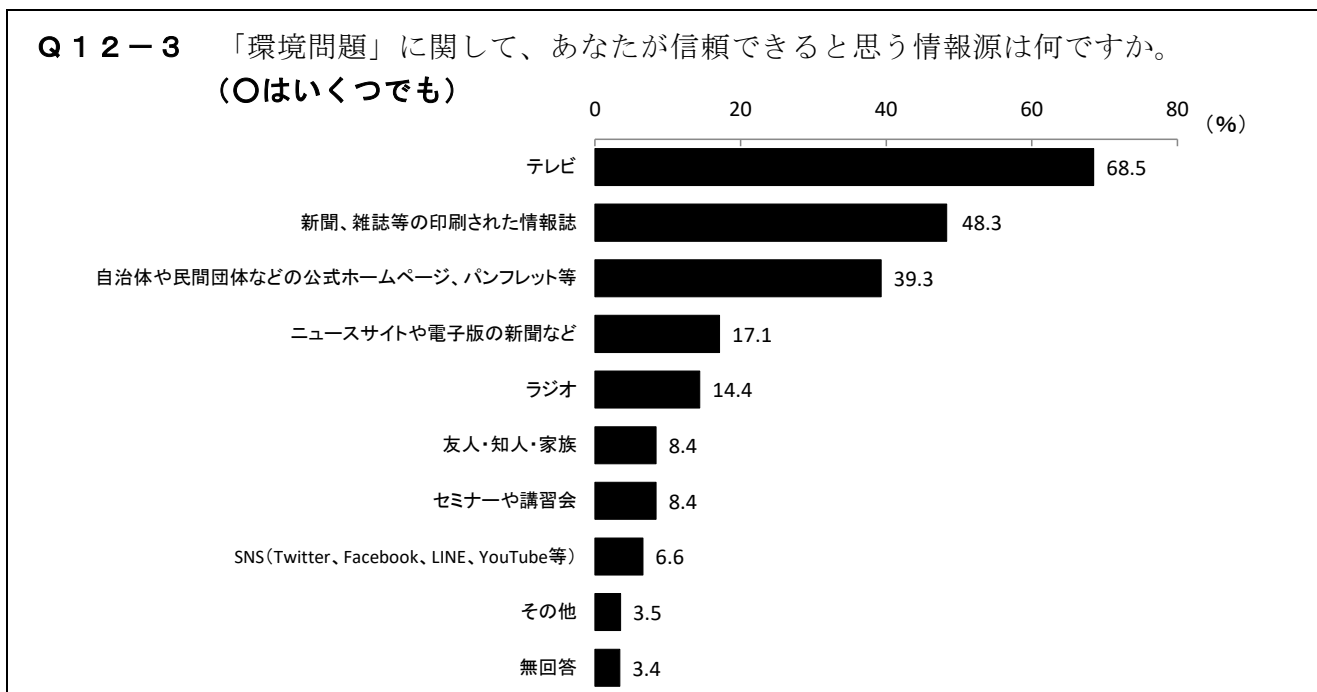
「環境」に関する問題や取組の認知度について、「1. 気候変動・地球温暖化」「6. 海洋プラスチックごみ」がともに 67.7%と最も高くなっている。一方、「3. ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」「8. レッドデータブック」はそれぞれ 13.7%、16.4%と1割台にとどまっている。

12-2. 「環境問題」に関して、利用している情報源



「環境問題」に関して利用している情報源について、「テレビ」が85.4%と最も高く、次いで「新聞、雑誌等の印刷された情報誌」が50.4%、「自治体や民間団体などの公式ホームページ、パンフレット等」が25.2%の順となっている。

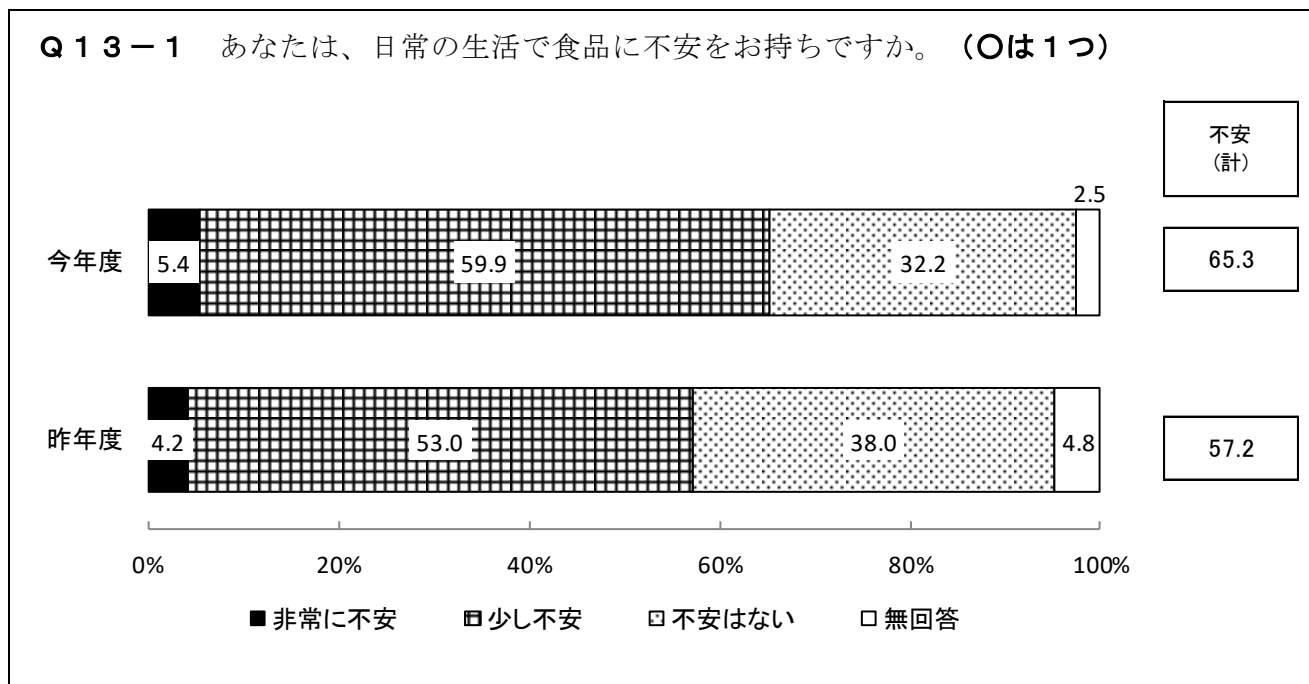
12-3. 「環境問題」に関して、信頼できると思う情報源



「環境問題」に関して信頼できると思う情報源については、「テレビ」が68.5%と最も高く、次いで「新聞、雑誌等の印刷された情報誌」が48.3%、「自治体や民間団体などの公式ホームページ、パンフレット等」が39.3%の順となっている。

13. 食の安心・安全について

13-1. 食品に対する不安



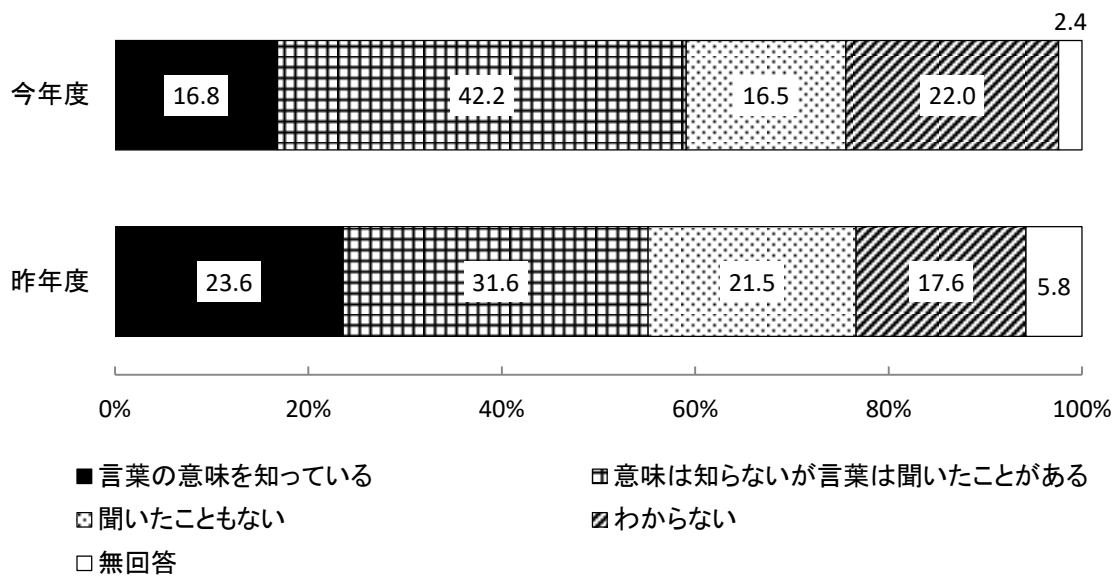
食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は65.3%と6割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は8.1ポイント上昇している。

14. 生物多様性について

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

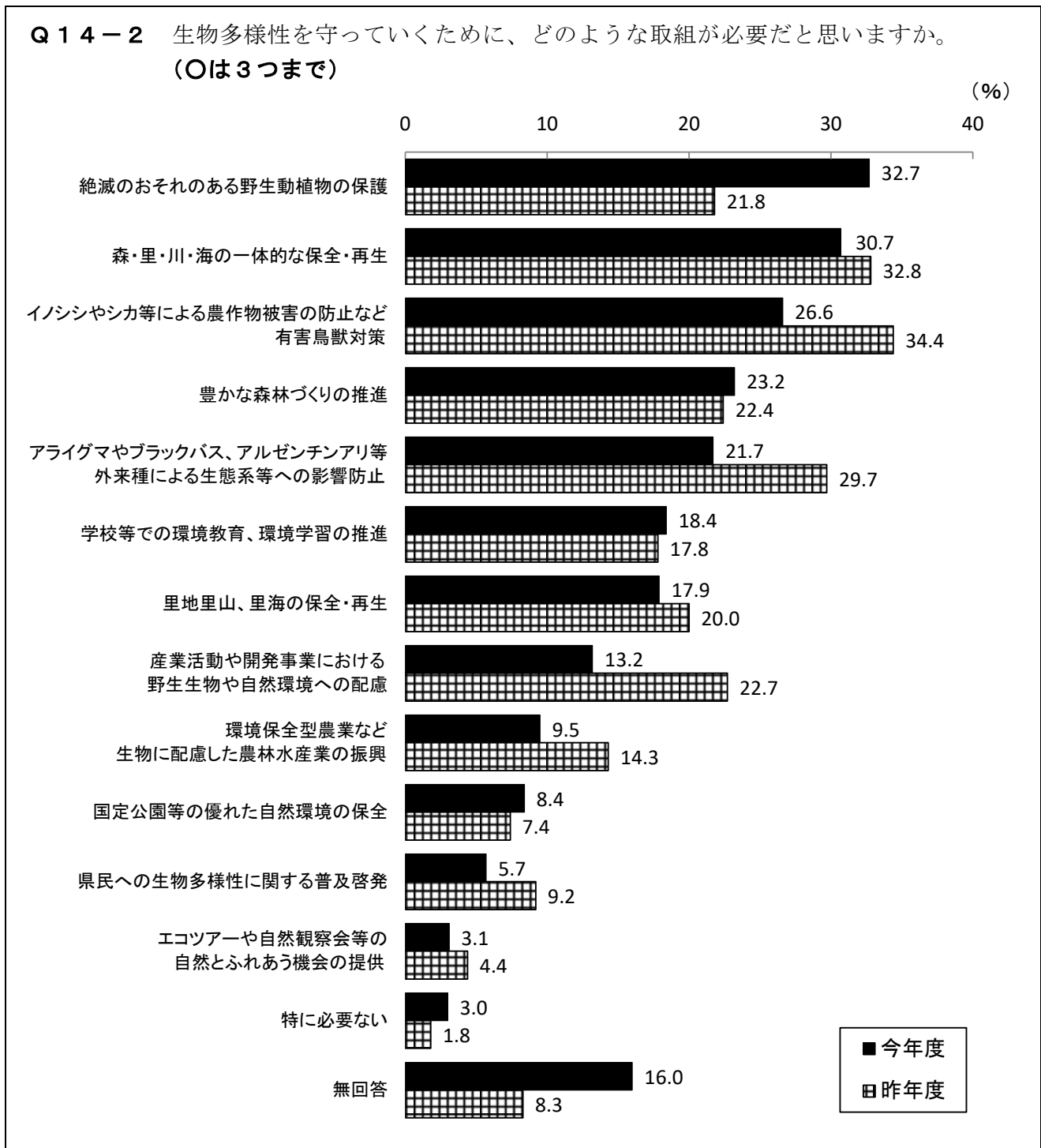
14-1. 「生物多様性」の認知状況

Q14-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「言葉の意味を知っている」が16.8%、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が42.2%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがある(計)』は59.0%となっている。また、「聞いたこともない」が16.5%、「わからない」が22.0%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがない(計)』は38.5%となっている。昨年度と比較すると、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が10.6ポイント上昇している。

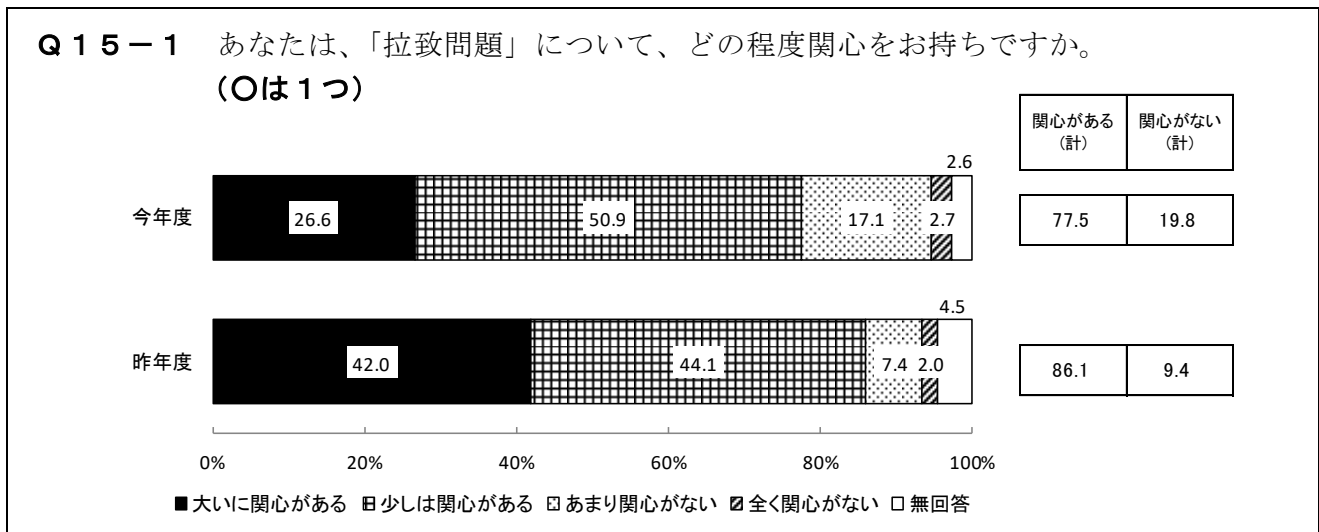
14-2. 生物多様性を守るために必要な取組



生物多様性を守るための必要な取組について、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が 32.7%と最も高く、次いで「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が 30.7%、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が 26.6%、「豊かな森林づくりの推進」が 23.2%、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が 21.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」は 10.9 ポイント上昇した一方、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」は 9.5 ポイント低下している。

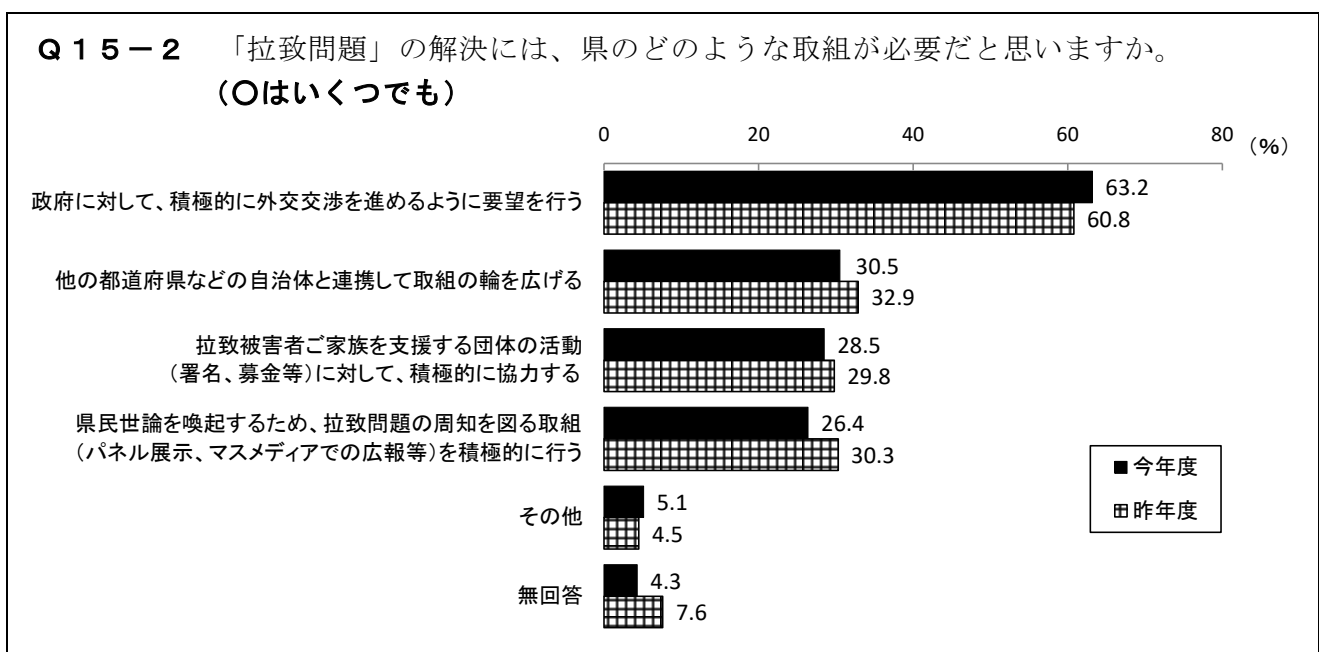
15. 拉致問題について

15-1. 「拉致問題」についての関心



「拉致問題」について、「大いに関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 77.5%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 19.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』が 8.6 ポイント低下、『関心がない (計)』が 10.4 ポイント上昇となっている。

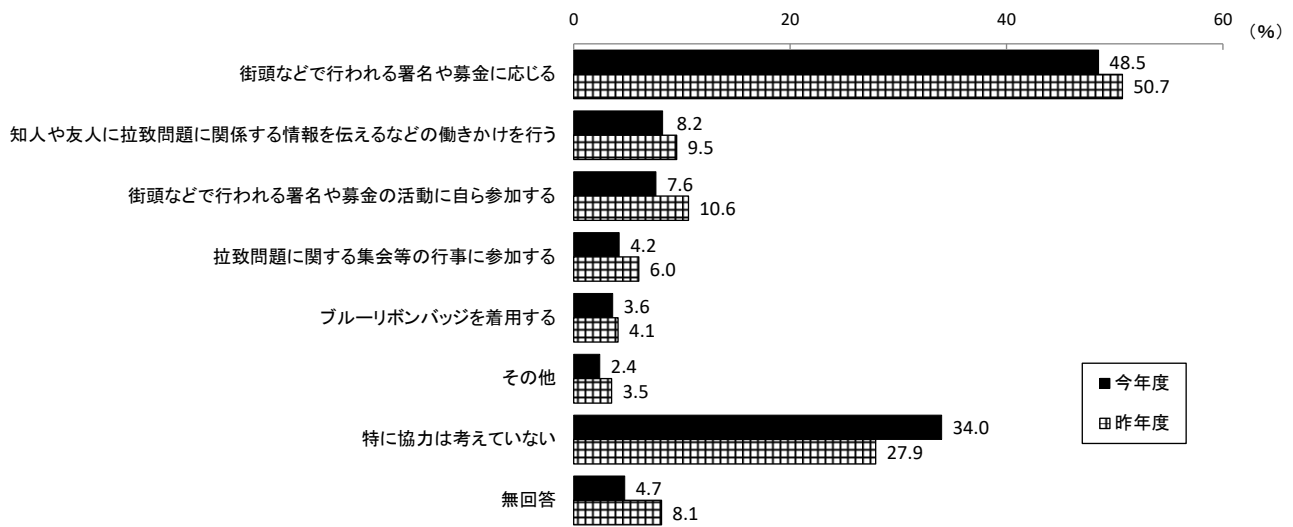
15-2. 「拉致問題」の解決のために必要な取組



「拉致問題」の解決のために必要な取組について、「政府に対して、積極的に外交交渉を進めるように要望を行う」が 63.2%と最も高く、次いで「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が 30.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「県民世論を喚起するため、拉致問題の周知を図る取組 (パネル展示、マスメディアでの広報等) を積極的に行う」が 3.9 ポイント低下している。

15-3. 「拉致問題」の解決に向けての今後の協力

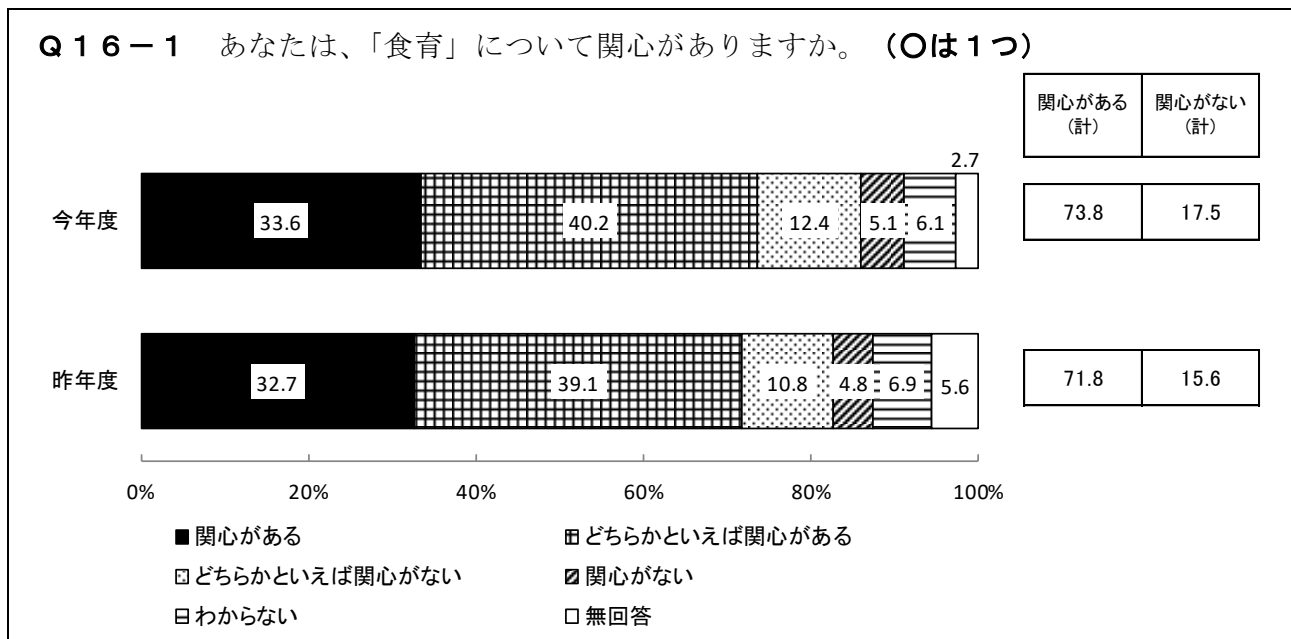
Q15-3 拉致問題の解決に向けて、あなたは、今後どのように協力していきたいですか。（〇はいくつでも）



「拉致問題」の解決に向けて今後協力していきたいことについて、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が48.5%と最も高く、次いで「知人や友人に拉致問題に関する情報を伝えるなどの働きかけを行う」が8.2%、「街頭などで行われる署名や募金の活動に自ら参加する」が7.6%、「拉致問題に関する集会等の行事に参加する」が4.2%、「ブルーリボンバッジを着用する」が3.6%の順となっている。また、「特に協力は考えていない」は34.0%となっており、昨年度と比較すると6.1ポイント上昇している。

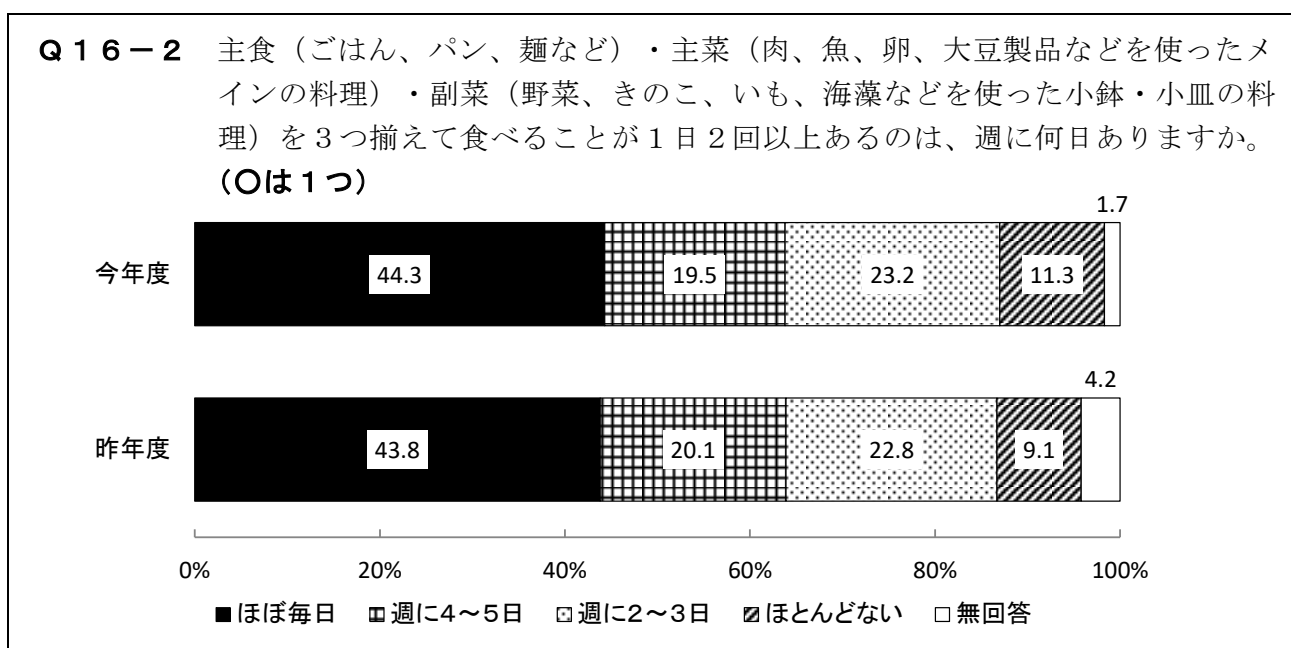
16. 食育について

16-1. 「食育」についての関心



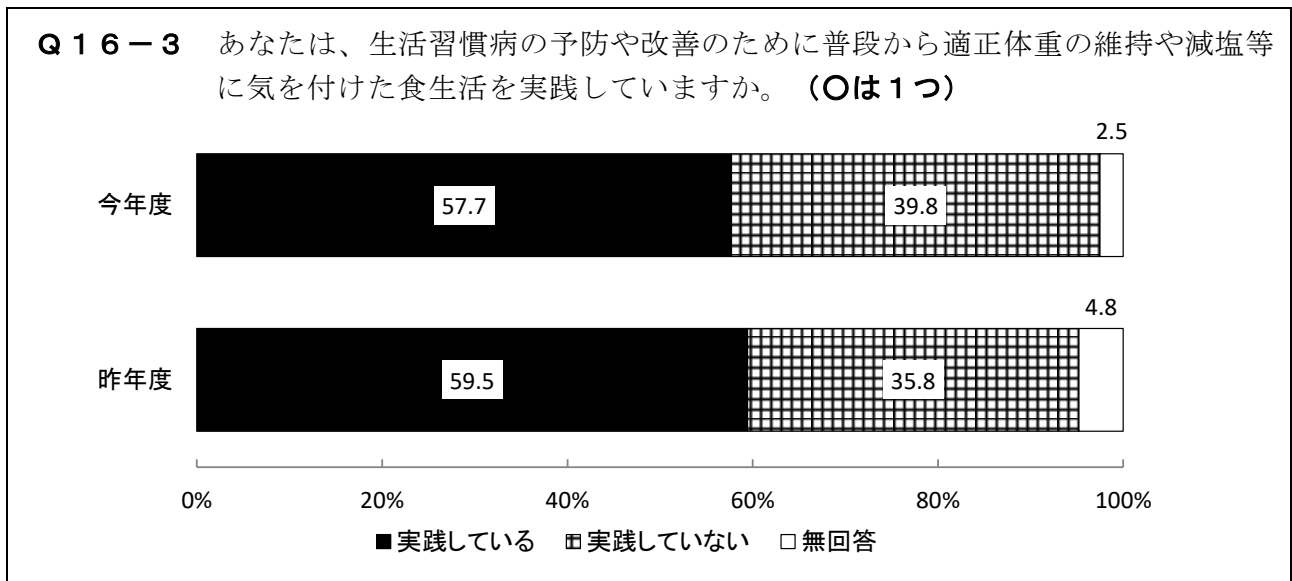
「食育」について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が73.8%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が17.5%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は2.0ポイント上昇、『関心がない (計)』も1.9ポイント上昇している。

16-2. 主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度



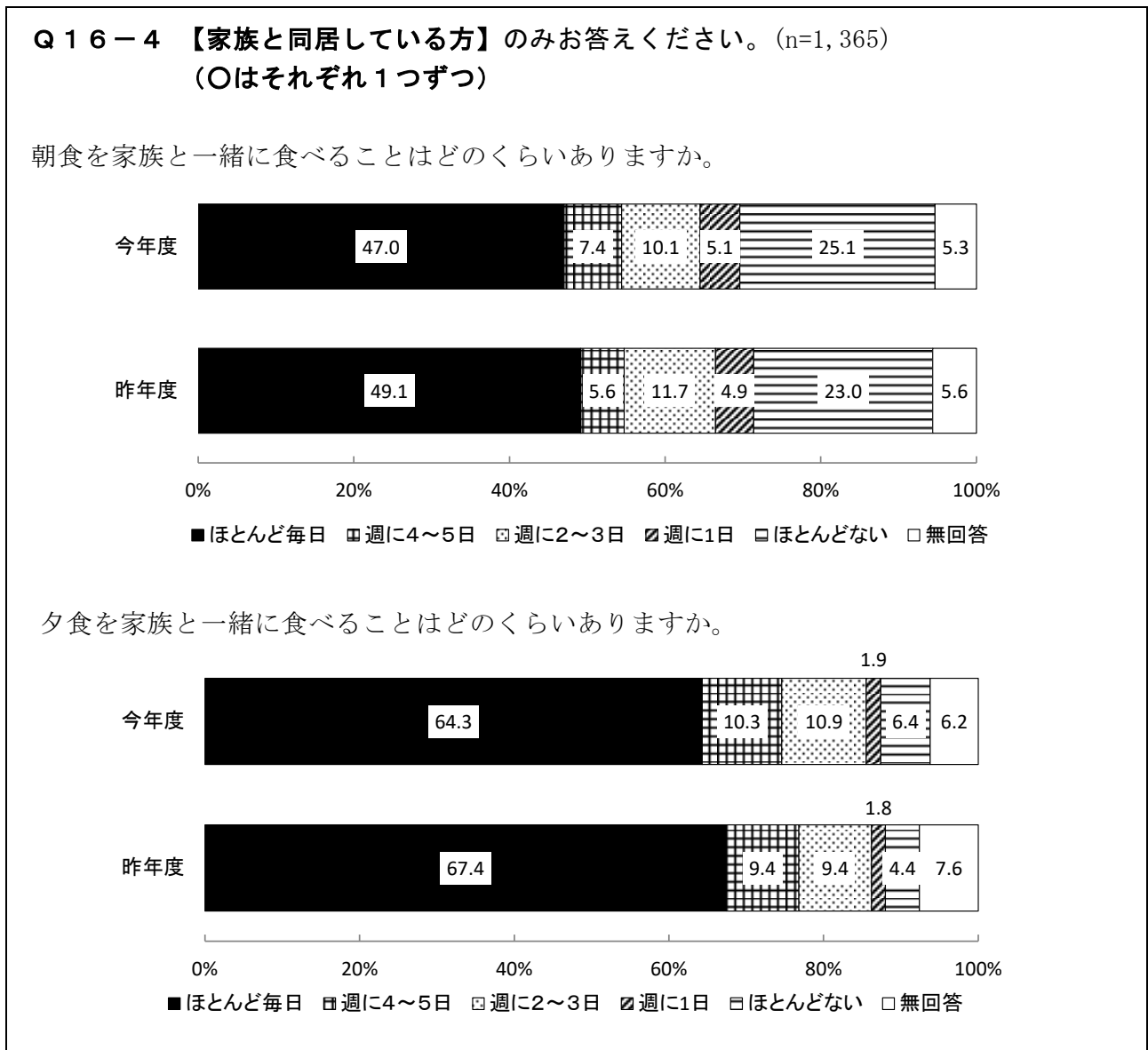
主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度は、「ほぼ毎日」が44.3%と最も高く、次いで「週に2~3日」が23.2%、「週に4~5日」が19.5%、「ほとんどない」が11.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「ほぼ毎日」は0.5ポイント上昇している。

16-3. 適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活の実践



適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活の実践について、「実践している」が57.7%、「実践していない」が39.8%と、実践している人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、「実践している」は1.8ポイント低下、「実践していない」は4.0ポイント上昇している。

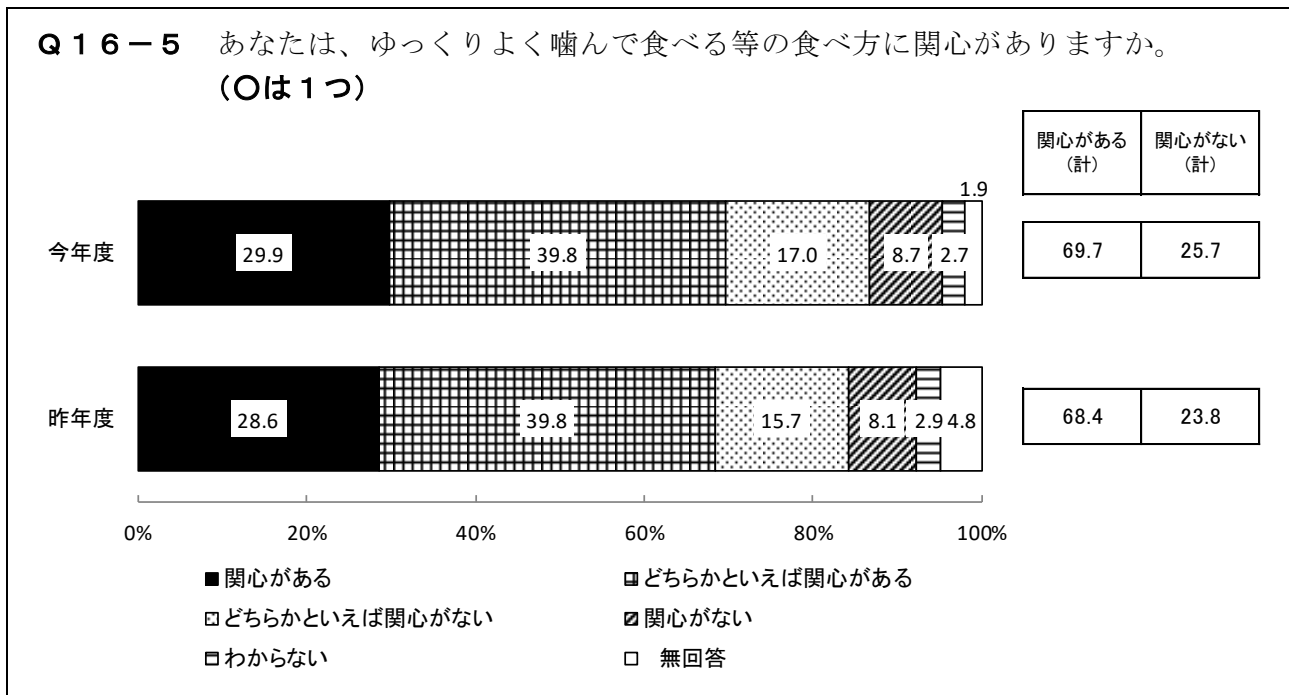
16-4. 家族と一緒に食事をする頻度



家族と同居している方に、家族と一緒に食事をする頻度について質問すると、朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日」が47.0%と最も高く、次いで「ほとんどない」が25.1%、「週に2~3日」が10.1%、「週に4~5日」が7.4%、「週に1日」が5.1%の順となっている。

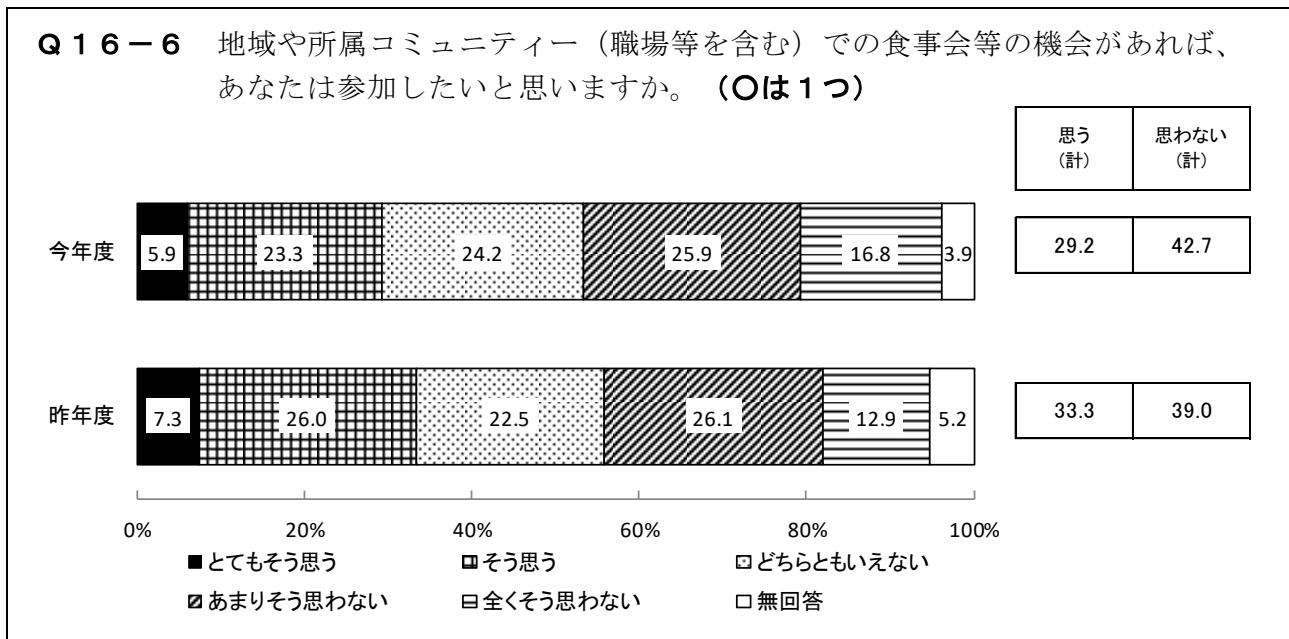
また、夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日」が64.3%と最も高く、次いで「週に2~3日」が10.9%、「週に4~5日」がそれぞれ10.3%、「ほとんどない」が6.4%、「週に1日」が1.9%の順となっている。

16-5. 食べ方への関心



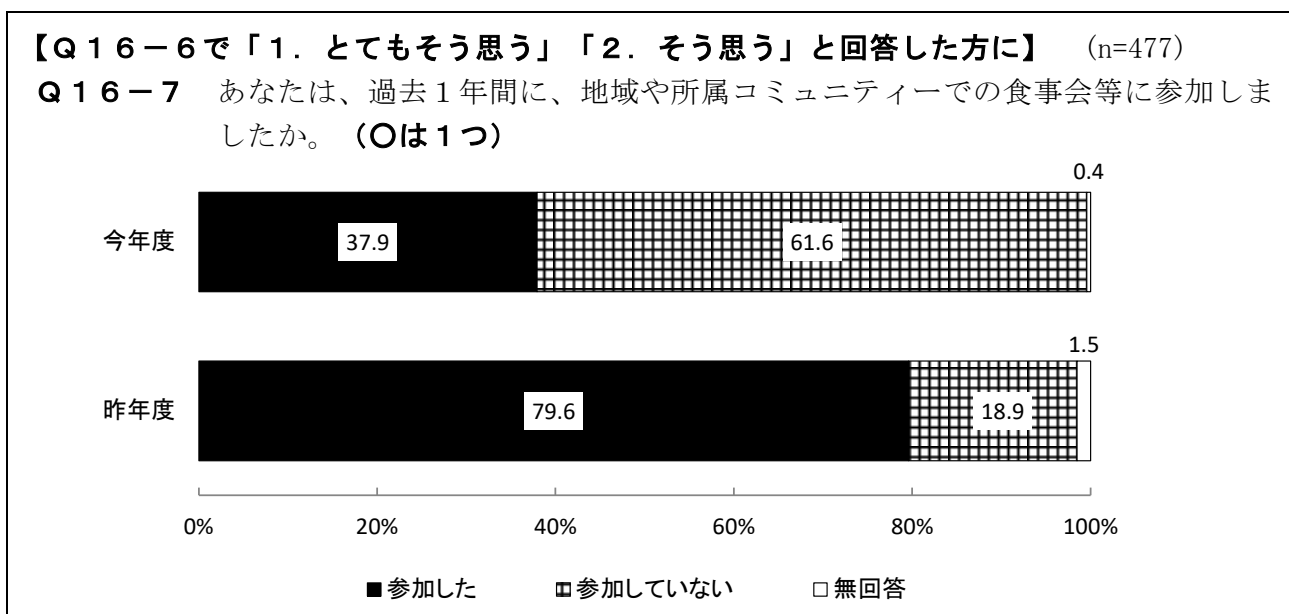
食べ方の関心について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 69.7%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 25.7%と、関心がある人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.3 ポイント上昇、『関心がない (計)』も 1.9 ポイント上昇している。

16-6. 地域や所属コミュニティでの食事会への参加希望



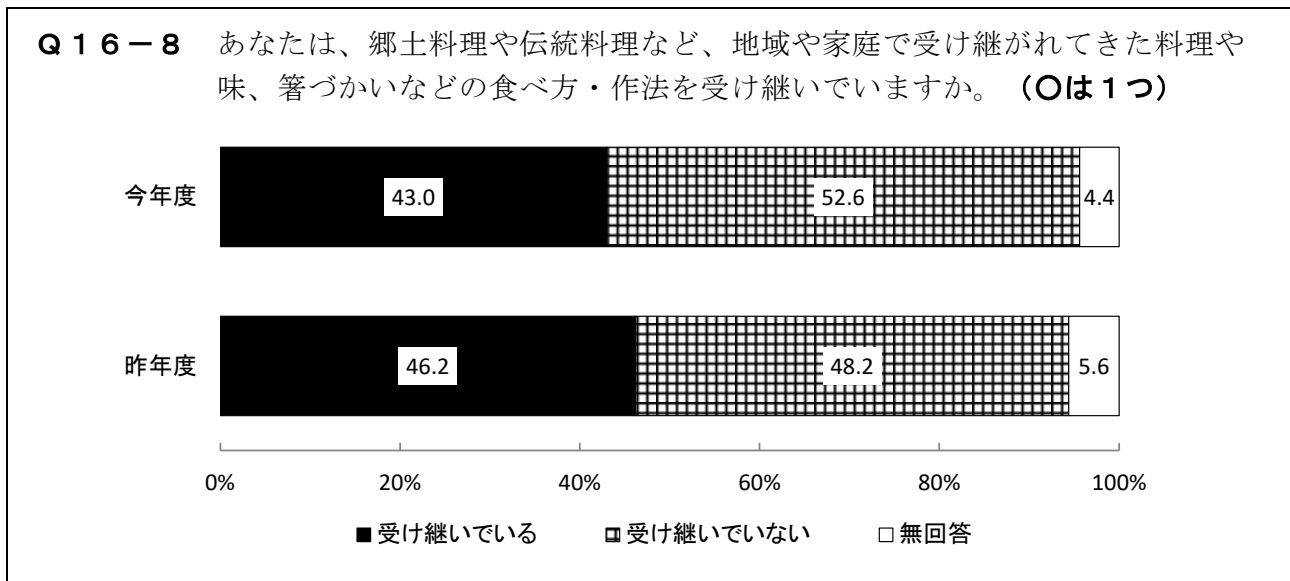
地域や所属コミュニティでの食事会への参加希望について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『思う（計）』が29.2%、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない（計）』が42.7%と、参加を希望しない人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『思う（計）』は4.1ポイント低下、『思わない（計）』は3.7ポイント上昇している。

16-7. 地域や所属コミュニティでの食事会への参加経験



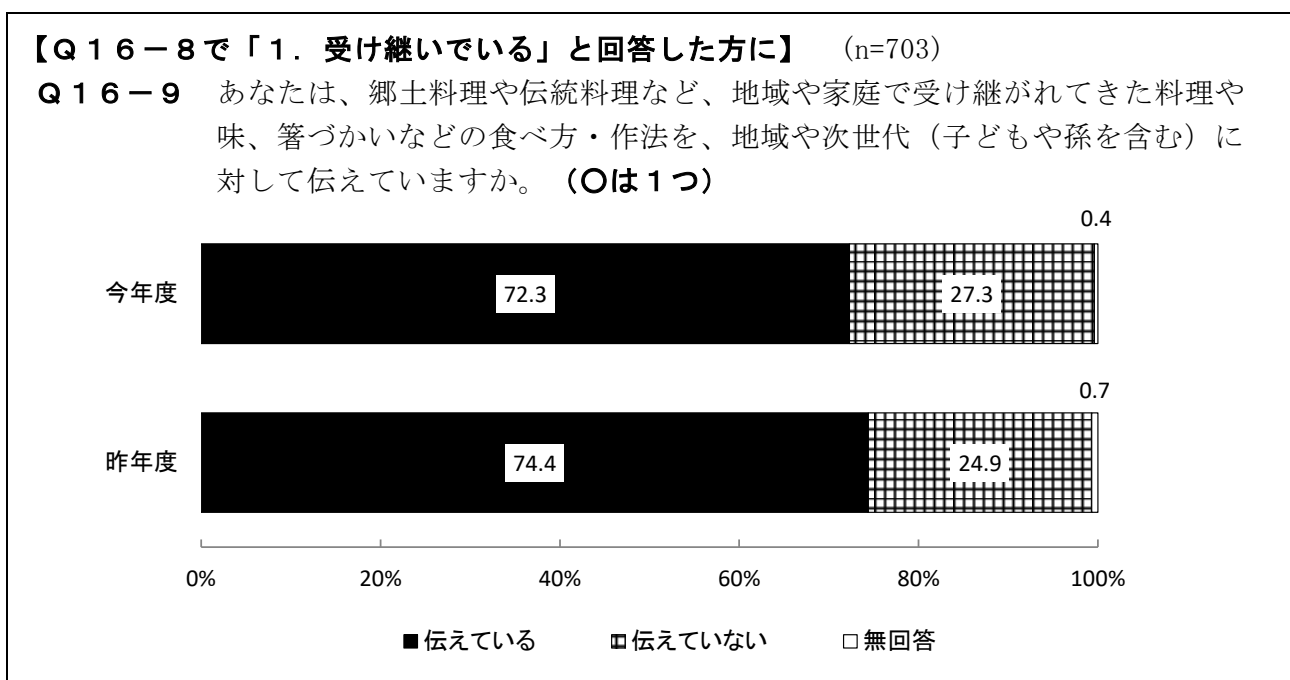
Q16-6で「1. とてもそう思う」「2. そう思う」と回答した方に、過去1年間の地域や所属コミュニティでの食事会への参加経験について質問すると、「参加した」が37.9%、「参加していない」が61.6%と、参加していない人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、「参加した」は41.7ポイント低下、「参加していない」は42.7ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響も受けているものと推察される。

16-8. 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の継承



地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の継承について、「継いでいる」が43.0%、「継いでいない」が52.6%と、継いでいない人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、「継いでいる」は3.2ポイント低下、「継いでいない」は4.4ポイント上昇している。

16-9. 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の次世代への継承



Q16-8で「1. 継いでいる」と回答した方に、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の次世代への継承について質問すると、「伝えている」が72.3%、「伝えていない」が27.3%と、伝えている人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、「伝えている」は2.1ポイント低下、「伝えていない」は2.4ポイント上昇している。

17. 山口県健康エキスパート薬剤師の認知度等について

県では、地域において積極的に薬学的な健康サポート※により、総合的に県民の皆さんの健康等ニーズに対応できる薬剤師の登録制度を行っています。(令和3年4月22日現在、158名が登録されています。)

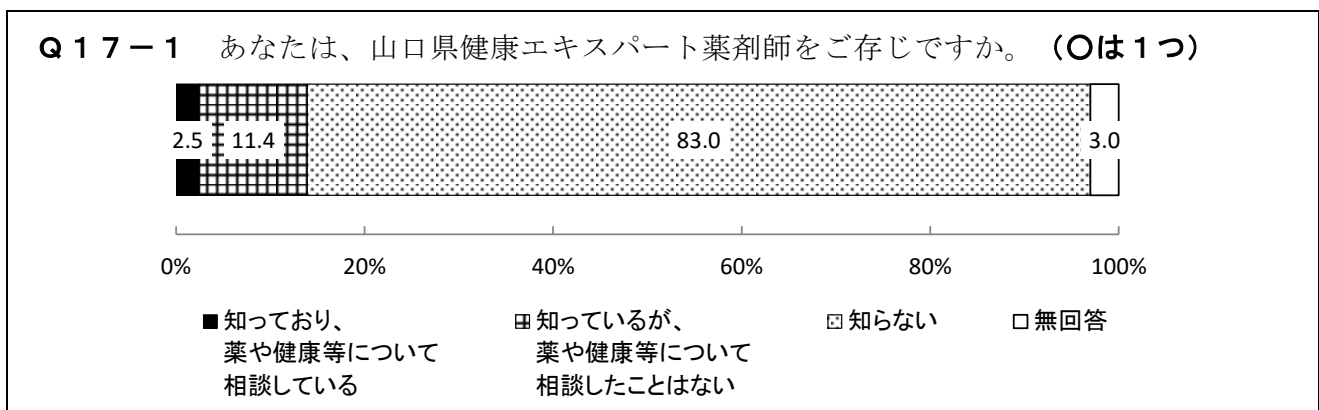
※薬学的な健康サポートとは

身近な薬局・薬剤師が、学術的な知識、経験などを活かした相談対応、県民が自ら行う健康管理への助言、受診勧奨などの総合的な支援を行うこと

◆山口県健康エキスパート薬剤師が実施している具体的な取組内容◆

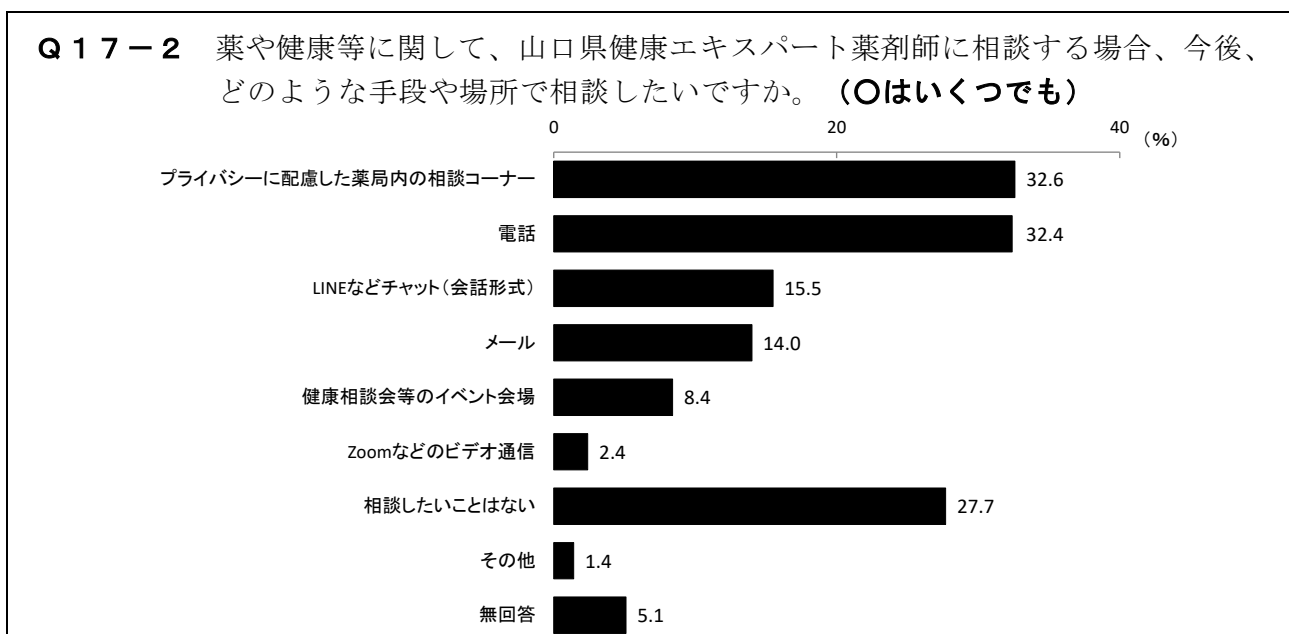
- ① 県民の皆さんの健康維持・増進のために健康サポートの取組支援
- ② 安心・安全な薬の使用のための支援
- ③ 関係機関との連携
- ④ 休日・夜間対応及び在宅医療への対応

17-1. 山口県健康エキスパート薬剤師の認知状況



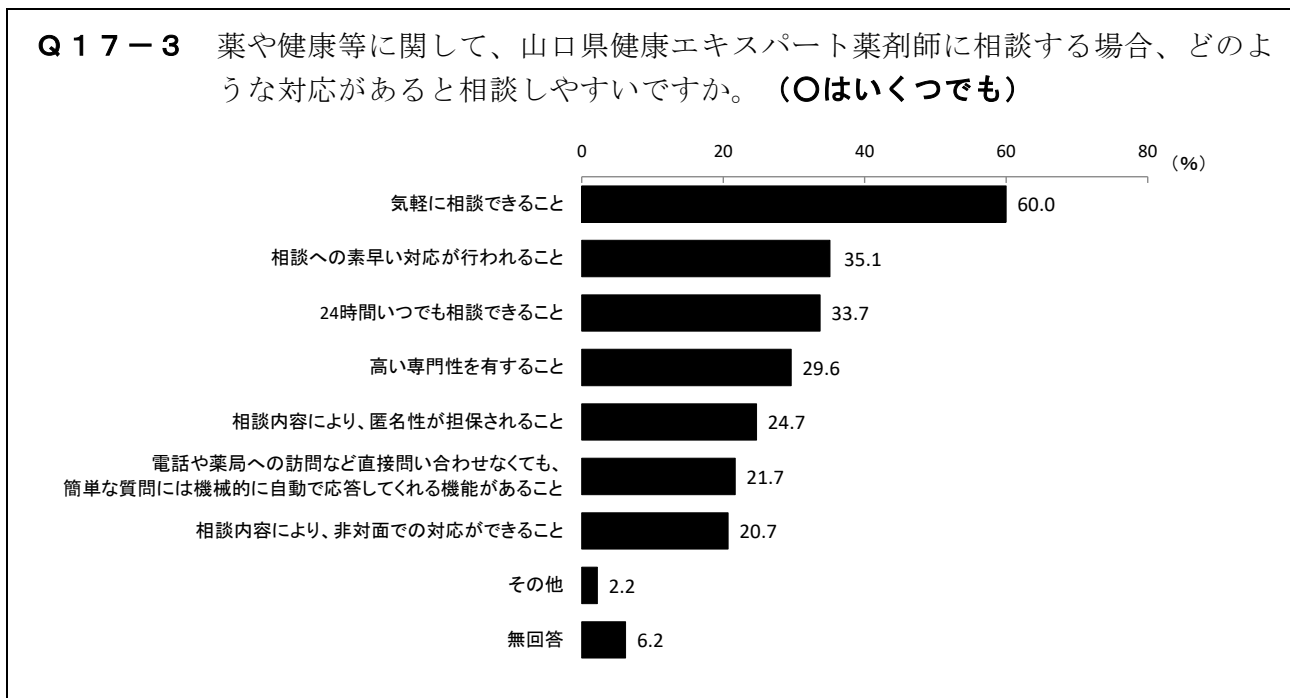
山口県健康エキスパート薬剤師の認知状況について、「知っており、薬や健康等について相談している」が2.5%、「知っているが、薬や健康等について相談したことはない」が11.4%、「知らない」が83.0%と知らない人が8割強を占めている。

17-2. 山口県健康エキスパート薬剤師に希望する相談手段・場所



山口県健康エキスパート薬剤師に希望する相談手段・場所について、「プライバシーに配慮した薬局内の相談コーナー」が 32.6%と最も高く、次いで「電話」が 32.4%、「LINE などチャット（会話形式）」が 15.5%、「メール」が 14.0%、「健康相談会等のイベント会場」が 8.4%、「Zoom などのビデオ通信」が 2.4%の順となっている。一方で「相談したいことはない」は 27.7%となっている。

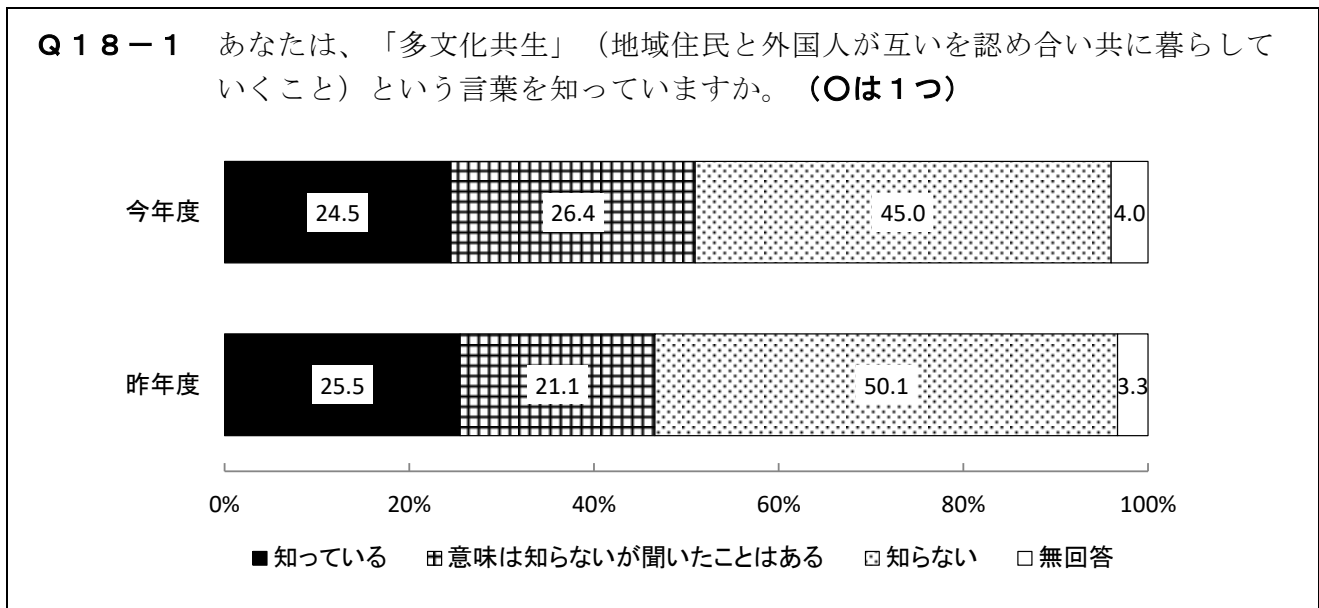
17-3. 山口県健康エキスパート薬剤師相談に希望する対応



山口県健康エキスパート薬剤師相談に希望する対応について、「気軽に相談できること」が 60.0%と最も高く、次いで「相談への素早い対応が行われること」が 35.1%、「24 時間いつでも相談できること」が 33.7%、「高い専門性を有すること」が 29.6%、「相談内容により、匿名性が担保されること」が 24.7%、「電話や薬局への訪問など直接問い合わせなくとも、簡単な質問には機械的に自動で応答してくれる機能があること」が 21.7%、「相談内容により、非対面での対応ができること」が 20.7%の順となっている。

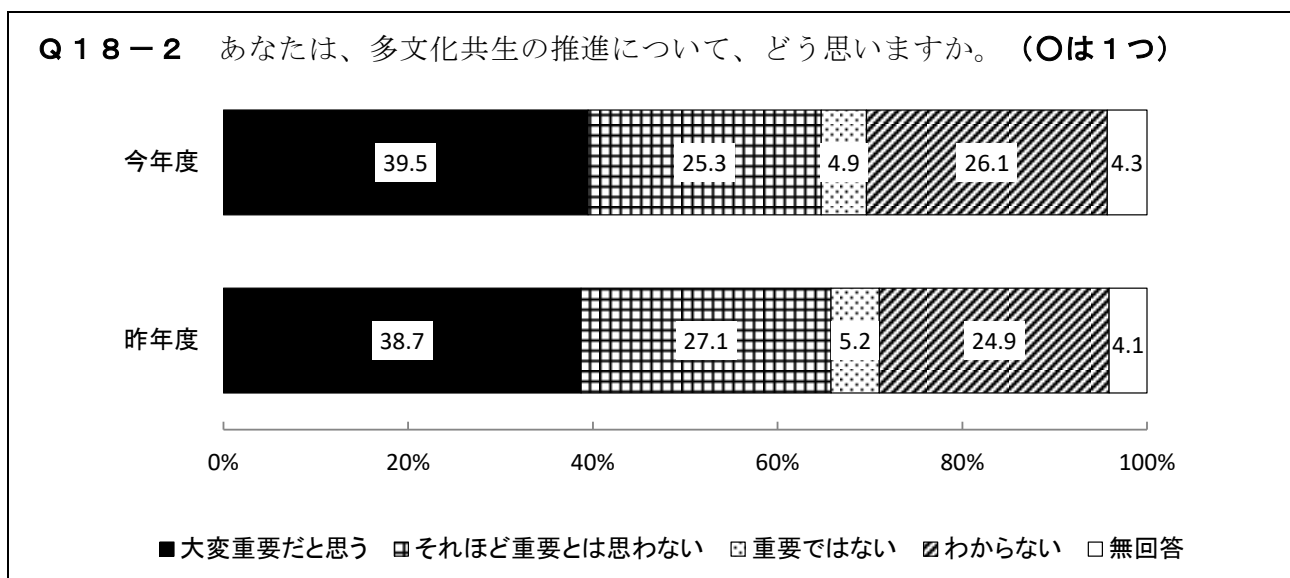
18. 多文化共生について

18-1. 多文化共生の認知度



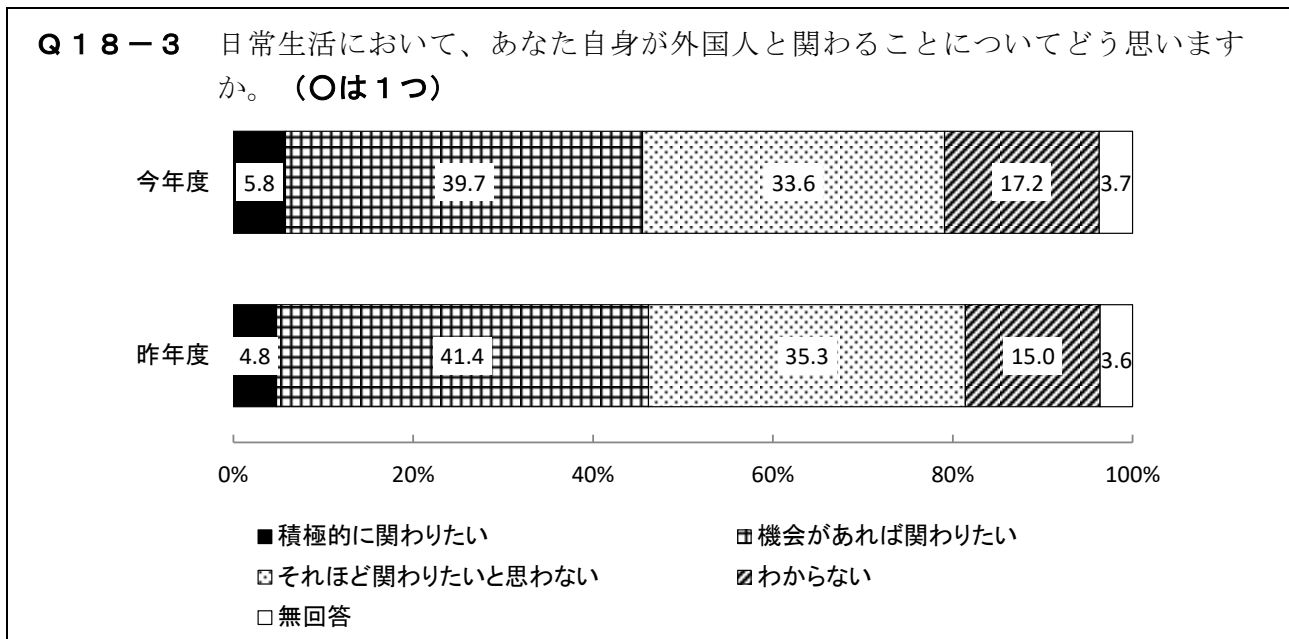
多文化共生の認知度について、「知らない」が45.0%で最も高く、次いで「意味は知らないが聞いたことはある」が26.4%、「知っている」が24.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」は1.0ポイント、「知らない」は5.1ポイントそれぞれ低下しており、「意味は知らないが聞いたことはある」は5.3ポイント上昇している。

18-2. 多文化共生の推進



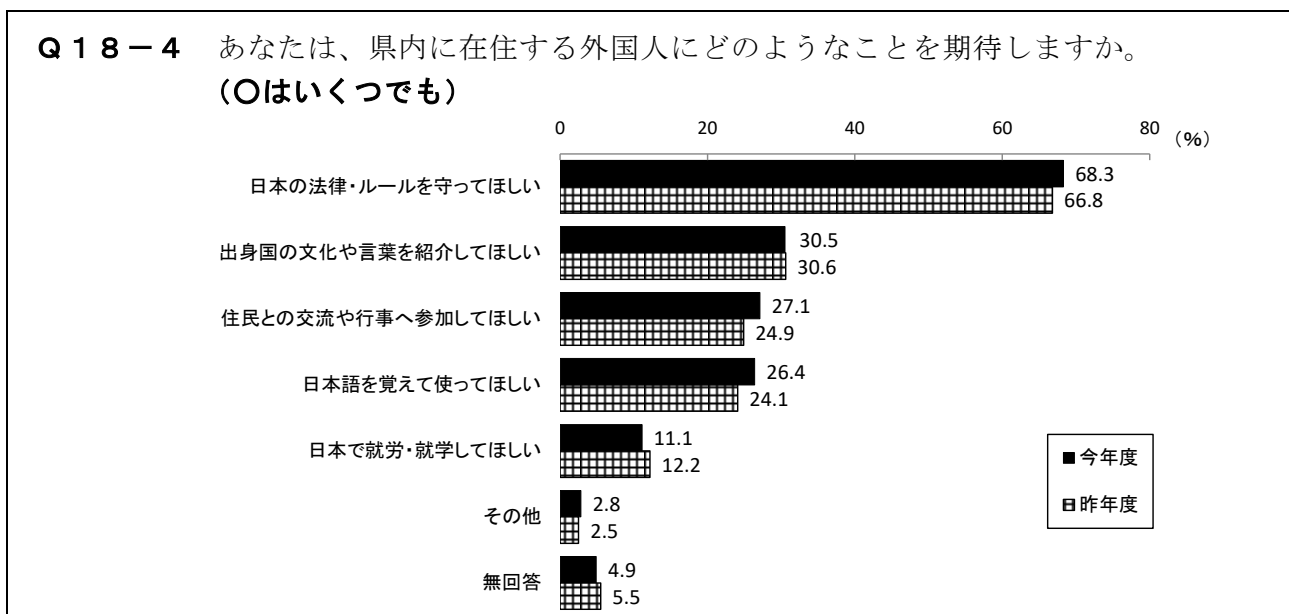
多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が39.5%で最も高く、次いで「わからない」が26.1%、「それほど重要とは思わない」が25.3%、「重要ではない」が4.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「大変重要だと思う」が0.8ポイント上昇し、「それほど重要とは思わない」が1.8ポイント、「重要ではない」が0.3ポイントそれぞれ低下している。

18-3. 日常生活で外国人と関わることについて



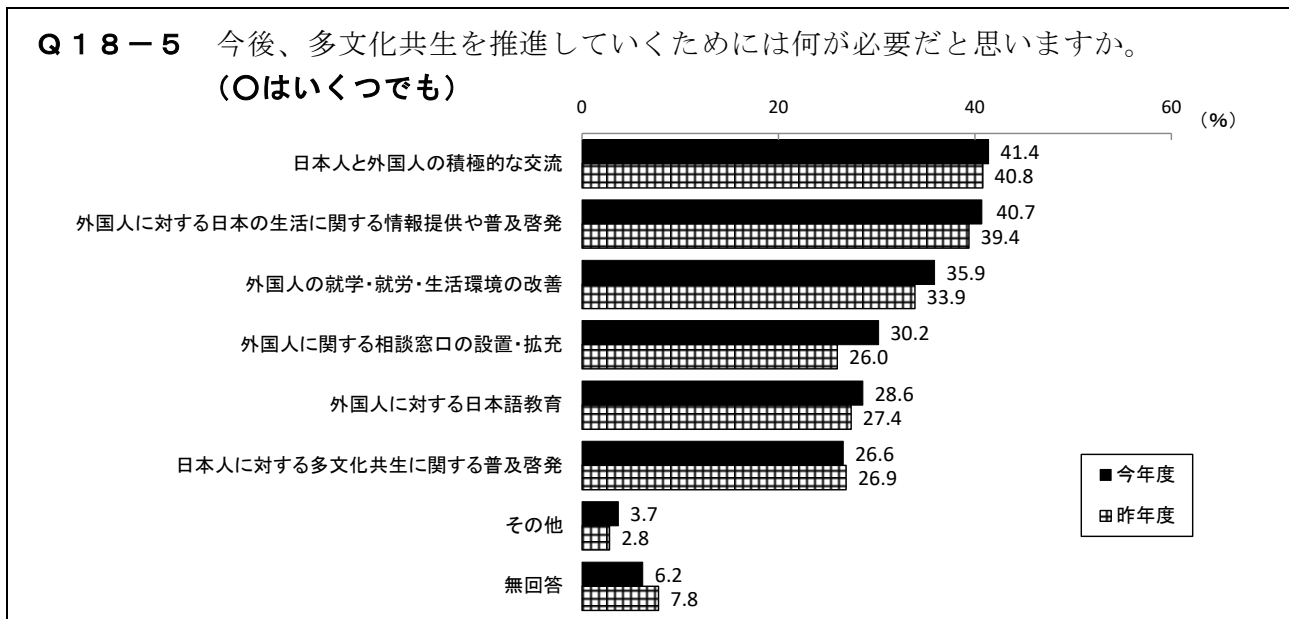
日常生活で外国人と関わることについて、「機会があれば関わりたい」が39.7%で最も高く、次いで「それほど関わりたいと思わない」が33.6%、「わからない」が17.2%、「積極的に関わりたい」が5.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「積極的に関わりたい」が1.0ポイント上昇し、「機会があれば関わりたい」が1.7ポイント、「それほど関わりたいと思わない」が1.7ポイントそれぞれ低下している。

18-4. 県内在住の外国人へ期待すること



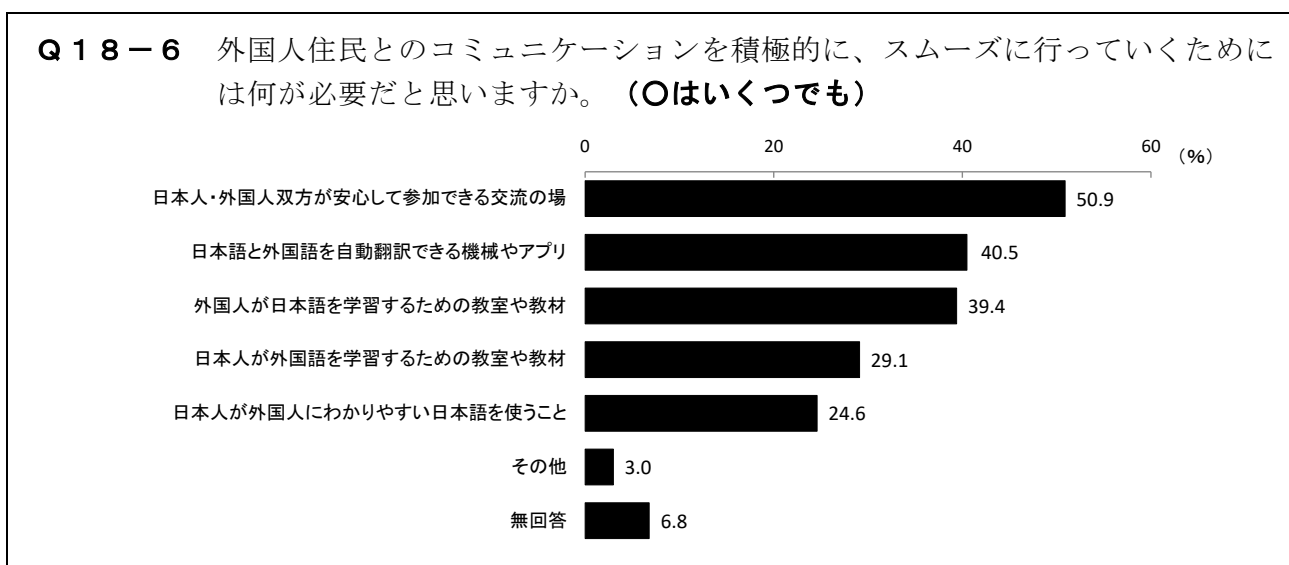
県内在住の外国人へ期待することについて、「日本の法律・ルールを守ってほしい」が68.3%で最も高く、次いで「出身国の文化や言葉を紹介してほしい」が30.5%、「住民との交流や行事へ参加してほしい」が27.1%、「日本語を覚えて使ってほしい」が26.4%、「日本で就労・就学してほしい」が11.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「日本語を覚えて使ってほしい」が2.3ポイント、「住民との交流や行事へ参加してほしい」が2.2ポイントそれぞれ上昇している。

18-5. 多文化共生を推進していくために必要なこと



多文化共生を推進していくために必要なことについて、「日本人と外国人の積極的な交流」が41.4%で最も高く、次いで「外国人に対する日本の生活に関する情報提供や普及啓発」が40.7%、「外国人の就学・就労・生活環境の改善」が35.9%、「外国人に関する相談窓口の設置・拡充」が30.2%、「外国人に対する日本語教育」が28.6%、「日本人に対する多文化共生に関する普及啓発」が26.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「外国人に関する相談窓口の設置・拡充」が4.2ポイント、「外国人の就学・就労・生活環境の改善」が2.0ポイントそれぞれ上昇している。

18-6. 外国人住民とのコミュニケーションを行っていくために必要なこと



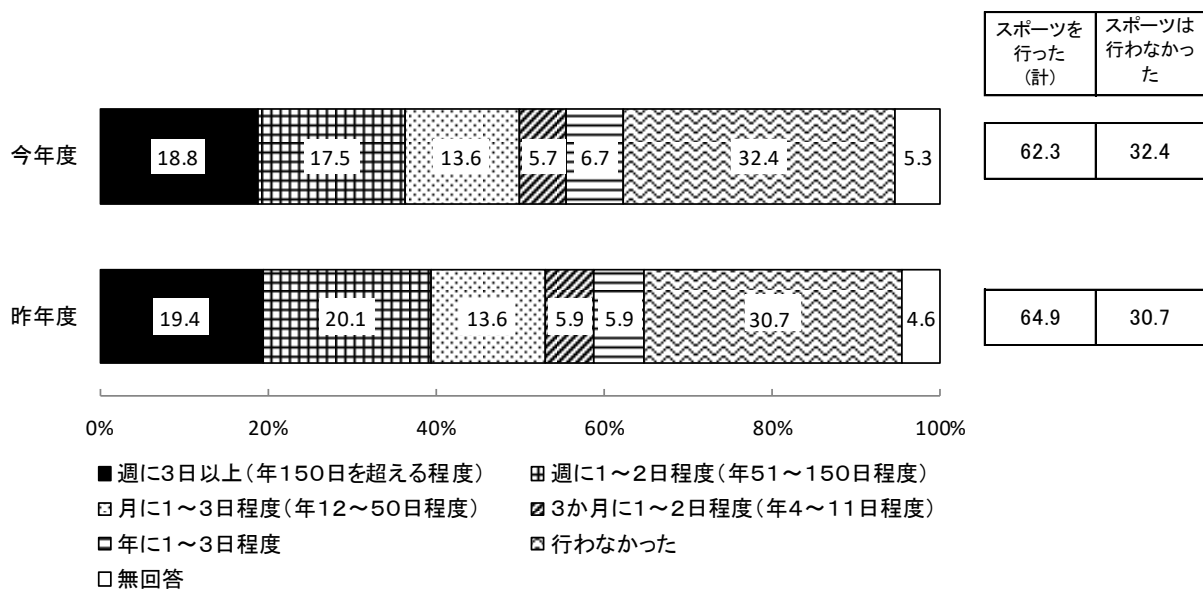
外国人住民とのコミュニケーションを行っていくために必要なことについて、「日本人・外国人双方が安心して参加できる交流の場」が50.9%で最も高く、次いで「日本語と外国語を自動翻訳できる機械やアプリ」が40.5%、「外国人が日本語を学習するための教室や教材」が39.4%、「日本人が外国語を学習するための教室や教材」が29.1%、「日本人が外国人にわかりやすい日本語を使うこと」が24.6%の順となっている。

19. 運動・スポーツの実施状況について

19-1. 運動・スポーツの実施頻度

Q19-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。
(〇は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウインタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます

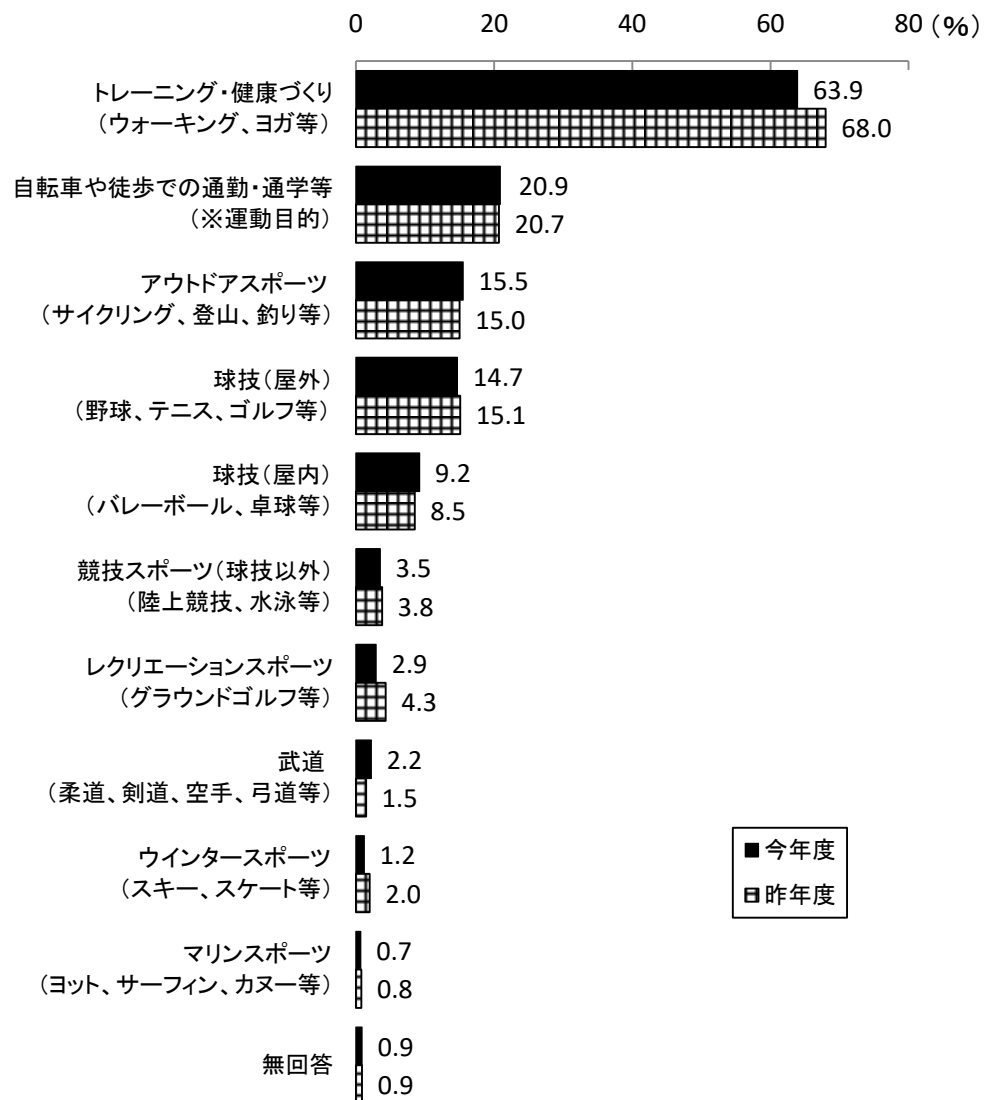


運動・スポーツの実施頻度について質問すると、「行わなかった」が32.4%となっており、昨年度と比較して1.7ポイント上昇している。次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」が18.8%、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が17.5%となっている。

19-2. どのような運動・スポーツを行ったか

【Q19-1で「1~5. 行った」と回答した方に】 (n=1,019)

Q19-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)

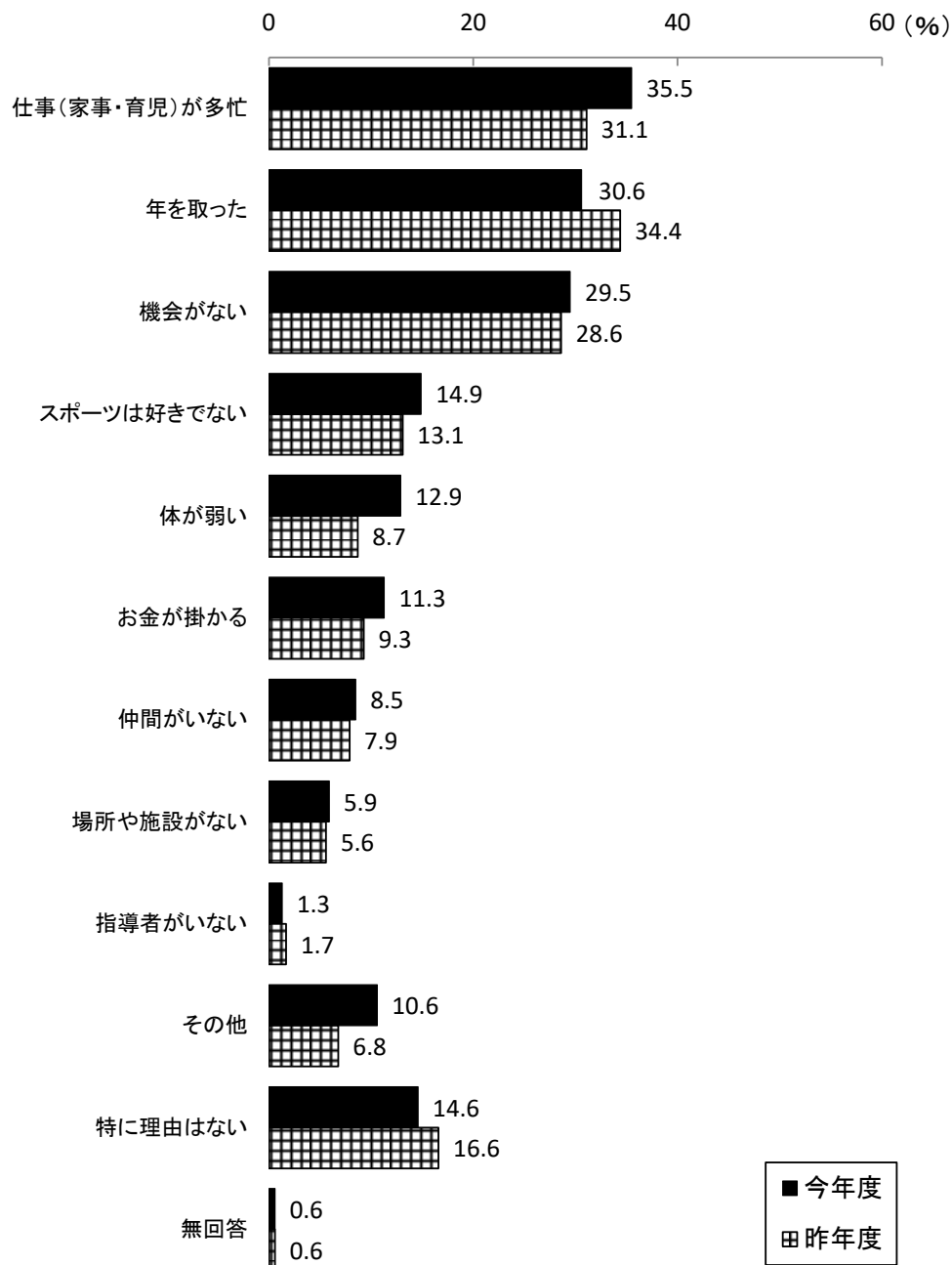


Q19-1で「行った」と回答した人に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり」が63.9%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等」が20.9%、「アウトドアスポーツ」が15.5%、「球技(屋外)」が14.7%の順となっている。

19-3. 運動・スポーツを行わなかった理由

【Q19-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=529)

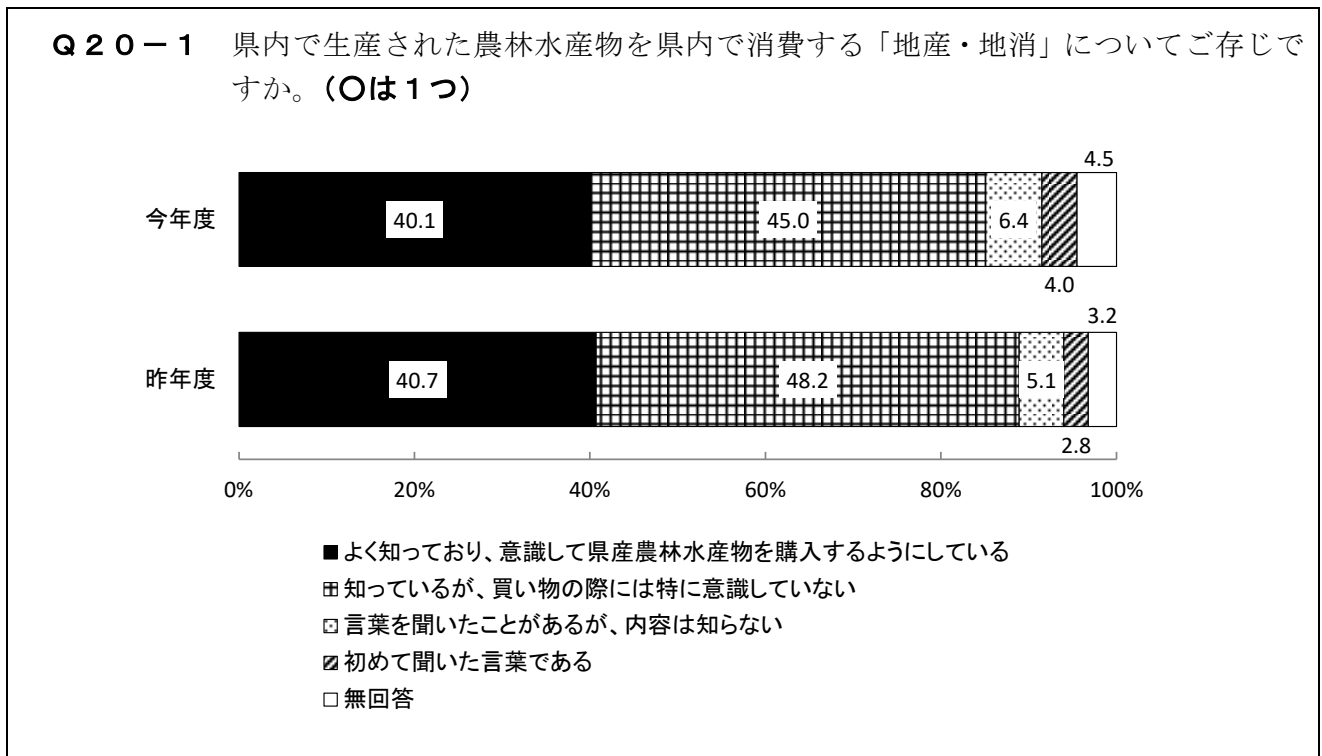
Q19-3 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)



Q19-1で「行わなかった」と回答した人に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事(家事・育児)が多忙」が35.5%で最も高く、次いで「年を取った」が30.6%、「機会がない」が29.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「年を取った」が3.8ポイント低下したが、「仕事(家事・育児)が多忙」が4.4ポイント、「体が弱い」が4.2ポイントそれぞれ上昇している。

20. 地産・地消の推進について

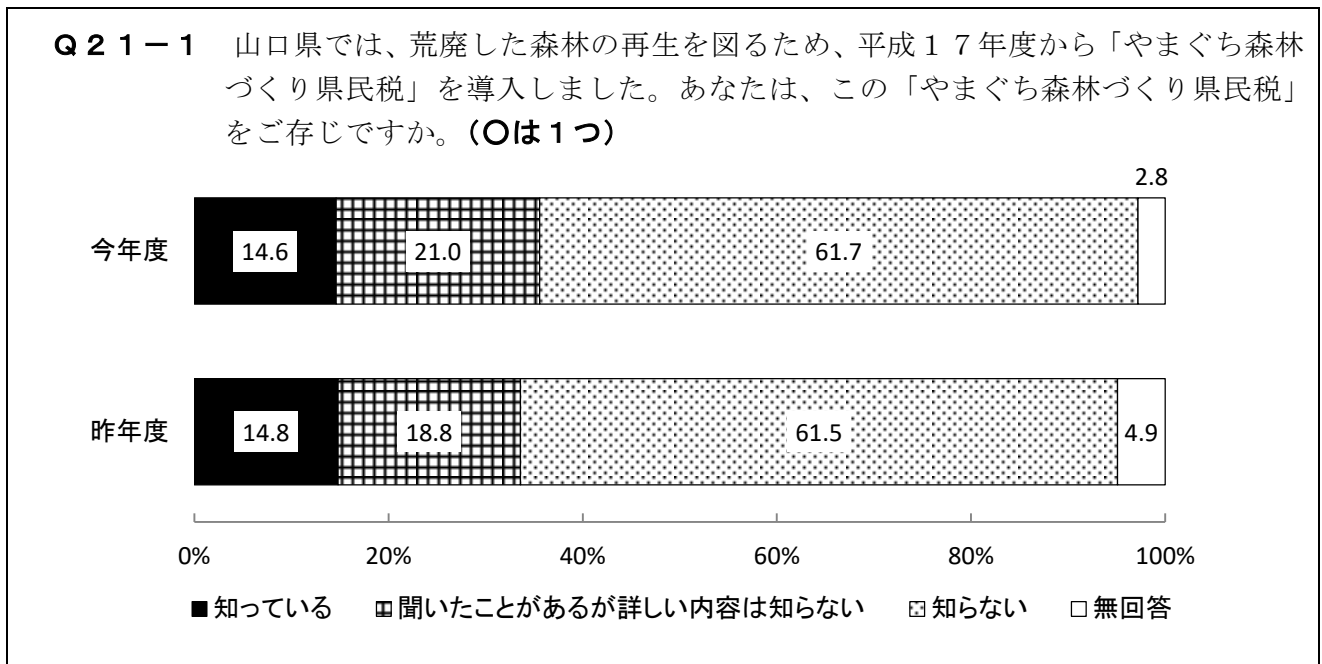
20-1. 「地産・地消」の認知状況



「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が45.0%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が40.1%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が6.4%、「初めて聞いた言葉である」が4.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が3.2ポイント低下し、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が1.3ポイント上昇している。

2 1. 「やまぐち森林づくり県民税」について

2 1 - 1. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

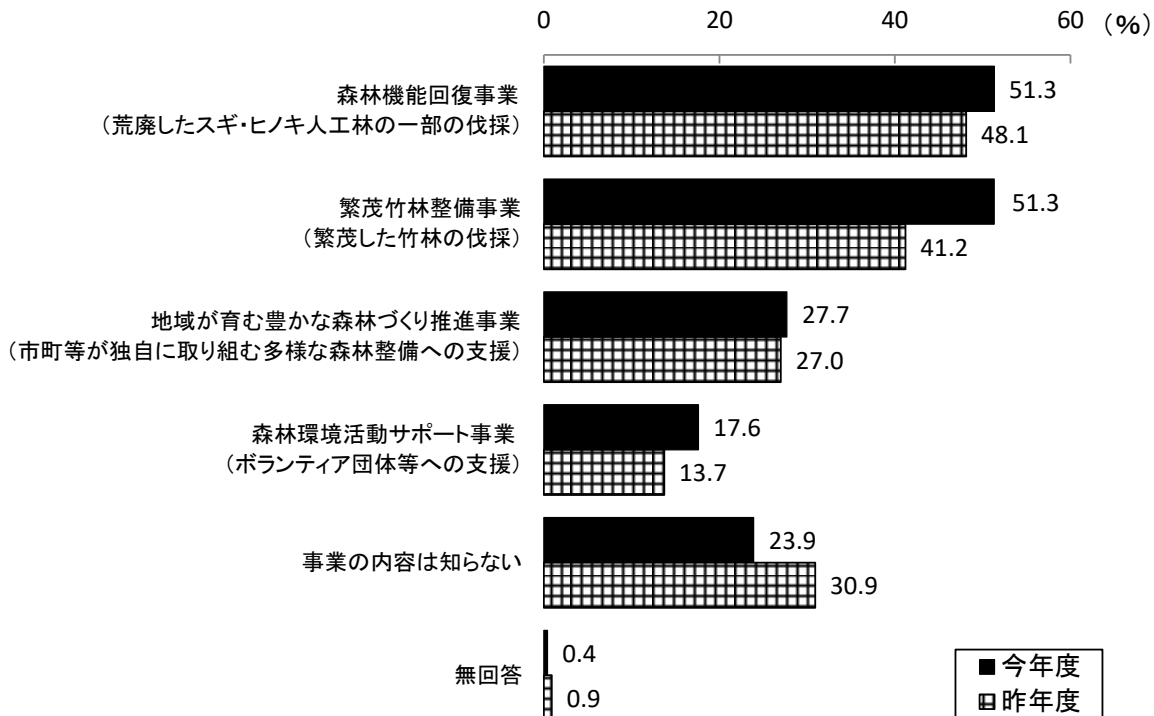


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知っている」が 14.6%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が 21.0%、「知らない」が 61.7%となっている。昨年度と比較すると、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が 2.2 ポイント上昇している。

21-2. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q21-1で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=238)

Q21-2 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

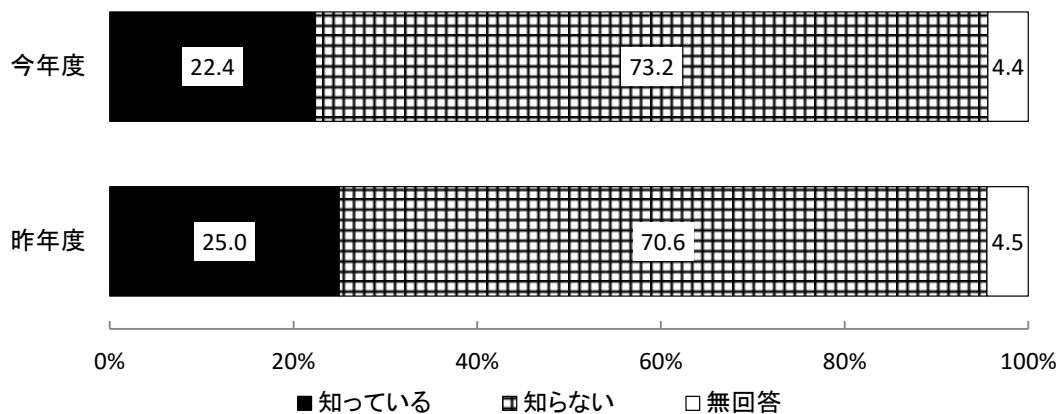


Q21-1で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」及び「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」がいずれも51.3%と最も高く、次いで「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が27.7%、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」が17.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」は10.1ポイント上昇し、「事業の内容は知らない」は7.0ポイント低下している。

2 2. コミュニティ・スクールについて

2 2-1. コミュニティ・スクールの認知状況

Q 2 2-1 山口県では、すべての公立小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みが導入されており、保護者や地域住民の声を生かした「地域とともにある学校づくり」を推進しています。あなたは、校区の小中学校が「コミュニティ・スクール」であることをご存じですか。（○は1つ）

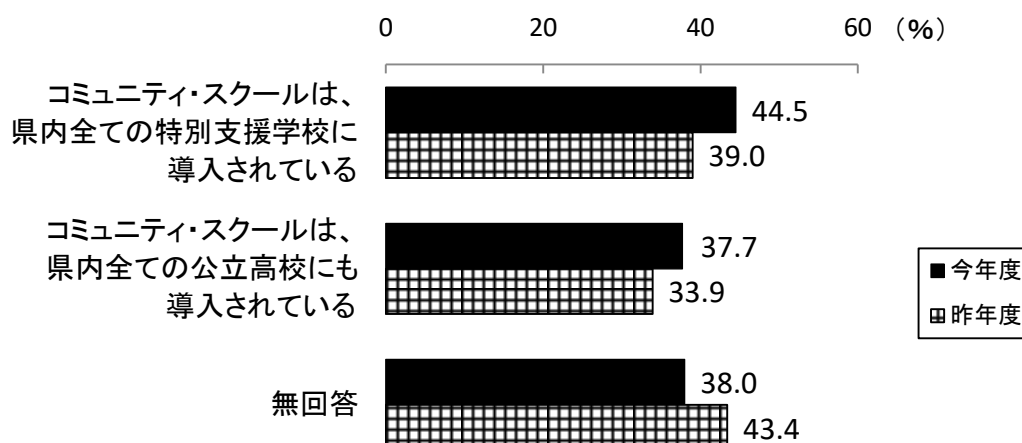


コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」が22.4%となっており、昨年度と比較すると、2.6ポイント低下している。

2 2-2. コミュニティ・スクールについて知っていること

【Q 2 2-1で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=366)

Q 2 2-2 「コミュニティ・スクール」について以下のことをご存じでしたら○をつけてください。（複数回答可）



Q 2 2-1で、「コミュニティ・スクールについて知っている」と回答した人のうち、「県内全ての特別支援学校に導入されていることを知っている」と答えた人は、44.5%であった。